Vol.73 通巻849号　平成4年12月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

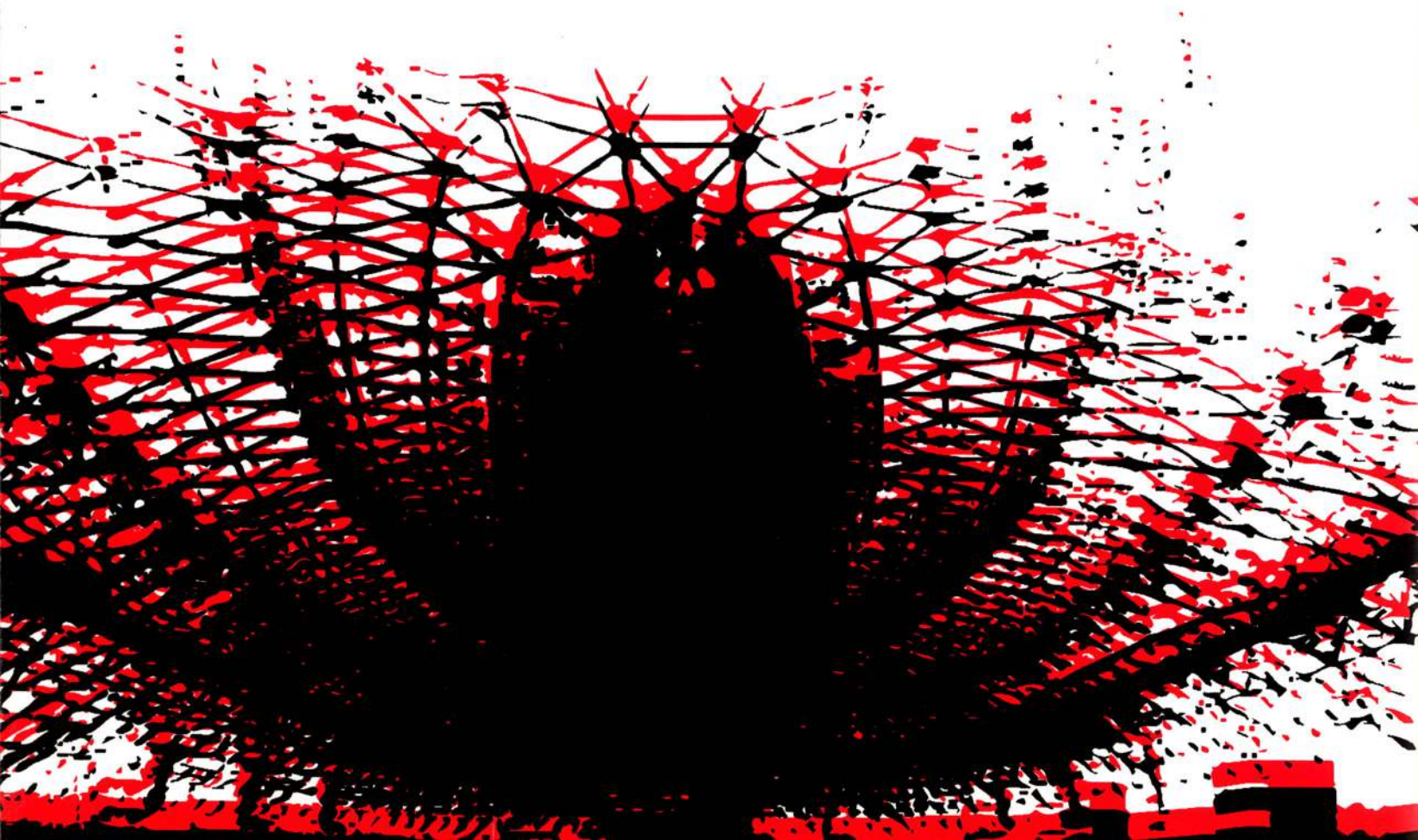
1992

12

特集

京のかたちと色—京都支部創設45周年記念—

日本建築協会





空　間　無　限

太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

1917創刊
1992
73集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

「建築と社会」12月号表紙

デザイン・白子正人
（グラフィックデザイナー 日本タイポグラフィ協会会員）

２年間制作させていただいたこの表紙も、本号で最終回となる。毎月すばらしい建築物に出合えることは私の楽しみでありました。特に今年一年は、アップル社のマッキントッシュを使用することで非常にスムーズに、自由に制作ができました。作品をお貸しいただいた建築家、写真家の方々、ありがとうございました。

12月号のモチーフは滋賀県立長浜ドーム。カラーは"Rouge ardent"燃える火の色。

12 通巻 **849**

■特集予告

1月号／第39回青年技術者 東畑建築事務所60周年

2月号／大阪府営繕

会　長　佐野正一
副会長　金多　潔・薬袋公明
　　市川　宏・鴻池藤一
　　三品哲夫

編集委員会（平成４年度）

■編集理事
井上　豊
金井　弘次
川島　繁三
小島　雄
須賀　好富
竹中　錬一
深江　實
松村　慶三
⊙溝神宏至朗
若山　繁

■編集顧問
東　孝光

■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
梅村　宏尚
河端　秀直
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
林　輝行
松川　敏正
山尾　弘子
横関　真紀
○吉村　英祐
☆建築計画系
石山　道男
磯村千恵子
上杉　秀隆
江副　敏史
菅野　忠司
○北村　潤
黒川　明彦
※佐藤不二男
塚本　史郎
刃金　国男
山本　匡
吉羽　逸郎
☆インテリア・住宅系
大森　智子
大橋眞由美
加藤　力
角方　利幸
神谷　剛
北浦かほる
駒田　哲男
中村　孝之
※西川　純一
○福田　由利
★構造分科会
和泉　一義
岡本　達雄
亀井　功
黒木　安男
竹野　富夫
築谷　朋也
○二宮　利治
西　邦弘
西村　泰志
馬場　研介
養輪　幸男
★設備分科会
石沢　重治
遠藤　進
大田　克彦
○梶井　宏修
河津　隆之
伊達　正雄
田ノ畑好幸
村上幸三郎
★施工材料分科会
有光　利治
○植田　実
加藤　眞
小椎八重猛
志水　史典
村上　信直
★法令分科会
乾　康雄
○岩田　純一
樫田　攻
熊田　典彦
高見　成志
中島　弘志

■作品作風小委員会
遠藤　公介
小笠原絵理
尾崎　久純
岡本　隆
川上比奈子
桜井　俊郎
田中　均一
富田　昌義
藤城　義丈
※前川　治彦
前田　幸宏
○松田　善弘
松村　衛
水川　尚彦
宮地雄一郎

■会員企画小委員会
伊藤　郁郎
※稲木　裕子
大沢　智弘
グレッグ・ホール
小板橋鉄雄
※佐伯由紀子
佐野　洋
坂田　耕一
高田　光雄
○高橋　麗子
塚口　明洋
増渕　昌利
松石　千秋
森本　幸治
山嵜　章子

■広告企画小委員会
※池渕　俊男
上井　善一
尾崎　英直
勝　一弘
衣川　徳好
○佐野　寛志
原田　常介
藤田　孝吉
山下　修司

■支部担当編集委員
（京都）井手　正已
（中国）平本　俊秋
（東海）中島　一
（北海道）黒田征四郎

⊙印 委員長　○印 副委員長と幹事
※印 同代行

印　刷　平成４年12月20日
発　行　平成４年12月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　電　　06－348－0635
　　振替口座 大阪1-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
　　電　06－351－5428(代)
　　日本電植株式会社
　　電　06－357－1803(代)
定　価　980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

法令コーナー
GBRCニュース
新建材紹介コーナー
出版委員会リポート
建築の眼

特集
作品

総論
各論１

各論２

構造の頁211
設備の頁212
INFORMATION

教育委員会リポート
海外研修REPORT

総目次
月報

特集●京のかたちと色—京都支部創設45周年記念—

SPECIAL FEATURES ON KYOTO-ITS FORMS AND COLORS.

兵庫県立星陵高等学校 ——— 設計監理：兵庫県都市住宅部営繕課・設備課 —— 2
施工：大成建設・新井組・関西建設工業特別共同企業体

滋賀県立長浜ドーム ——— 設計監理：久米設計 —— 4
施工：熊谷組・材光工務店共同企業体

神戸市立東灘区民センター ——— 設計監理：神戸市住宅局営繕部工務課・昭和設計 —— 6
施工：熊谷組大阪支店

伊丹市立生涯学習センター（ラスターホール） ——— 設計：石本建築事務所 —— 8
監理：伊丹市建設部建築課・石本建築事務所
施工：前田建設工業

きさいちカントリークラブ・新クラブハウス ——— 設計施工：奥村組 —— 10

兵庫県 福祉のまちづくり条例／樋口正昇 —— 12

建物の火害診断手法—火災を受けたコンクリートの受熱温度推定方法／吉田正友 —— 14

アクソナイト＆エルコ／松村勝実 —— 17

『アイ・アイ・ランド』の空間／安田　孝 —— 19

まちづくりの深層への旅／延藤安弘．まちのデザインをそろえる／大海一雄．建築の眼／岡田聿之．コンクリートの高度化／松本洋一 —— 20

京のかたちと色—京都支部創設45周年記念—

京都府立植物園新観覧温室 ——— 設計監理：環境設計研究室 —— 22
施工：三井建設

KRPガスビル ——— 設計監理：日建設計 —— 24
施工：大林組

積水化学工業京都技術センター ——— 設計：京都大学加藤研究室・安井建築設計事務所 —— 26
監理：安井建築設計事務所
施工：（研究棟）竹中工務店

京都コンピュータ学院京都駅前校 ——— 設計監理：錢高組一級建築士事務所 —— 28
施工：錢高組

大同生命京都ビル ——— 設計監理：指宿真智雄・建築デザイン一級建築士事務所 —— 30
施工：錢高組・清水建設・大末建設JV

ときめきの街KUSATSU WEST ——— 設計施工：清水・間共同企業体 —— 32

山中アート研究センター ——— 建築設計施工：竹中工務店 —— 34
造園設計施工：花豊造園

自分の中にこそ世界がある—京のかたちと色 ——— 木村　光佑 —— 36

京の伝統工芸の色

京友禅　京都をつつむ自然 ——— 羽田　登 —— 40

西陣織　自然と人との間にあるいろぬの（色布） ——— 伊豆蔵明彦 —— 42

京からかみ　枯葉色のハーモニー ——— 千田　堅吉 —— 44

京陶芸　陶における色と質感 ——— 清水　柾博 —— 46

京表具　文化財保存修理と色彩 ——— 宇佐美直八 —— 48

京タンス　木の香り ——— 宮崎　弘夫 —— 50

京人形　人形のいない「ひいな」の世界 ——— 田中　久雄 —— 52

京扇　開かねば扇は風の蕾かな ——— 宮脇新兵衛 —— 54

京都の街の景観と色 ——— 望月　秀祐 —— 56

アフターボンド工法／南　敏和 —— 60

高効率の空調機—プラグファン内蔵空気調和機—／鍋島　巻 —— 61

第３回みどりの景観賞（大阪施設緑化賞）決まる．中嶋龍彦：思考と創作—ドローイングと模型展—．「ホスピタリティー・デザイン」．第23回A＋E FORUM開催．「住宅・建築省エネルギーフォーラム」開催．筑波大学の卒業展をつくばで．マルチメディア「MPS」誕生．ビデオ「ル・コルビュジェ」発売 —— 13.62

日本建築協会東海支部主催「建築工事実務講習会」／寺本英一 —— 62

世紀末ふたたび—中欧の建築を訪ねる／西尾直子・河南重雄・笹村欽也・本間利雄・服部正毅・岡崎　誠・倉渕奈千子・依光駿介・久保田進也・神津信太郎・松岡勝幸・岡橋作太郎 —— 63

「建築と社会」1992年１～12月号総目録 —— 67

平成４年10月分 —— 73

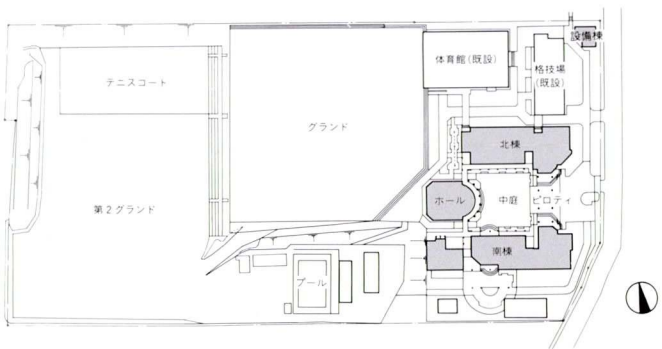


兵庫県立星陵高等学校

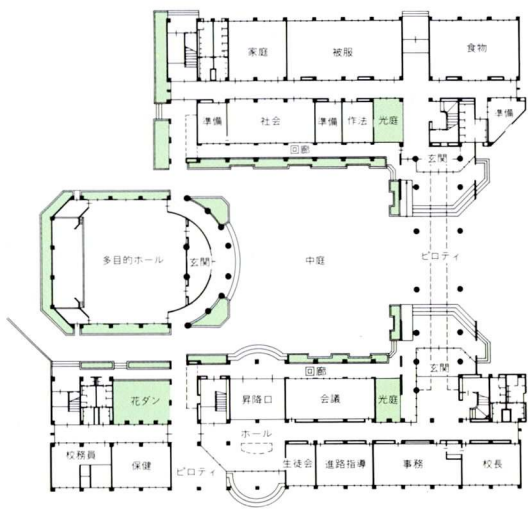
設計監理　兵庫県都市住宅部営繕課・設備課
施　　工　大成建設・新井組・関西建設工業特別共同体企業体

所 在 地　神戸市垂水区星陵台
敷地面積　50,915.86㎡
建築面積　6,847.13㎡(新築部 3,816.23㎡)
延床面積　15,364.34㎡(同上 11,358.79㎡)
構造規模　RC、5F
工　　期　平成２年12月～平成４年３月
最 寄 駅　JR山陽本線垂水駅

撮　　影　稲住泰広



配置図　1:4000



1階平面図　1:1000



この建物は昭和７年建設の校舎棟を建替えたもので、体育館等一部の建物については、将来建替えの予定となっている。

敷地はJR垂水駅の北、瀬戸内海を臨む丘陵地にあり、北隣りには旧神戸商大の洋風校舎があり、西には舞子陵の豊かな緑が広がっている。

計画にあたっては、長年地域の人々から親しまれてきた旧校舎のイメージを継承する事と、敷地の立地状況から、中世城郭風のデザインとした。

また、県下で初めての伝統校の建替えである事から従来の標準設計から脱し、伝統を踏まえつつも、これからの教育に求められる「ゆとりとうるおい」「文化性」のある施設となる様配慮した。

建物は、回廊をめぐらせた中庭広場を囲んで配置し、正門から中庭への入口には、２層分の大きなアーチを設け、中庭の奥に神殿風のホール棟を設けた。また、各所にピロティや吹抜、ベンチ等を設置し、ゆとりの空間、「つどい」のスペースを用意した。

ホールの地域開放も考えられており、この中庭が、生徒と生徒、あるいは、生徒と地域の人々とのふれ合いの「広場」として利用される事を願っている。

（大上　章/兵庫県都市住宅部）



南棟エントランス



多目的ホール



滋賀県立長浜ドーム

設計監理　久米設計
施　　工　熊谷組・材光工務店共同企業体

所 在 地　滋賀県長浜市田村町1320
敷地面積　75,000㎡
建築面積　16,254.93㎡(軒下回廊含む)
延床面積　15,122.92㎡
構造規模　S・RC、IF(一部2F)
工　　期　平成2年1月～平成4年3月
最 寄 駅　JR北陸線田村駅

撮　　影　藤　義則

琵琶湖の東北部に位置する長浜以北は、豊臣秀吉公の築城した長浜城が、別名「白雪城」と呼ばれたように、多雪地域にあり、この施設は天候に左右されないオールシーズンの多目的屋内運動施設として計画されました。
積雪量1mという雪のハンディキャップを克服し、短辺107.5m、長辺162.0mの小判形平面をもつ高さ約30mの無柱空間の大架構のイメージは、いにしえの歌にうたわれ、親しまれてきた琵琶湖に浮かぶ竹生島の島影を投影した、流れるような曲線屋根のスカイラインで表現することでした。
約7,000トンの屋根荷重を支える60本の連続する主柱は、安定した力強さと運動施設としての躍動感・軽快感をデザインしたものです。
内部空間は、ダイヤモンドトラスによる幾何学的な鉄骨フレームがダイナミックに天空を覆い、頂部の大型のトップライトからはルーバー越しにやわらかな陽の光が鮮やかな人工芝のアリーナー面にそそがれます。

(菅野昭男/久米設計)



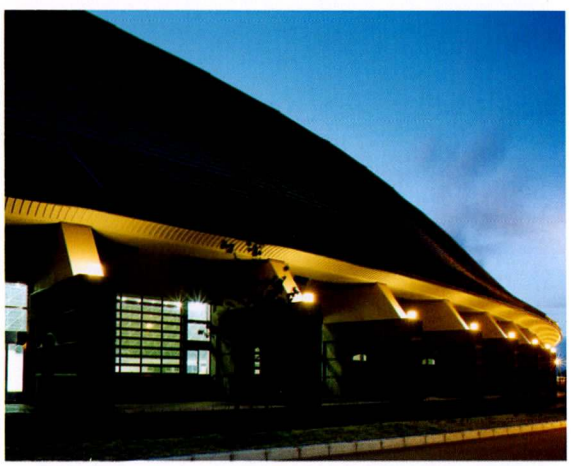
琵琶湖から遠望



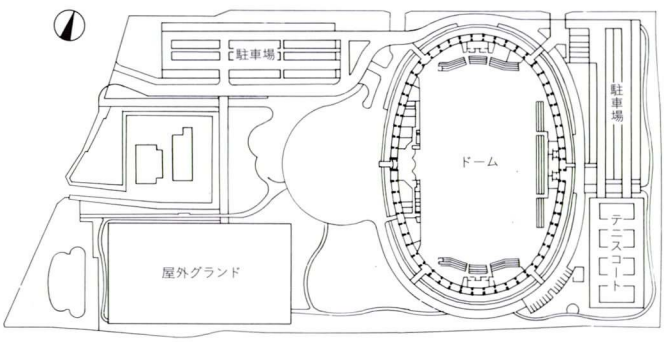
ドーム内部



回廊



夜景



配置図　1：50000

神戸市立東灘区民センター

設計監理　神戸市住宅局営繕部工務課・昭和設計
施　　工　熊谷組大阪支店

所 在 地　神戸市東灘区住吉東町５丁目６
敷地面積　5,031.94㎡
建築面積　　443.50㎡
延床面積　5,702.26㎡
構造規模　S、10F
工　　期　平成２年３月～平成４年６月
最 寄 駅　JR東海道本線住吉駅

撮　影　伸和実業





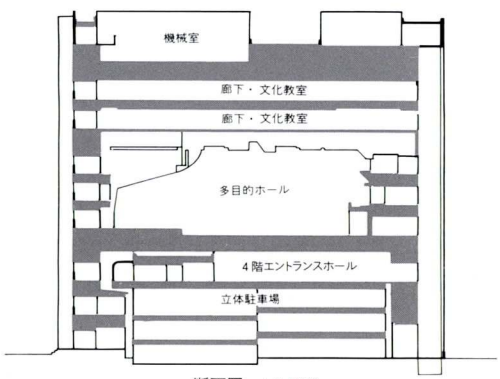
東灘区民センターは、神戸市の〝アーバンリゾート都市づくり〟の一環として、また東灘区の文化の中核となるコミュニティ活動の拠点として計画された。主な用途は、650席収容の音楽を主とした多目的ホール・会議室・各種文化教室で構成されている。

敷地は、JR東海道本線住吉駅に隣接し、新交通と国道２号に挟まれており、土地の高度利用が要求されているところから、立体駐車場・区民センター・オフィスビルの複合機能を有する特定街区の指定を受けている。各施設はそれぞれ工期が違うために単独で成り立つ構造をしているが、全体としては一棟扱いとなる計画になっている。

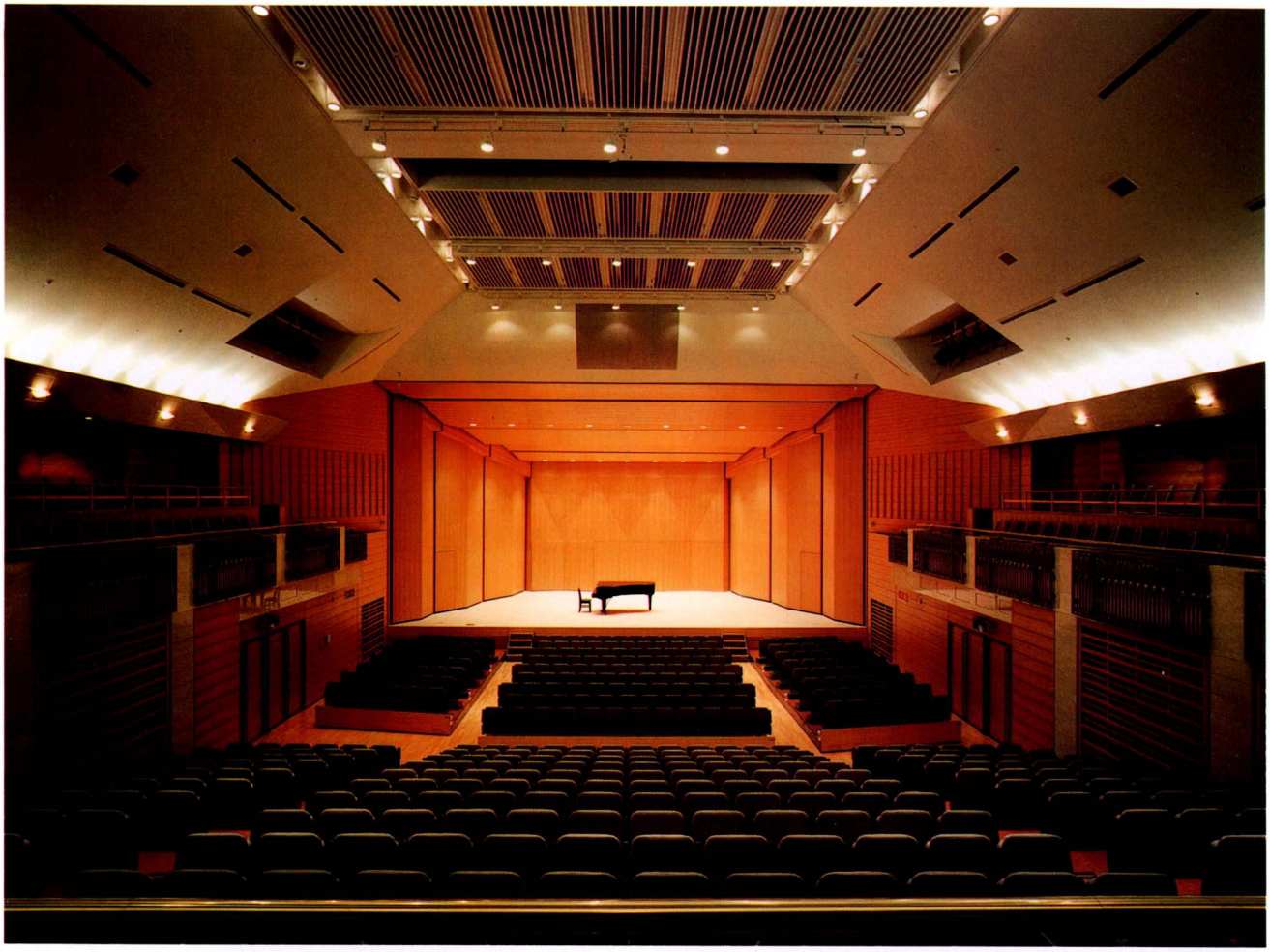
本施設は、Ⅱ期工事に当り、既に完成していた立体駐車場（４層）の上部空間を利用する計画となっている。一般利用されている建物の上部への増築ということで、本施設は、Ⅰ期の建物を挟む位置に上下のサービス機能を有するコア柱を建て、この最上部を繋ぐ約40mスパンの４本の大梁から５階～10階までの全施設を吊る構造としている。また施工に当たっては、大梁から下に向かって鉄骨建方をしていく、日本で初めての、多層階リフトアップ工法を採用し、順調に工事が行なわれた。

５階から７階に設けたシューボックスタイプの多目的ホールは、外部騒音に対する遮音と防振について、吊構造による軽量化の条件の中で、可能な限りの対策を行い十分な結果が得られている。また、建築音響計画上の特徴として、天井は、一次反射音を重視した傾斜天井と、音響拡散天井（シュレーダーズディフュザー）を採用している。空席時の残響時間は、1.7秒（500Hz、反射板有り）～1.3秒（同、反射板無）となっており、ほぼ設計目標値の測定結果が得られ、当初の設定通りこの規模では、好ましい響きをもったホールとなっている。

（山本光良／昭和設計）



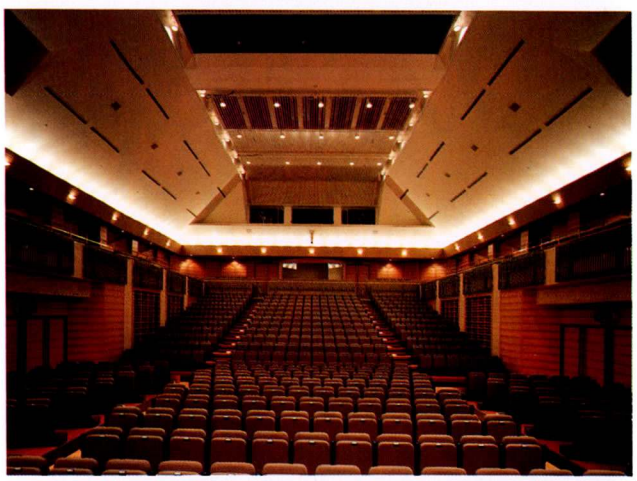
断面図　1：1000



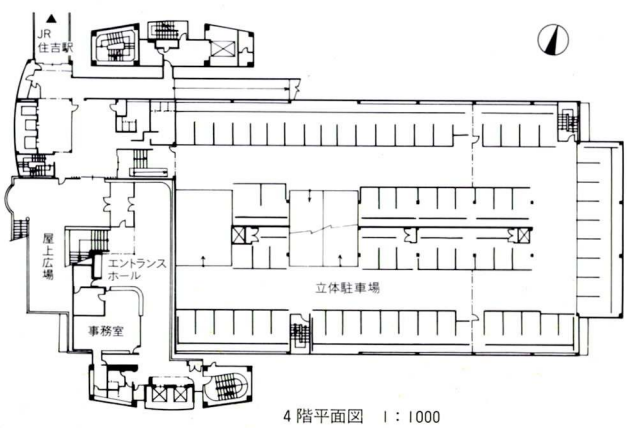
多目的ホール



1階エントランス



多目的ホール客席



4階平面図　1：1000



4階エントランスホール



南東面外観

伊丹市立生涯学習センター（ラスターホール）

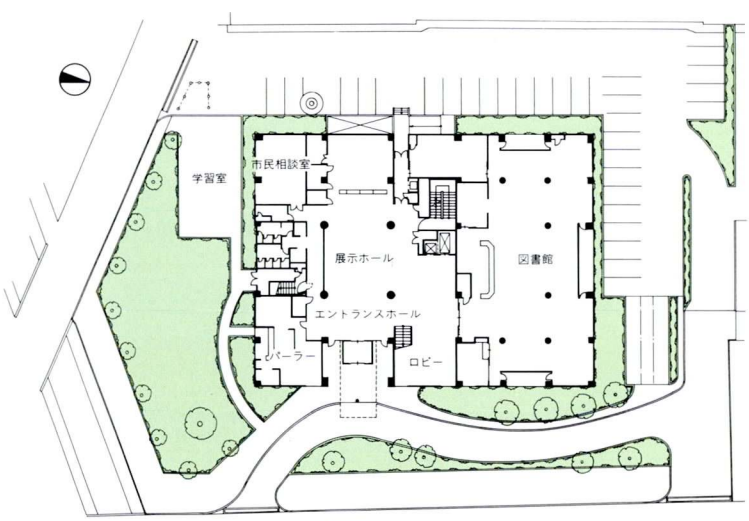
設　計　石本建築事務所
監　理　伊丹市建設部建築課　石本建築事務所
施　工　前田建設工業
　　電気　伊丹産業電気工事
　　設備　伊丹産業設備

所 在 地　伊丹市南野矢倉塚720-2
敷地面積　4,757.81㎡
建築面積　1,511.58㎡
延床面積　5,067,05㎡
構造規模　RC、BIF、4F
工　　期　平成２年９月～平成４年３月
最 寄 駅　阪急伊丹線稲野駅

撮　　影　岩田光弘



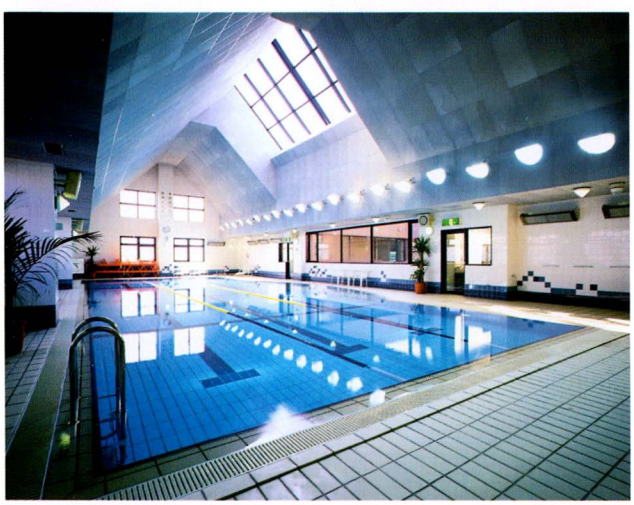
1階 図書館



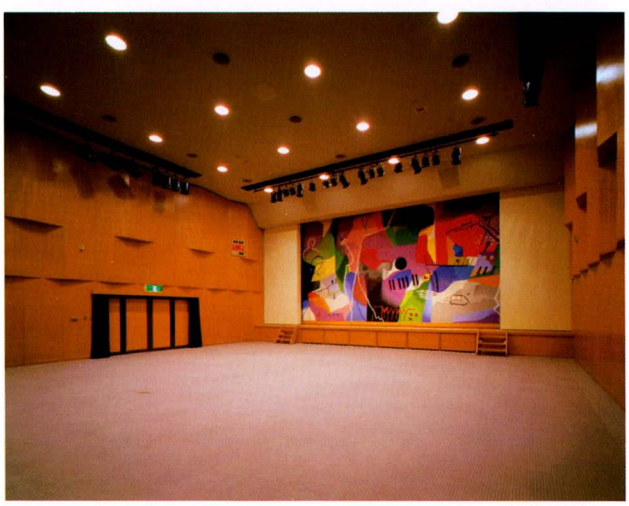
配置・1階平面図　1:1000



エントランスホール



4階温水プール



2階多目的ホール

伊丹市立生涯学習センター（ラスターホール）は、兵庫県伊丹市南西部に位置し、主に地域住民の生涯学習、健康促進等の拠点として計画された。

この計画では、住民同士の触れ合いと、ゆとりのある時間の過ごし方をメインテーマとして、親しみ易い外観と、明るく判り易い平面構成を心掛けた。

外観は、45°の勾配屋根を持った２棟の組み合わせとし、暖かみのある色調で周辺の隣接する住宅に対して、威圧感を押えると共に、地域になじむ形態とした。

内部は、１階に３万冊の蔵書の図書館（分館）・学習室・市民相談室・パーラー、２階には収容人員300人の多目的ホール（平土間）・視聴覚室・マイコン室・音楽練習室と、それぞれ２層吹抜けの玄関ホールを中心にして取りまく明快な構成としている。

また、３階はデイサービスセンターを中心とした生涯学習機能、４階は温水プールを持つ、フィットネス機能と云った多機能複合施設となっている。　（六浦幹男/石本建築事務所）



全景

きさいちカントリークラブ・新クラブハウス

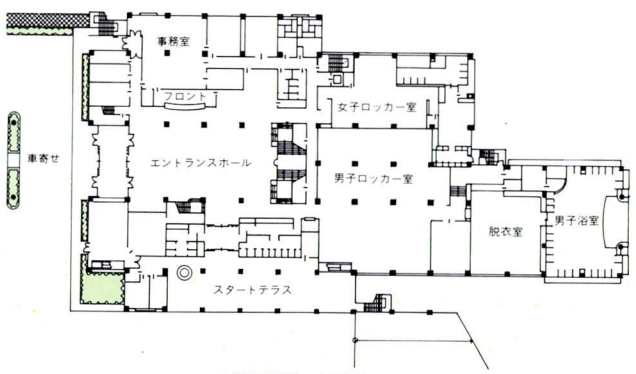
設計施工　奥村組

所 在 地　大阪府交野市私市3008-1
建築面積　3,489.36㎡
延床面積　6,659.90㎡
構造規模　RC、BIF、3F
工　　期　平成3年3月～平成4年9月
最 寄 駅　近鉄奈良駅生駒駅

撮　　影　湯川盛昭



コースからの全景



1階平面図　1:1200



エントランスホール



特別室



ダイニングルーム、ラウンジ

きさいちカントリークラブは金剛生駒国定公園内に位置し、昭和43年にオープンしている。

今回の建替用地は旧ハウスとコースに囲まれた傾斜地であったため、南側は2層、北側は3層となるよう計画した。

平面的には中央に吹抜けの大きなホールを設け、このホールの廻りに客関係諸室を配置することで妻入りの平面から生ずる動線の長さを解消するとともに、簡明で求心性のあるプランとした。また、プレイヤーと後方部門の動線は敷地の高低差を利用し、断面的に分離した。

外部は緑の景観に違和感なく溶け込めるよう緑青銅板の大屋根で包み込んだ。また、軒先の水平線を強調し色彩を押さえることで安定感のある落ち着いた印象を与えるよう計画した。

内部は「ゆとり」と「くつろぎ」のスペースとなるよう充分な広さを確保し、柔らかな光と色合いでまとめた。

設備的には、「クリーングリーン」を標榜する当ゴルフ場にマッチした熱源として夜間電力使用の蓄熱式ヒートポンプシステムを採用した。

（藤岡誠一/奥村組）

法令コーナー

編集委員会法令分科会

274

兵庫県 福祉のまちづくり条例

ノーマライゼーションの理念に基づき、すべての人々が自立して社会参加できる社会の実現が求められている。

また、目前に迫った21世紀の超高齢社会を真に豊かで活力ある社会とするために早急な対応が求められている。

さらに、本年は「国連・障害者の十年」の最終年でもあり、国内外において障害者対策の取り組みの気運が高まっている。特にアメリカ合衆国では、1990年に障害に基づく差別の包括的な禁止を定めたADA法（アメリカ障害者法）が制定された。日本国内でも中央心身障害者対策協議会が昨年７月に「『国連・障害者の十年』の最終年に当たって取り組むべき重点施策」として、「障害者の完全参加と平等の実現のための重要な基盤として、住宅・建築物、公共交通機関における障害者のアクセスを十分に配慮した施策及び…住みよいまちづくりをより一層推し進める」べきとの報告を行っている。

このような情報の中で、兵庫県においても福祉のまちづくりを一層推進すべく全国に先駆けて福祉のまちづくり条例を平成４年10月８日に制定し、10月９日に公布した。

これまでの経緯

兵庫県においては、平成元年９月に「すこやかな社会づくりのためのまちづくり整備指針」を策定し、民間建築物を含む一定の建築物について施設の構造および設備に関する指針を示した。

また、平成２年３月に「兵庫県建築基準条例」を改正し、一定の建築物の新築、増改築等に当たっては高齢者、障害者等の利用を配慮した構造および設備による整備を行う旨を規定した。

さらに、平成２年４月以降県のまちづくり整備指針推進要綱に準じて市町におけるまちづくり推進要綱等の策定または改正が進み、平成４年３月末には県下全市町で高齢者等に配慮した施設整備を担保する市町における執行体制が整備されるに至った。

条例制定の背景

しかし、これまでの整備指針および市町の要綱による施設整備の推進は、必ずしも十分なものとはいえなかった。すなわち、整備指針や市町の要綱は、主として建築物の新築、増改築等に際しての施設の整備内容について規定しており、既存建築物の改修促進のための具体的な内容が示されていないことや、個々の建築物の整備について規定しているため建築物、公共交通機関、道路および公園等を含む面としてのまちづくりへの対応に限界のあること、さらに要綱による行政指導であるため実効性の確保に一定の限界があること等の課題があった。

また、建築基準条例は、整備対象となる建築物が官公庁舎、駅舎、銀行等を含まない特殊建築物に限定されるなどの課題があった。

以上の課題の解決と、高齢者、障害者等の利用に配慮した施設整備とそれを推進する基盤づくりを目的として、このたび福祉のまちづくり条例を制定することとしたものである。

条例の特徴

当条例の特徴は、次のとおりである。

(1) ハード面の施設整備のみにとどまらず、福祉のまちづくり基本方針の策定等、施設整備を支援する基盤づくりのためのソフト対策を規定していること。

(2) 対象施設は、民間を含む建築物、道路、公園、車両等、不特定多数の県民が日常生活において利用する施設をほぼ網羅していること。

(3) 点的な整備にとどまらず、市街地開発事業等の実施の機会を捉えて、面的な施設整備を推進していくことを規定していること。

(4) 既存施設についても整備努力義務を課し、自主調査、整備状況の報告等の手続きを規定していること。

(5) 個人住宅についても、高齢者等に配慮して整備するよう努めるものとしていること。

条例の概要

前文

前文では、すべての人々が、一人の人間として尊重され、等しく社会参加の機会を待つことにより自己実現を果たせる社会いわゆるノーマライゼーション社会の構築と、21世紀の超高齢社会への対応とを福祉のまちづくり条例制定の大きな基本理念とし、こころ豊かな兵庫の実現に向け、高齢者や障害者を含むすべての県民がいきいきと生活できる福祉のまちづくりを強力に推進していくこととしている。

第１章　総則

第１章は総則であり、県、市町、県民および事業者がそれぞれの責務を果たした上で、おのおのが一体となってその推進体制を整備し、福祉のまちづくりの実現を図るものとしている。

第２章　福祉のまちづくりの基本方針等

福祉のまちづくりのハード面での施設整備を支える基盤づくりとして、県は、福祉のまちづくり基本方針の策定および福祉教育の推進を図るものとする。

また、県民および事業者に対し、意識の高揚および知識の普及を行うとともに、市町、県民および事業者に対し、必要な情報の提供、指導または助言を行うものとする。

さらに、福祉のまちづくりを推進するため、必要な財政支援を行うこととしている。

一方、市町は、住民および事業者に対し、当該地域の意識の高揚を図るとともに、当該地域の必要な指導、助言を行うこととしている。

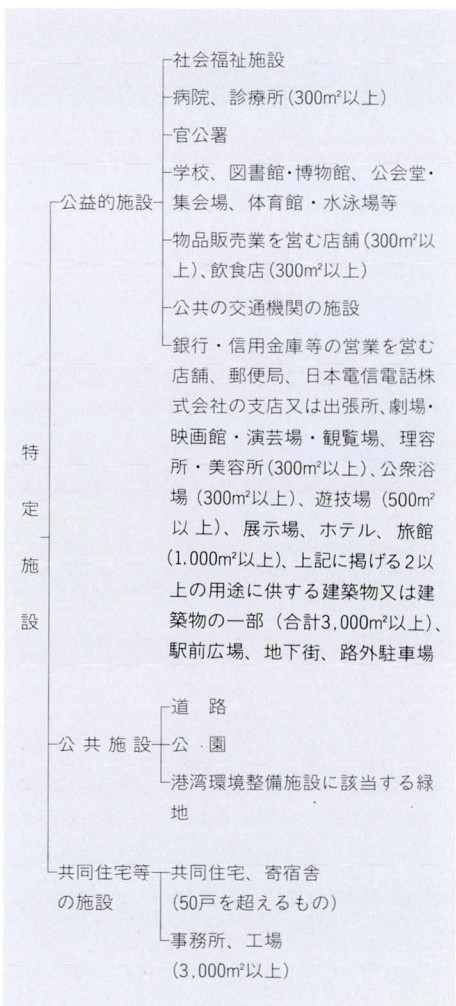
第３章　特定施設等の整備

第３章では、特定施設（公益的施設、公共施設および共同住宅等の施設からなり、その内容については**図－１**のとおり）、公共車両および住宅は、高齢者等が安全かつ快適に利用できるよう配慮して整備しなければならないとして、そのあり方を規定した上で、新設等の特定施設には整備基準遵守義務を、既存の特定施設、公共車両および住宅には整備努力義務を課している。

■特定施設の新築、改築等

特定施設の新築、改築等を行う場合については、その種類の区分に応じて、次のような施設の構造および設備の整備について定めた整備基準を遵守しなければならないものとしている。

①車いすで通行できる傾斜路の設置
②車いすで通行できる幅員の確保
③視覚障害者誘導用ブロックの設置
④階段の手すりの設置
⑤車いすで利用できるエレベーター、便所および駐車場の設置
⑥その他高齢者等の利用に配慮すべき事項



図－１　特定施設

なお、整備基準の具体的な内容については規則で定めることとしている。

(ア)公益的施設および共同住宅等の施設

国、地方公共団体等以外の者が公益的施設（公共の交通機関の施設を除く）および共同住宅等の施設の建築等を行う場合の手続きは次のとおりである。公益的施設等の建築等をしようとする事業者は、あらかじめ市町に建築等の事前届出を行い、審査および指導を受けた上で工事を行う。工事が完了した時点で工事完了届を市町に提出し、市町が完了検査を行う。検査の結果、整備基準に適合している場合は適合証の交付を受けるものとする。

なお、駅舎等の公共の交通機関の施設の建築等を行う場合は、建築等の事前届出以下の一連の手続きは県が行うものとしている。

上記の事前届出を行わなかった場合、虚偽の届出を行った場合、および必要な指導を行ったにもかかわらずそれに従わない場合に、県は当該事業者に対して勧告を行い、それに従わない場合は氏名等の公表を行うものとしている。

また、国、地方公共団体等が行う公益的施設等の建築等については、市町（公共の交通機関の施設の場合は県）に事前通知を行うものとし、当該施設が整備基準に適合しない場合は市町(県)は国等に対して必要な要請を行うものとしている。

(イ)公共施設

公共施設の新設等をしようとする国および地方公共団体は、あらかじめ県に新設等の事前通知を行うものとし、当該施設が整備基準に適合しない場合、県が必要な要請を行うものとしている。

■既存の特定施設の改修促進

既存の特定施設については、整備基準に適合するよう整備に努めるものとし、施設の所有者または管理者に当該特定施設（共同住宅等の施設を除く）が整備基準に適合しているかどうかについての整備状況の把握を義務づけている。県は、高齢者、障害者等の利用の多い施設から順次整備状況の報告等を求め、必要な指導、助言（国、地方公共団体等の施設の場合は要請）を行い、既存施設の整備を促進していくものとしている。

■公共車両

公共車両（鉄道車両、バス）については、高齢者、障害者等の利用に配慮した整備に努めることとし、県は、必要に応じて整備状況の報告を求め、必要な指導、助言を行うものとしている。

■住宅

住宅については、自らの心身機能の低下等に対応し、または備えて、その整備に努めるものとし、住宅供給事業者にも当該住宅について高齢者、障害者等に配慮した整備に努めることとしている。

その他

特定施設整備基準や手続きの具体的な内容については、本年12月を目途に規則を整備することとしており、その中で明らかにする予定である。また、条例の施行は一定の周知期間を置く必要があり、来年の秋の予定である。

（兵庫県福祉部長寿社会政策局福祉企画室長　樋口正昇）

INFORMATION　お知らせ

第3回みどりの景観賞（大阪施設緑化賞）決まる

「大阪施設緑化賞」は今年から「みどりの景観賞」と呼ばれることになったが、その3回目の受賞施設が発表された。

本年8月3日から約45日間の受付期間に寄せられた大阪府下の推薦施設は、個人住宅・低層集合住宅地・中高層集合住宅地・事務所ビル・公共施設・学校と多岐にわたった。これらは、平成4年7月末までに建築物等に付属して計画的、効果的に設けられた緑化施設で、大阪府下の既成市街地に位置するものである。

現地審査を含む3回の選考委員会（委員長・安部大就氏）の結果、推薦42件の中から、最優秀賞1件、優秀賞4件が選ばれた。

主催は、大阪府（担当部署・建築指導課）。



大阪女学院

［最優秀賞］大阪女学院

大阪市内の中心部に位置する学校校庭の緑化を単に校庭緑化にとどめず、地域における緑の景観づくりと保全といった観点から整備し、維持管理の努力を通じて優れた施設緑化の実を上げている。

校門からの前庭空間は、利用面・視覚面からの公開性に富み、また各建物間のオープンスペースもそれぞれに特色ある緑化がおこなわれ、かつ沿道緑化への積極的な努力と貢献が大いに評価される。（選評より）



オークヒルズ香里



茨木市立中央図書館



住友海上大阪ビル



三菱倉庫大阪事務センター

施設名	建築位置	管理者	設計者
大阪女学院	大阪市中央区玉造2-26-54	・学校法人大阪女学院	・一粒社ヴォーリズ建築事務所
オークヒルズ香里	寝屋川市三井南町331-1	・オークヒルズ香里全体管理組合	・大林組 ・竹中工務店
茨木市立中央図書館	茨木市畑田町1-15	・茨木市	・茨木市
住友海上大阪ビル	大阪市中央区今橋4-3-18	・住友海上火災保険	・日建設計
三菱倉庫大阪事務センター	大阪市福島区野田6-5	・三菱倉庫大阪支店 ・大和総研 ・新日本システム・サービス	・竹中工務店

建物の火害診断手法

——災害を受けたコンクリートの受熱温度推定方法——

1. はじめに

最近、鉄筋コンクリート（以下RCと呼ぶ）造建物の火災事例は多く、火災を受けた場合、建物を再使用するか、取りこわすかの評価は火害の程度によって異なってくる。その評価方法を**図-1**[1]に示す。

火害を受けたRC造建物の被害調査においては外観上の損傷の目視観察（定性的評価）だけでなく、主体構造部のコンクリートや鉄筋の受熱温度の推定（定量的評価）を行い、各部材の被害度をより正確に診断することが重要である。顕著な火害を受けたコンクリート部分の状況を**写真-1** に示す。

現在、コンクリートの受熱温度推定方法として、

(1)理論計算による方法—火災室内の寸法・形状、可燃物量（内装及び積載物の種類と量）及び窓等の開口条件を設定し、火災性状を予測し、内部温度を計算する方法。

(2)化学的手法による方法—コンクリートの中性化、炭酸ガス・遊離石灰量の分析及びX線回折法等による方法がある。だが、いずれの場合もより正確な受熱温度を把握するには有効な手段とは言い切れない。



写真—1 火害によるコンクリートの劣化状況

当所では、コンクリート中に微量に含まれる混和剤の紫外吸収スペクトル（以下、UVスペクトルと呼ぶ）を測定し、コンクリートや鉄筋の使用の可能の可否の目安となる約600℃までの受熱温度を推定する方法を開発した。ここでは、受熱温度推定方法及びその実施例について紹介する。

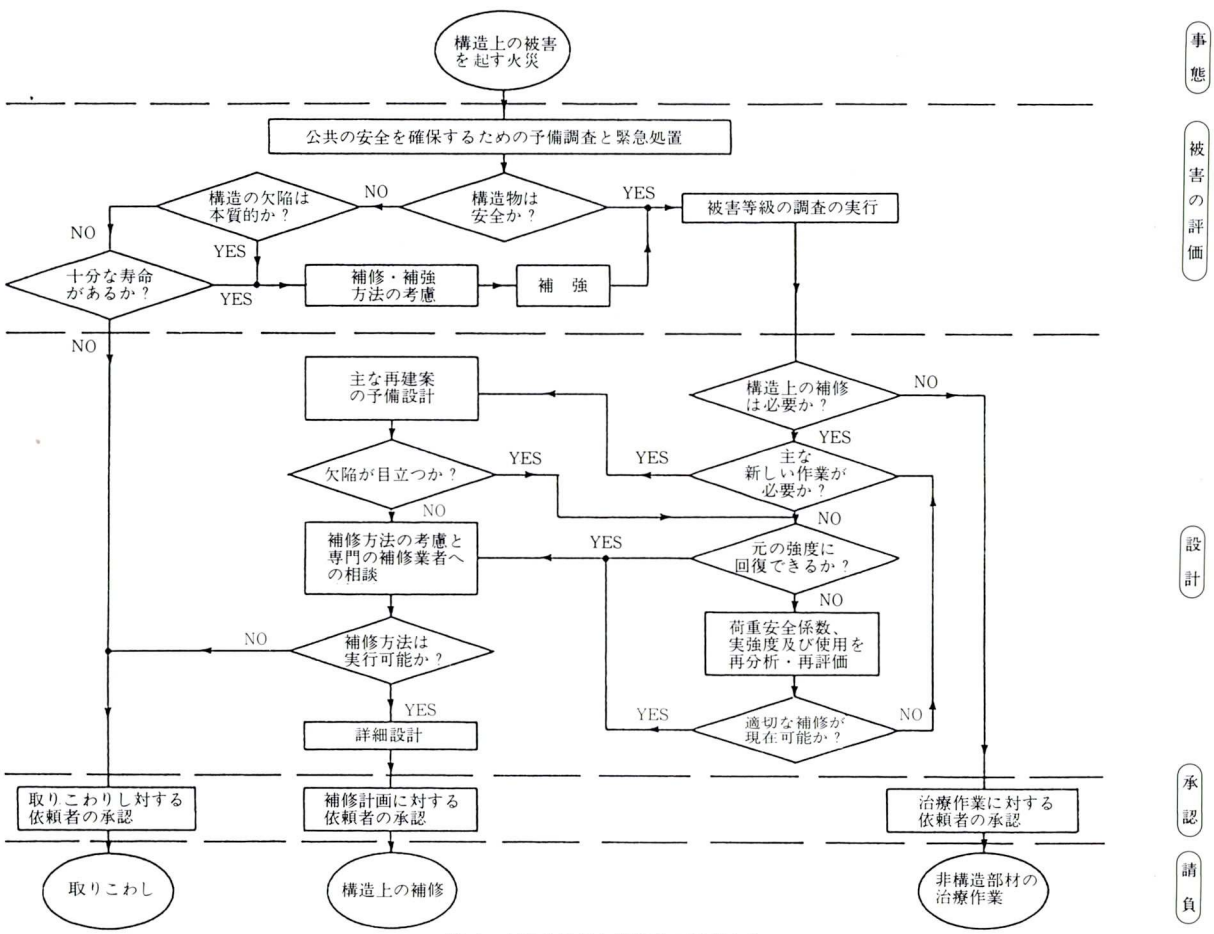


図-1　火害を受けた構造物の評価方法

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391 FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：15
土曜：休業

2．推定方法

火害を受けたコンクリートの受熱温度を推定する方法は次のような手順により行う。

(1)火災現場で火害を受けた部分と健全な部分のコンクリート片を採取する。

(2)健全な部分のコンクリート片を分割し、各分割を所定温度(110℃、200℃、300℃、400℃、500℃及び600℃）で一定時間加熱する。

(3)加熱後、各分割を粉砕し、純水を加え、試料溶液を作成する。

(4)各試料溶液を分光光度計を用いて、波長域200～400nmでUVスペクトルの分析を行い、波長と吸光度の関係（以下、吸収曲線と呼ぶ）を求める。

(5)各試料溶液について吸収曲線の波長260nmでの加熱温度と吸光度の関係（検量線）を求める。

(6)火害を受けた部分について、(3)及び(4)の手順によりUVスペクトルの分析を行い、波長260nmでの吸光度を求め、検量線から受熱温度を推定する。

3．実施例

建設中、屋上部で出火し、パラペット部分が損傷を受けたRC造建物について受熱温度の推定を行った。健全な部分で採取したコンクリート・コアの加熱温度と吸光度の関係を**図-2**に示す。火害が顕著と考えられる部分（２ヶ所）について**図-2**の検量線を用いて表面より深さ２cm、６cm及び10cmの位置での受熱温度とその部分のコンクリートの圧縮強度を**表-2**にそれぞれ示す参考に、加熱温度と圧縮強度の関係を**図-3**[2]に示す。

現在、現場に即したより簡便な方法をさらに検討中である。

4．おわりに

建物の火害診断手法として、当所で開発したコンクリートの受熱温度推定の一方法について述べたが、今後、火災現場でのデータを蓄積し、より簡便な方法を検討していく予定である（本内容の詳細は文献[3]を参照)。

なお、本方法に関して何か質問、意見等があれば、お問い合せ下さい。又、当試験所では、火害建物の調査・診断の依頼にも応じています。

（環境試験室　吉田正友）

〔参考文献〕
1) A.K.Tovey:Assessment and Repair of FireDamaged Concrete Structures-an Update, American Concrete Institute, pp.47-62, SP-92, 1986
2) 古村福次郎：コンクリートと熱(2)、コンクリート工学、Vol.17、No.9、pp.53-61、1979.9
3) 吉田正友、岡村義徳、田坂茂樹：火害を受けたコンクリートの受熱温度推定に関する研究、平成４年度日本火災学会研究発表会概要集、pp.58-61、1992.5

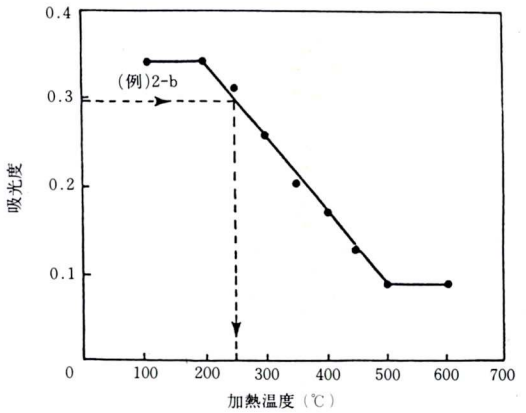


図-2　加熱温度と吸光度の関係(検量線)

表-1　コンクリートの調合

水セメント比（%）	単位容積質量（kg/m³） セメント（普通）	水	細骨材（混合砂）	粗骨材（混合）	混和剤（AE減水剤）	混和剤の添加率（%）	呼び強度（kgf/cm²）
60	315	189	807	935	1.575	0.5	210

表-2　コンクリートの推定受熱温度と圧縮強度

区分	サンプル番号		温度推定の深さ(cm)（表面より）	推定受熱温度（℃）	圧縮強度（kgf/cm²）
火害部分	1	a	2	275	220
		b	6	225	
		c	10	225	
	2	a	2	260	227
		b	6	250	
		c	10	225	
健全部分	3				238

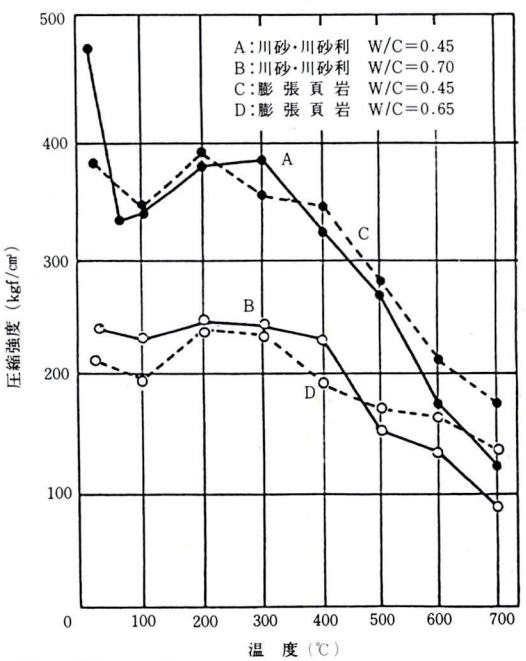


図-3　普通及び軽量コンクリートの圧縮強度の加熱温度による変化

スウェーデン製 内外壁用塗装材・床用塗装材

超耐久性高分子エマルション
アクソナイト

内外壁用塗装材

■素地は十分乾燥させ、含水率10%以下、PH 9以下で塗装して下さい。
■気温5℃以下、湿度85%以上の場合、及び降雨、降雪、強風時またはその恐れのある時は塗装を避けて下さい。
■鉄面、アルミニウム面へ塗装する場合は、あらかじめ錆止め塗料を塗布して下さい。



施工例：ALC版にAXONITEを塗装



施工例：コンクリート上にELKOを塗装

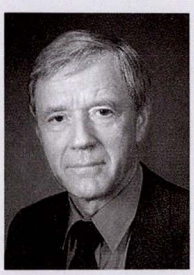
超耐久性高分子エマルション
エルコ

床用塗装材

エルコーT 上塗材として使用します。

エルコーM 不陸調整材や樹脂モルタルとして使用します。又、無機質、プラスチック、ゴム等の各種骨材を混入することにより、多種多様の用途に利用できます。

エルコプライマー スチレン—ブタジエン樹脂ラテックスで素地の吸込みを止め、付着性を高めるプライマーです。



Gustaf Lindmarkを中心に経験豊富な建築技師と多くの塗装技術者が1972年から10年間をかけ、道路や運動場向けの新しい表面コート剤を開発、国際的な評価を集めました。

この表面コート剤を建物や床の表面加工用に改良をはかったのが建物用アクソナイトと床用エルコです。

ぜひ日本の皆様にエルコを、ご利用頂きたいと思います。

Gustaf Lindmark

製造元 JIS表示許可工場
大同塗料株式会社
本　社　〒532 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号
TEL(06)308-6281　FAX(06)308-3512
東京支店　〒135 東京都江東区佐賀1丁目18番8号
TEL(03)3642-8431　FAX(03)3643-5560
名古屋・福岡・広島・札幌・仙台・滋賀・四国・千葉

総発売元〈AXONITE AB 日本総代理店〉
株式会社 山善 H&B開発部
建設大臣許可（特－3）第5247号
大阪営業本部　〒550 大阪市西区新町2-4-2(ニッセイなにわ筋ビル)
TEL(06)534-3187　FAX(06)534-3215
東京営業本部　〒105 東京都港区海岸1-11-1(ニューピア竹芝ノースタワー)
TEL(03)5404-4351　FAX(03)5404-4358

超耐久性高分子エマルション

アクソナイト&エルコ

内外壁用塗装材　　床用塗装材

総発売元　株式会社山善H&B開発部　大阪営業部　〒550 大阪市西区新町2-4-2（ニッセイなにわ筋ビル）
TEL(06)534-3187　FAX(06)534-4118

販売元　大同塗料株式会社　本　社　〒532 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号
TEL(06)308-6281　FAX(06)308-3512

樹脂含有量の差が高品質塗料を立証

苛酷な気象条件のスウェーデンで10年余の歳月をかけ、樹脂含有量が従来品と比べ、2.5～3.0倍の高品質塗装材「起耐久性高分子エマルション」が発売された。壁面用「アクソナイト」と床用「エルコ」の2種類あり、ともに耐候性、通気性、弾力性、耐久性に優れた塗装材として注目を集めている。

1.建築内外装用アクソナイト

アクソナイトは、スチレン・アクリル樹脂エマルションとシリカサンド・着色顔料・体質顔料で構成され、基剤の状態でスウェーデンから輸入、日本の塗装条件（湿度等）に対応させるため、大同塗料で2次加工し商品化をはかっている。

水性塗料のため取り扱いが容易で、ハケ、ローラー、スプレー塗装ができ、骨材を選択することによりタイル状、リシン状など様々な仕上げが可能である。コンクリート、モルタル、プラスターボード、ALC板、木材、石材、鉄、アルミにも塗装が可能で、こうした多様性が商品としての優位性を高めている。

アクソナイトのもう一つの大きな特長である「通気性を備えながら耐水塗装材にもなる性質」がコンクリートの中性化防止を可能にしている。また優れた弾力性や付着性が温度変化（-30℃～40℃）への適応やクラック追従性を高め、さらに乾燥時間が2～3時間と極めて短いことと合わせ施工性を一段と向上させている。

スウェーデンでは1983年以後、数多くの公共施設に採用され、1992年にはNational Swedish Board of Building and Planningの認定を受け、国際管理基準に基づく品質管理により高品質で安定した商品の供給を行っている。また、こうした商品の優秀性が世界各地で立証され、現在、日本、イギリスのほか6ヶ国へ輸出されている。

2.耐水性、耐磨耗性に優れた床用塗装材エルコ

エルコは、アクソナイト同様、スチレン、アクリル樹脂エマルション、シリカサンド、着色顔料、体質顔料で構成されているが、耐油性、耐薬品性を高めるため特殊な素材が添加されている床専用の塗装基剤である。通気性があるため、水分による膨れがなく湿潤な所でも使用が可能である。また、弾性に優れているため、骨材との混合により耐磨耗性を高めながら様々な仕上げができる特長も備えている。

工場、倉庫、駐車場、テニスコートなどに適しており、同一のエルコ基剤で対応できる。乾燥時間が短く（3～6時間）、1日当り2～3工程の施工が可能で、施工性の高さが施工業者から高く評価されている理由の一つになっている。基剤自体は乾燥すると半透明になるため、骨材のカラーや風合いを生かすことができ、様々なデザインができることも大きな特長である。

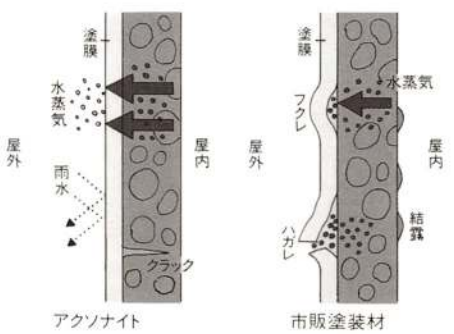
3．責任施工体制を基本に販売

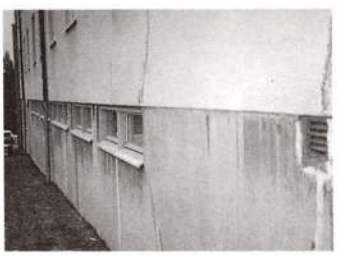
アクソナイト及びエルコの高品質性と特性を生かすには、施工基準に基づいた施工が重要なポイントになるため、物件ごとの責任施工体制を基本に販売する意向である。

（松村勝実/建材委員）

■アクソナイト

透湿性・耐水性のメカニズム




施工前

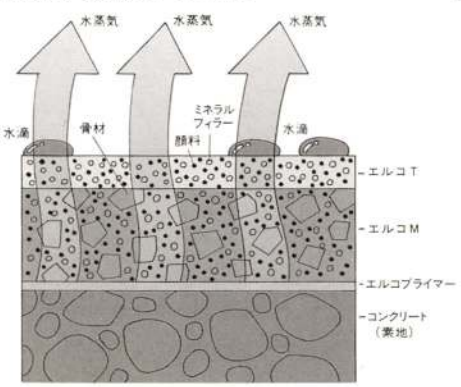

施工後

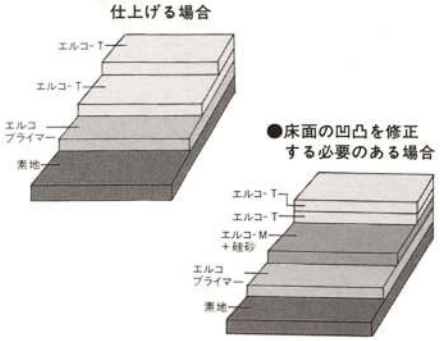
試験データー

試験項目		試験結果	試験方法
付着強さ kgf/㎠	標準状態	23.7	JIS A 6910
	浸水後	17.3	
温冷繰返し作用に対する抵抗性		異常なし	JIS A 6910
透水性		0.5ml	JIS A 6910
耐衝撃性		異常なし	500g・50cm
耐候性		異常なし	サンシャインウェザーメーター 1,000時間
伸び(%)	20℃時	268	JIS A 6910
	浸水後	124	
	加熱後	66	
	サンシャインウェザーメーター500時間後	90	
クラック追従性		1.5mm	—
耐水性		異常なし	水に1カ月浸漬
耐アルカリ性		異常なし	2%NaOH、7日間
透湿性		105g/㎡,24hr	JIS Z 0208
中性化阻止性		アクソナイト 炭酸化深さ：0mm（打放し 炭酸化深さ：17.0mm）	促進炭酸化試験3カ月

■エルコ

通気性、耐水性のメカニズム





試験データー

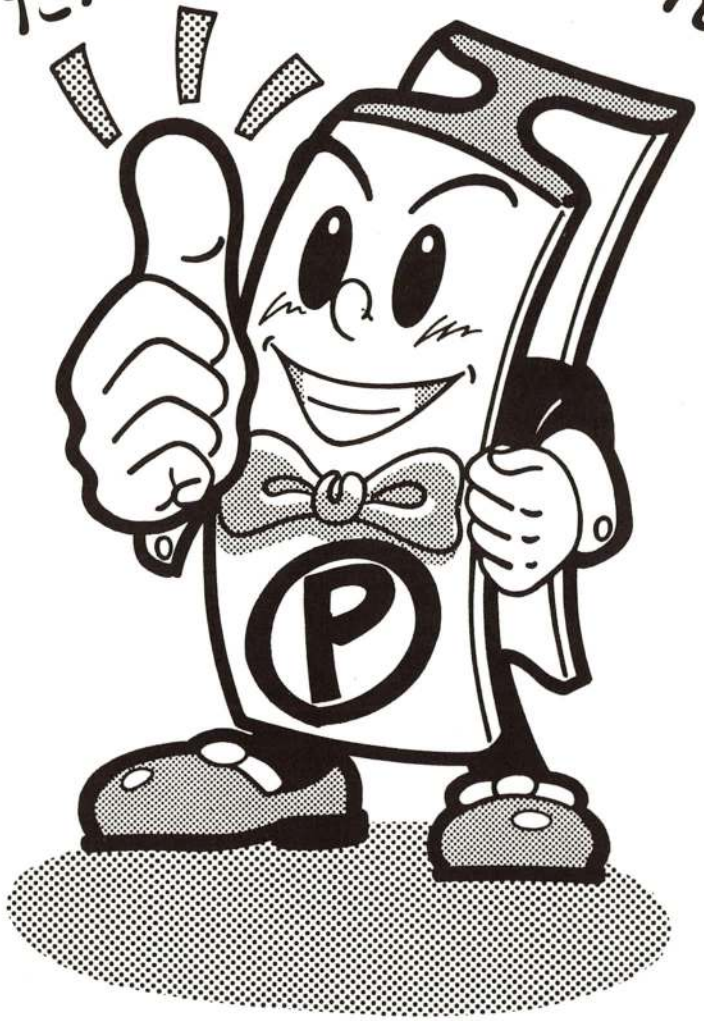
試験項目		試験結果	試験方法
耐磨耗性		100mg	S-33 500g 100回転
付着性		21kgf/㎠	JIS A 6910
伸び(%)	20℃時	303	JIS A 6910
	浸水後	229	
	加熱後	75	
	サンシャインウェザーメーター500時間後	86	
耐水性		異常なし	水道水 1カ月浸漬
耐アルカリ性		異常なし	2%NaOH、7日間
耐油性		異常なし	機械油 7日間
耐候性		異常なし	サンシャインウェザーメーター 1,000時間

テクノハート・カンパニー
住友金属

外法一定 H形鋼
ハイフィットビーム
（愛称）ピッタリくん

ボクは、ピッタリくん。
次代の建築を担う人気者。
Hな形が進化して、
設計、施工がより簡素化するほか、
サイズバリエーションが整って、
寸法精度もいちだんと高まりました。
豊かさを求めて、快適さを生み出す、
未来指向のビル空間づくりに、
ピッタリです。

ただのHじゃありません。



■特　長
- ウェブ高さを一定にでき、設計と施工を簡素化。
- JASS6「鉄骨精度検査基準」に準拠した高度な寸法精度。
- ウェブの薄肉化（フランジ厚/ウェブ厚≒3）で、経済的設計が可能。
- サイズバリエーションが豊富で、設計の自由度が向上。

177サイズ製造可能です。

住友金属工業株式会社
本社／〒541 大阪市中央区北浜4丁目5番33号（住友ビル）
〒100 東京都千代田区大手町1丁目1番3号（大手センタービル）
お問合せは／東京建築建材室TEL.03(3282)6632・大阪建築建材室TEL.06(220)5612

●出版委員会「プロのノウハウ」講座シリーズ
（第8回）

『アイ・アイ・ランド』の空間

―建築と緑―瀧光夫氏講演会とシャープ労働組合研修レクリエーションセンター『アイ・アイ・ランド』の見学

安田　孝





予想を上まわる申込み者に対応するため、観光バス2台をチャーターし、あやしげな天候の中を、片町線改め学研都市線忍ヶ丘駅前から国道163号線を登ること約15分、周辺もきれいに整備されたアイ・アイ・ランドには4時少し前に到着した。

まわりの豊かな緑の中に無理なくとけ込むようなアイ・アイ・ランドは、実際の規模より小さめの、やさしい雰囲気で訪問者を迎えているように思われた。これがそのまま、設計者の建築のありようへの姿勢をあらわしているのかもしれない。

正面フロントに入っても気づくことのないほどひかえめに配置された立派なホールで、4時から見学会の説明が開始された。本会出版委員会副委員長の山田氏の挨拶につづいて、アイ・アイ・ランド支配人代理の富田兵三九氏の企画から完成まで、完成後の利用状況の紹介などがあり、施主のシャープ労働組合のみでなく会社そのもののイメージアップにも利用されつつあることが報告されていた。

見学する

女性職員の案内により3班に分かれてセンターの見学となったが、入口では予想できないような建築空間、建築と屋外空間の変化の展開に、見学者の感嘆の声をもれ聞いたように記憶している。

ホールから水のパティオに面した気持ちのよい通路を経て1階の奥にある階段を上るとアスレチックコーナーがあり、ガラスの間仕切りを通して1階のプールが見える。その階段横の出入口が屋外のコテージに通じる最短アプローチのようであり、コテージでは簡単な食事の用意も可能なようであった。

本館内の宿泊室も見学させていただいたが、入口近くに作りつけの2段ベッドを設定し、緑に面した窓側に掘ごたつ風のテーブルを配置した部屋は、利用者それぞれの活動を自由にして、しかも空間を節約する工夫として面白いものと感心した。そのほかにシングルやツイン、少し大きいグループ室など、利用者の多様な要求に応えうる設計が、見事に組み込まれているのは瀧先生が企画段階から担当し、組合の機関誌などを通じて多くの人々の要望をくみ上げる努力を惜しまれなかったことによるのであろう。

広々とした洋風レストラン、和風宴会場、フラワーホールとバーコーナー、いくつかの会議室をもつコンベンション部門、屋外でのクラフト広場、野外ステージ、テニスコート、露天風呂、これだけの多種多様な機能が違和感なく実現されているのは、本館中央に設計された水のパティオによるものであろうか。

講演会で

演台のうしろと左側に緑の映える、約200人収容のアイアイホールで、5時から瀧先生による講演会が開始された。

子供の頃から人前で話すことのにが手な、絵を描いたりものを作ることの好きな少年でした、という自己紹介から始まり、プロジェクター2台を使用しての欧米の建築と緑、広場と庭園と水の空間の解説は、休みなく1時間半の熱演となり、それだけで参加者を納得させるのに十分なものだったであろう。スクリーンの右側には先生の話す欧米の事例が、左側には先生ご自身による設計事例が紹介され、これまでの豊富な成果は、短時間ではとても理解し尽くすことのできないものかもしれない。

講演後、4人の参加者から質問が出された。最初は、樹木を多く植えると樋などに落葉がたまることに対する対処の方法についてであり、瀧先生の答えは、落葉を取りのぞくぐらいの維持管理の余裕はあって当然と考えている、であったかと思う。続いてアイ・アイ・ランドを含めた建築作品の仕上げ、あるいはデザイン・プリンシプルについて三つの質問があり、瀧氏はご自身の原則を強く主張してゆく姿勢はとりたくない、と答えておられたかと思う。それはコンクリート打放しや、その他の仕上げ部分の材料についてであり、それぞれの部分で自然な、なじみやすいと思われる室内構成を心がけておられる、とのことであろうか。最後の質問は旧知の方からのようだったが、先生ご自身の作品の感じが変化したようにアイ・アイ・ランドの印象から受けているが、ご自身ではどうでしょうか、とのことであった。それについても、特に変化させようとも考えていないし、変わったとも思われないとのことであった。アイ・アイ・ランドが多様な機能をそなえ、変化の多い空間構成となっていることからの印象かな、と司会者は理解したが、どうだろうか。

インプットとアウトプット

自分の主張を強く出したくない、という瀧先生の姿勢は、講演会にも示され、お話はすべて先生へのインプットである欧米の事例についてであった。しかし、注文主との設計打ち合わせでも、現場での担当者との実施打ち合わせでも、実現可能な最上級のものを求めるプロとしての姿勢と誇りを、作品そのものから受け取ってほしい、と瀧氏は言外に述べておられるのかもしれない。後でお聞きしたところによると、作品を作るときの予算はオーバーすることも、施主に無断で変えることも全然なく、施工でも現場で可能な方法を相談のうえで実施するのでミスもほとんどありません、とのことだった。

講演会が終わる頃には夕暮れとなり、本館中央の水のパティオがライトアップされ、驚くほど美しい空間が映し出されていた。先生自身によるすばらしいアウトプットがいつまでも続くことを期待して報告を終えます。

今回の講演会・見学会では瀧先生はもちろん、瀧事務所の田代さん、富田兵三九さんはじめアイ・アイ・ランドの皆さん、キンキ構造設計の浜田さん、それに学芸出版社の吉田さん、久木さんに多大のご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

（やすだ　たかし／日本建築協会出版委員会委員）

日　時　平成4年10月13日（火）
開会16：00～閉会19：00
会　場　シャープ労働組合研修レクリエーションセンター『アイ・アイ・ランド』
講　師　瀧　光夫氏（瀧光夫建築・都市設計事務所主宰）
参加者　118名

建築の眼



ユーコート

延藤安弘
熊本大学工学部教授

大海一雄
神戸市住宅局参与

岡田聿之
東畑建築事務所設計部長

松本洋一
清水建設㈱技術研究所
建設技術研究部長

以上の方々が７月号から12月号まで執筆します。

まちづくりの深層への旅

２年前、「高知市女性センター」の発足の記念講演に招かれ「楽しいまちづくり」の話をした。それを起点にかの地の女性たちは、「まちかどウォッチング」などの楽しい「まち遊び」の経験を重ねてきた。今年の２月、それを踏台にして「高知まちづくりを考える会」を創設し、女も男もともにまちづくりに気楽に向かうしくみづくりを行った。

その活動の流れの中で、最近、林泰義氏（計画技術研究所代表）のリードのもとに、「井戸端・公園づくりゲーム」が住民の間で行われた。高知市内のある地区で都市計画決定された公園予定地の一部を活用して、そのワークショップが行われ、１回目には約70名もの住民が参加した。

２回目のワークショップに参加する機会に恵まれた私は、住み手達が「こんな公園がほしいナ」のつぶやきをもとに、その場をうめるにふさわしい多様な要素パターンがきりぬかれ、イメージ図ができあがっていくのにつきあった。「木蔭になる大きな木を」「落葉が溝にたまって管理が大変」「焼イモ大会をしてみんなで清掃しながら楽しめばいい」等々相互に対立する意見が繰り返されていく中で、相克をのりこえ、その場所・住民ならではの価値づくりのプロセスが生成した。

ワークショップは、参加する人々のまちづくりへの気持ちを開き、笑いの中で、まちづくりの「深層の意識への旅」に出る愉しさをもたらす力がある。（Y.E）

まちのデザインをそろえる

日本の街は美しくない、と云われるのは、個々の建物のデザインが無国籍的で混とんとしているからであろう。それなら街全体の色や形をととのえたら、という議論もあるが、これはなかなかむつかしい。しかし、地域を限ってまとまった景観にしているところがある。

神戸の「幸せの村」は、福祉施設と市民のレクリエーション施設を併せ持った約200haの〝村〟で平成元年にオープンした。その後、施設増があり、今では20数施設の建物があるが、施主や、設計者が異なっていても、全ての建物が南欧風にそろえられ、安心して眺められる景観を形造っている。

個々の建物は雑誌などで紹介されることはあっても、全体の町並みは、来ていただかないとわからないので、来年の「アーキテクチュア・フェア」の一環として、改めておひろめをして、ご批判を仰ぎたいと思っている（K.O）

建築の眼

小説の中に建築は色々な形で出てくる。「タワーリングインフェルノ」の様な建物が主役の怖いお話もいいが、筋書きには直接関係なくても、物語の進行の場としての建築を彷彿させるものも気になる。翻訳物の新しいところで、建築職人が主役のK・フォレット「大聖堂」はゴシック教会の構造と建設の様子を教えてくれる。中世の僧院を舞台にしたU・エーコ「薔薇の名前」、E・ピーターズ「修道士カドフェル」からはロマネスク修道院の全体像と重厚素朴な石造建築の雰囲気が伝わってくる。

密室殺人事件の密室とは建築そのものだし、名探偵ホームズ氏は屋敷の間取りと建物の立面の違いを鋭く看破、隠し部屋を発見、建築師を逮捕…と、建築がミステリーのトリックに関わるものも楽しい。

昨今、推理小説のトリックは出尽くしたと言われているが、近頃の建築形態の複雑多様さと、それを語る難解な建築論をみるにつけ、これらを少々次元を変換して借用すれば、まだまだ建築が関わる新しいトリックが出来そうに思えるのだが。建築界流行の単語でいうと、コンセプトのコンテクストがメタファーのアレゴリーで、云々…。しかしこの調子では「建築の眼」で見たトリックは素人には珍粉漢。仲間内だけが解るお遊びはルール違反ですと相手にしてくれないか。（N.O）

コンクリートの高度化

圧縮強度が600kgf/㎠から1000kgf/㎠の超強度コンクリートの研究開発に続いて、締め固めの必要のない流動（？）性の大きなコンクリートの研究がはやりだした。ハイパフォーマンスコンクリート、高流動コンクリート、締め固め不要コンクリート、超流動コンクリート、超ワーカブルコンクリート、フローイングコンクリートなどとも呼ばれ、まだ名称は定まっていない。このようなコンクリートのニーズとしては、コンクリートの締め固めに伴う労力の低減や自動化施工に伴う搬送性の向上、あるいは薄型PC捨て型枠（充填されているかどうか目視確認ができないので）における充填性の向上などが挙げられている。具体的な技術としては特殊なセメントや混和剤・材を用いたり、セメントの粒形や粒度を調整して、水セメント比を大きくしない（強度は落さない）で流動性を付与し、かつ分離しないようにしようとしている。いずれにしても従来のコンクリートに比べればその製造方法は繁雑で高度な品質管理が必要である。ここでもっと大切なことは、コンクリートの性質に注目するだけでなく、これからの製造から打ち込みにいたるプロセスで高度化したコンクリートの品質保証をいかに行うかと言うことである。何れにしてもセメント、骨材と水を単純に混ぜ合わせる時代のコンクリートの強度理論を再構築しなければならない。（Y.M）

特　集

京のかたちと色

京都支部創設45周年記念



作品
京都府立植物園新観覧温室
KRPガスビル
積水化学工業京都技術センター
京都コンピューター学院京都駅前校
大同生命京都ビル
ときめきの街・KUSATSU WEST
㈱山中アート研究センター

総論
自分の中にこそ世界がある―京都のかたちと色/木村光佑

各論1－京の伝統工芸の色
京友禅　京都をつつむ自然/羽田　登
西陣織　自然と人との間にあるいろぬの（色布）/伊豆蔵明彦
京からかみ　枯葉色のハーモニー/千田堅吉
京陶芸　陶における色と質感/清水柾博
京表具　文化財保存修理と色彩/宇佐美直八
京タンス　木の香り/宮崎弘夫
京人形　人形のいない「ひいな」の世界/田中久雄
京扇　開かねば扇は風の蕾かな/宮脇新兵衛

各論2
京都の街の景観と色/望月秀祐

本特集支部編集委員会　井手正巳、安井洋太郎、山口　明、神谷　治

京都支部が設立された昭和22年は、まさに戦後の混乱の最中でありました。人々は「住」よりも先ず「食」を求める日々に明け暮れていたころであります。

それから45年、超高層ビルが林立し、世界一の富裕国となる今日の日本を誰が予測したでありましょう。

しかしながら、わが先輩たちは、こういった日本経済の発展を予測し、京都・滋賀の経済基盤が浅く常に大阪圏に包含され、特に都市開発の遅れが土木・建築の分野で取り残されることを危惧し、京都支部を誕生させてくれたのであります。

45年の歴史のなかで過去6代の支部長を先頭に常に建築技術の革新に遅れることなく歩みつづけ、会員の研鎖と親睦の場を提供してきたのです。

京都は、平成6年に平安建都1200年を迎えようとしています。地下鉄の新設・ターミナルシティの再開発・京都駅の新築等ビックプロジェクトが漸く始動しようとしています。それは1300年への第1歩であります。こういった変展の時期にあって京都支部が建築界のリーダーとして如何なる役割を果たし得るか、初心に帰って問い直す時でありましょう。

当月号ページをいただいたのを機に、今日、京都が抱える都市景観、なかでも、京のかたちと色をとらえ、各界の方々にご執筆いただきました。会員の皆様の京都への想いの一助になれば幸いであります。

（京都支部長　井手正己）

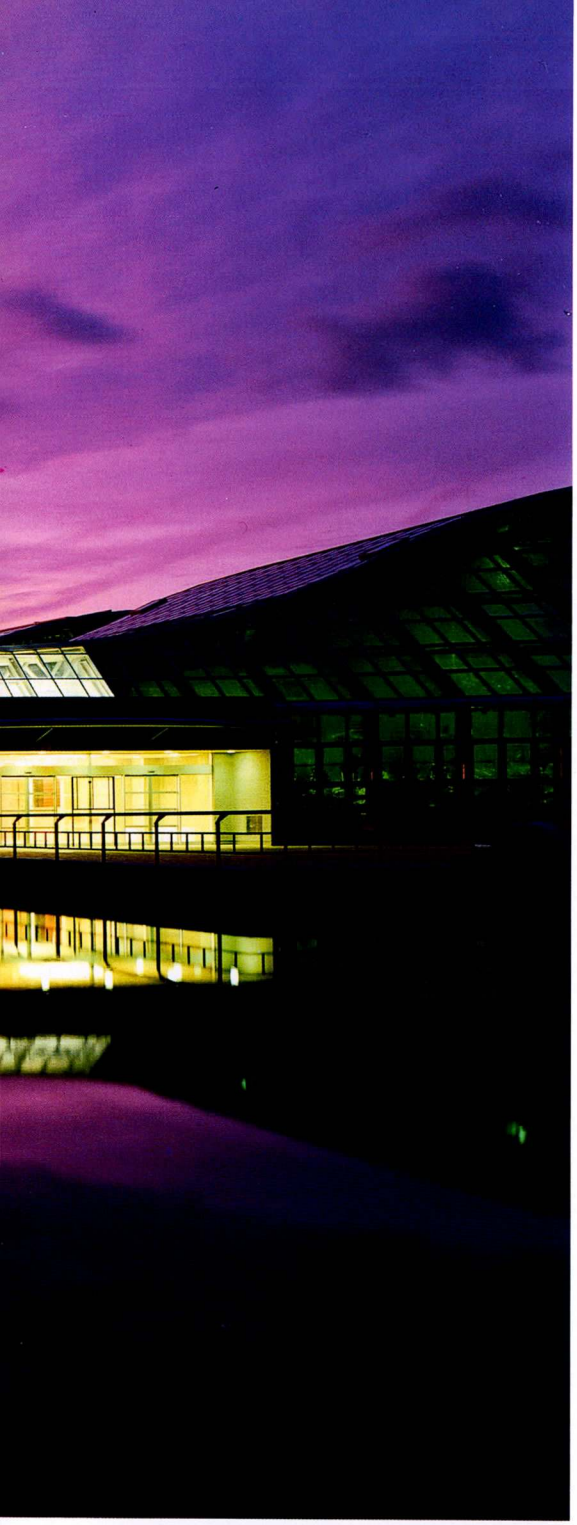
外映えの新観覧温室



ラン室



水性・食虫植物ゾーン

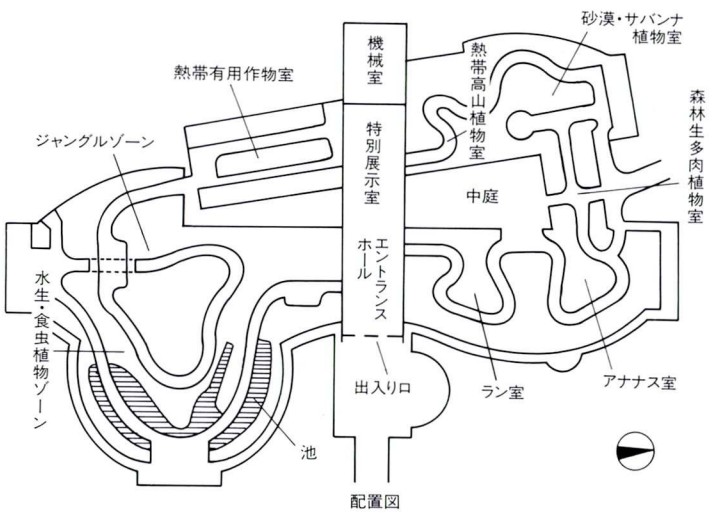


京都府立植物園新観覧温室

設計監理　環境設計研究室
施　　工　三井建設

所 在 地　京都市左京区下鴨東半木町
敷地面積　335,000㎡（植物園全体面積）
建築面積　4,800.88㎡
延床面積　4,800.88㎡
構造規模　S造（一部RC）、ＩＦ
工　　期　平成２年３月～平成３年10月
最 寄 駅　京都市営地下鉄北山駅
　　市営・京都バス植物園前

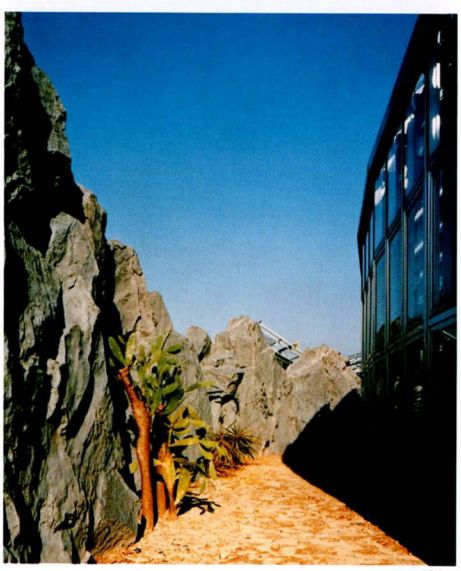
撮　　影　信和実業・徳高



配置図

大正天皇御大典記念事業のため、京都府は約10万坪の土地を用意しました。大正13年に三井家の協力を得てこの用地が京都府植物園として誕生して以来、皆様に愛され、育まれてまいりました。
終戦後の米軍による接収、昭和36年の再開園など、大きな節目もありましたが、昨今の社会的ニーズに応えるため、更に抜本的な整備計画がスタートし、新観覧温室の計画が進み、平成２年５月旧温室の植物の仮温室への移植から着手しました。
最大スパン56ｍ、４本のキール構造をふくんだ全体の造形は、京都の北山連峰と金閣寺のイメージです。広大な面積を持つガラス面は、ポリビニルブチラール中間膜の合わせガラスで安全を図っています。平成３年５月から９月までに限定された植物移植時期を終わって10月に全工程を無事故で終了、観覧温室は新しく生まれ変わりました。
当初の誕生時のいきさつは石碑に刻まれ、大正・昭和・平成と３代の世を見守ってきました。
記念碑とともに年輪を刻む樹木、四季ごとに咲き乱れる草花、1200年の京都の歴史の一端に、京都にゆかりの深い三井の一員としてささやかなお手伝いができたことを感謝いたします。今後、この新観覧温室が日本中はもとより世界中の人々から愛され親しまれて行くことが施工者としての最大の幸せであると考えます。

（藤本　治/三井建設）


西面外観

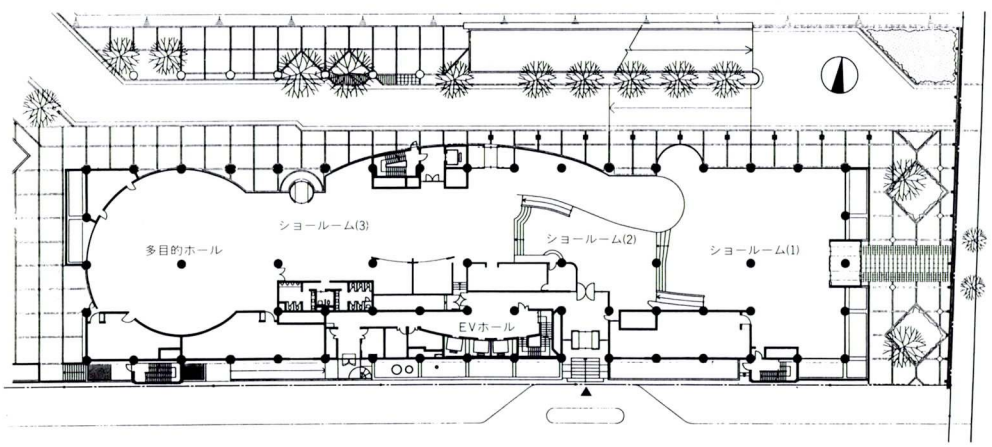

航空写真

KRPガスビル

設計監理　日建設計
施　　工　大林組



南面外観



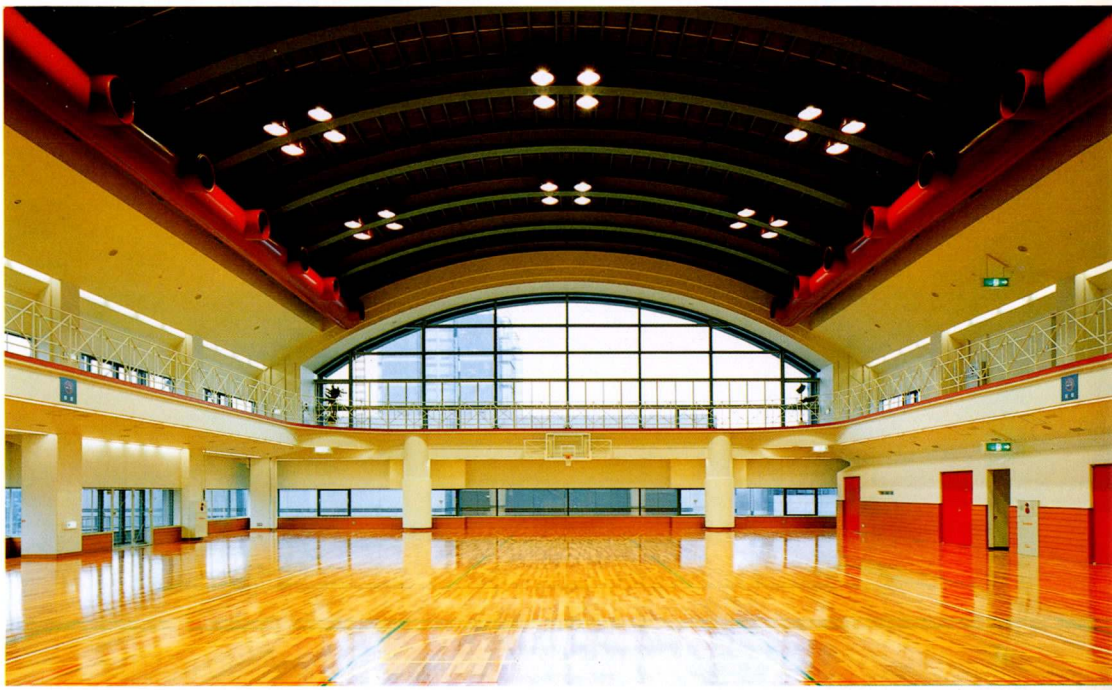
配置図・1階平面図 1：1000



北面外観

所 在 地　京都市下京区中堂寺粟田町１
敷地面積　38,417.868㎡
建築面積　 3,007.751㎡
延床面積　23,120.390㎡
構造規模　SRC、S、B2、6F、P2
工　　期　平成２年６月～平成４年６月
最 寄 駅　JR京都駅、ないしはJR丹波口駅
撮　　影　フォトはなおか

KRPガスビルは、大阪ガス㈱の京滋区域の一大拠点ビルとして、また京都リサーチパーク㈱が東地区に続く中央地区開発の第１号ビルとして建設され、その内容は、(オフィス・ショールームスペース)、(プール・体育館・アスレチックスペース)、(将来地区全体の巨大なプラント設備・クーリングタワースペース)などで構成されている。
設計にあたっては、全く機能の異なる複合ビルであるがゆえに明解な機能分類による断面構成を採用し、相反する条件は種々の技術的工夫を加えることで解決した。地下階にはプラント設備の振動・騒音源を集約し、オフィス・ショールーム空間を中間にはさみながら、最上階部分にはプール・体育館の大空間を設置した。やわらかい曲線デザインを内部スポーツ空間に取り込んだアーチ形状の屋根は、街の機能として要求された巨大なクーリングタワーや配管、煙突等も積極的にデザイン要素として組み込むことで、ダイナミックな街のフォルムを生み出すことにつながった。
さらに、KRPガスビルの南側に隣接する大阪ガス業務ゾーンに存在するガスホルダーとも断絶することなく、その威圧感をやわらかく受けとめ、今後に展開されるKRP中央地区の新しい街の出発点として誕生した。
(橋本　巌・矢島峰雄/日建設計)


５階体育館


２階事務室


１階EVホール


地階プラント機械室▶

積水化学工業京都技術センター

設　　計　京都大学加藤研究室・安井建築設計事務所
監　　理　安井建築設計事務所
施　　工　竹中工務店（研究棟）


北東側より空撮


中庭

当センターの特徴は、製品の技術開発を目的に、総合的な研究開発活動が効率的になされることにある。そのため、実験・試作・研修そしてそれらをサポートする管理厚生といった種々の機能が一敷地にまとまった研究開発施設となっている。

設計にあたっては、意匠面の基本コンセプトを尊重しながらも、種々の機能から生ずる異なる要求条件に対し整合性を確保しながら、経済面も含めてシステマチックにまとめあげることを最重要課題とした。

構造計画の基本的な考え方は、意匠面のマッシブなデザインを重視した軀体断面とするため鉄骨鉄筋コンクリート造を採用した。また、各棟は機能上の連続性を有するものの、構造的にはエキスパンションジョイントを設けて別建物とし、各棟ごとに適切な構造計画としている。

設備計画の重要ポイントは安定電源の確保、信頼性の高い熱源設備の構築、省エネルギーおよび耐久性を考慮した点にある。具体的には特別高圧の専用回線の受電とコージェネレーション設備を導入し、電源供給の二元化を図り安定電源を確保している。熱源設備はコージェネレーションの排熱を利用した暖房、ガス冷温水発生機、空冷ヒートポンプチラー、水冷スクリューチラーを組み合わせることにより、負荷変動の大きな研究開発施設に適切に対応できる計画としている。

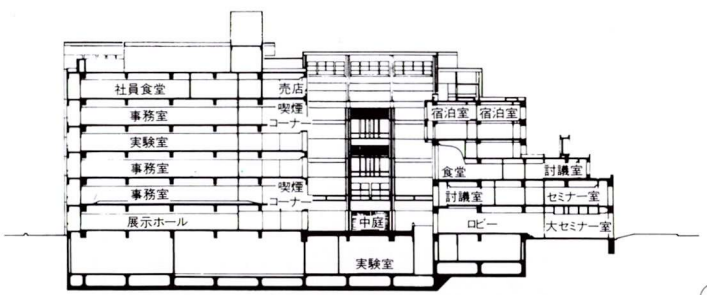
また信頼性・耐久性の確保については、建築主の自社製品への考え方とも共通した理念であり、多くのプラスチック系の機器・配管材料を採用したこともその一例である。

（大村鐵太郎/安井建築設計事務所）

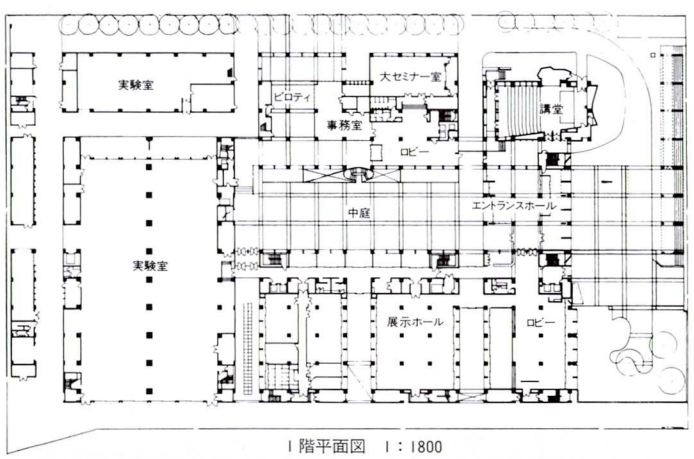
所 在 地　京都市南区上鳥羽上調子町2-2
敷地面積　17,500㎡
建築面積　3,536.76㎡
延床面積　19,917.13㎡
構造規模　SRC、B2、7F
工　　期　1989年11月～1991年12月
最 寄 駅　近鉄京都線十条駅

撮　　影　つねなりすたじお・SS大阪

東側外観

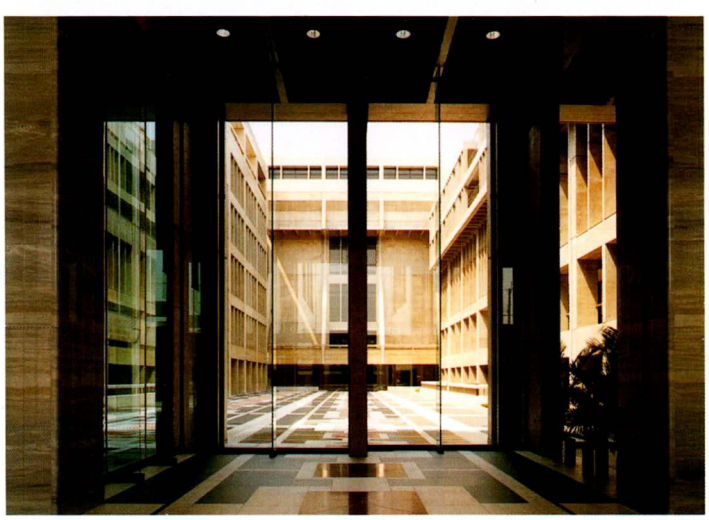


断面図　1：1200



1階平面図　1：1800


エントランスホール


エントランスホールより中庭を見る

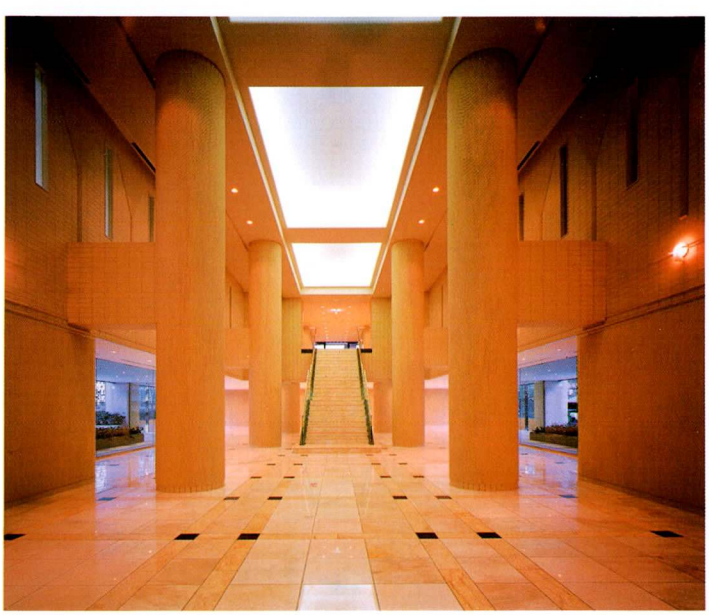
京都コンピュータ学院京都駅前校

設計監理　錢高組一級建築士事務所
施　　工　錢高組



全景


南側歩道状公開空地


エントランスホール

当敷地はJR京都駅の西、歩いて約５分、在来線と新幹線との狭間にある。近鉄京都線で約２年間現場に通ったがこの電車の中からもよく見え、仮囲いの外ずれるのをいまかいまかと待ちどうしく思ったものである。

学校という「響」の中に「思い出」「友」を思いうかべ〝ふれあい〟をテーマに選んだ、単なる情報処理技術者ではなく、〝明日をになう創造性豊かな人間を育成する〟という学校の教育理念にもとずき、学舎の内外を問わず、随所に溜りの場をつくってきた。特に６階の講堂（収容人数588人）はコンサートホールとして、音響設計を神戸大学名誉教授、前川先生にお願いした。またドイツから音響測定の技術者を招き、1/10の大きさの模型を製作し、日本で初めてのダミーヘッドによる測定実験をくりかえした。その結果、残響時間、1.1～1.5秒の間で用途に応じ対応できる音場豊かなコンサートホールとして好評を得ている。

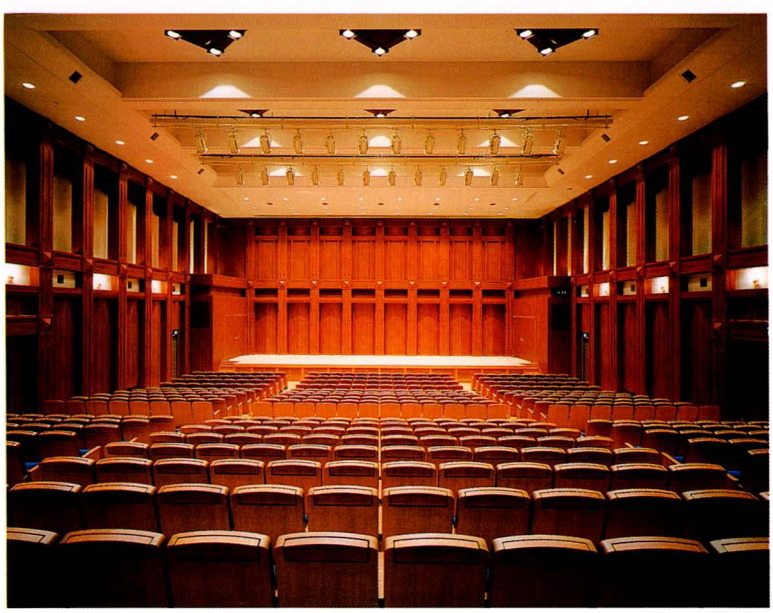
外廻りは総合設計制度の導入により、公開空地には多くの緑を植え、西側の公園とグリーンベルトによって繋がっている。こうした学舎の中で、交流の場、思索の場、安らぎの場を見つけ、多くの友人とふれてほしい。　（錢高組）

所 在 地　京都市南区西九条寺ノ前町
敷地面積　2,217,43㎡
建築面積　1,426.74㎡
延床面積　9,162.05㎡
構造規模　RC、B1、7F
工　　期　平成２年８月～平成３年12月
最 寄 駅　JR京都駅

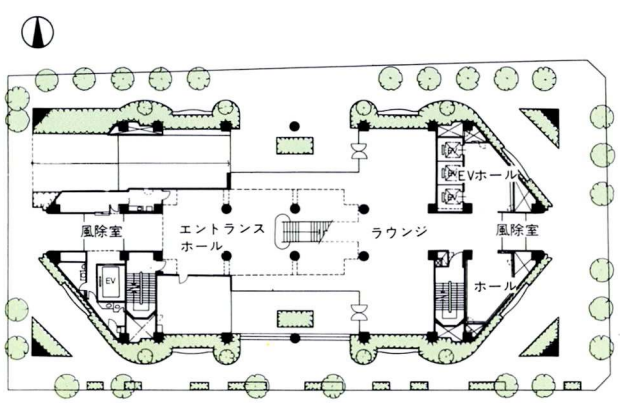
撮　　影　SS大阪



北側外観



6階講堂



１階平面図　1：800



写真１　正面外観

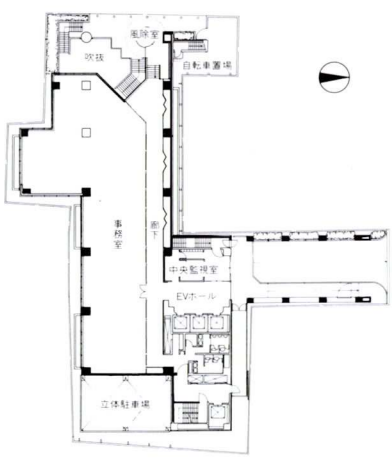
大同生命 京都ビル

設計監理　指宿真智雄・建築デザイン一級建築士事務所
施　　工　錢高組・清水建設・大末建設JV
建築工芸　田島順三製作所、日本電気硝子、日本ケーピーケー、日本電気化学工業所

所 在 地　京都市中京区烏丸通三条下ル饅頭屋町595番地
敷地面積　１,489㎡
建築面積　１,151㎡
延床面積　11,947㎡
構造規模　SRC、一部RC、ＢＩＦ、10F
工　　期　平成２年１月～平成３年７月
最 寄 駅　地下鉄御池駅５番出口

撮　　影　小林浩志

外　　壁　コンクリート下地、「溜色」アルマミラー、金貼ステンレスモール仕上一部ラスタータイル貼
外構等　コンクリート下地、ネオパリエ貼り壁・柱、御影石ジェットバーナー仕上床
建築工芸「数寄屋道」（ライトコート・エントランス・アプローチ・EVホール）の仕掛け
「溜色」アルマミラー及び金貼ステンレスモール「古代色」陶柱、「辻が花」ステンドグラス、「南蛮調」スーパー行灯及びミニ行灯、「辻が花」金泥屏風及び「辻が花」金貼EVドア



1階平面1：1000



写真２　1階ライトコート　陶質感をもつ古代色の柱

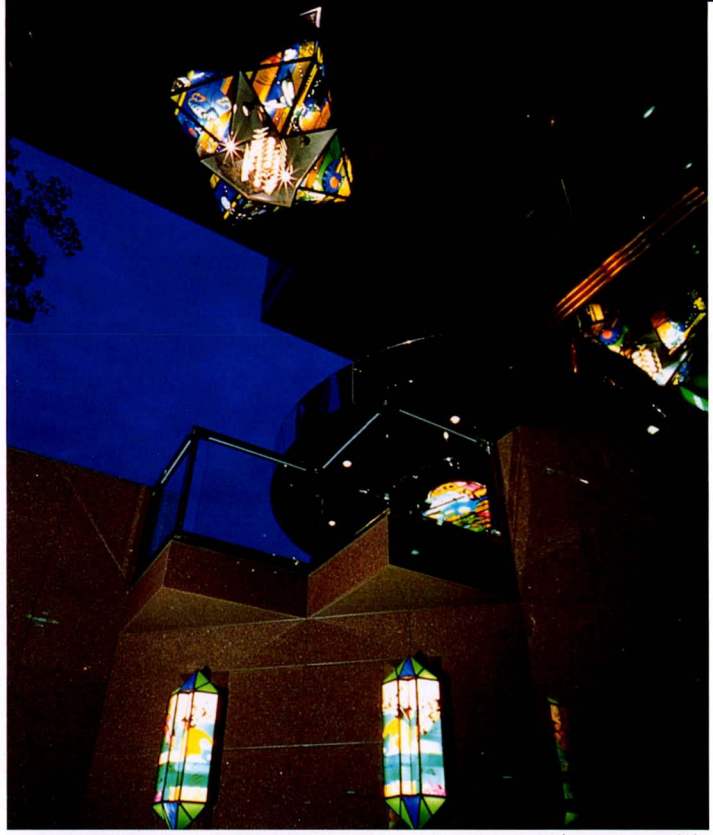


写真３　スーパー行灯



写真４　「数寄屋道」の傍にある屏風絵



写真５　1階エレベーターホール

現代の「数寄屋のこころ」

この敷地は、近代以降の町並みの残影をいまなお留める三条通りと、現代から未来へかけての業務中枢地区を形成する烏丸通りの、二つの異なった性格の道路に面するという特殊な立地条件を持っている。このことは、「京都の伝統と進取」のありようがデザインのテーマとなる事を示唆していた。この建物の外壁を覆うあたかも「溜色」の漆のように重厚な底光りを放つアルマミラーと、蒔絵の金箔のように華麗なきらめきを発する純金貼りモール、このおしゃれな外装（写真１）は、「京都の伝統と進取」をデザイン的に追求していくなかで、発想されたものである。そして、それらはアルミとステンレスという全く現代的な素材とハイテクで創出された新建材によって、見事に視覚化されている。

また、正面中央の吹抜に屹立する青磁のような太い円柱（写真２）は、今回新たに開発されたネオ・パリエの新製品で古代色の「秘色（ひそく）」（ライト・ターコイズ）の地に「縹（はなだ）」（サファイアン・ブルー）の斑（ふ）を入れて、深みのある陶質感を発生させている。これはテーマ・カラーである「漆器」（japan）のワインレッドに対し、アクセントカラーとして「陶器」（chaina）のパステルブルーをあしらうことによって、ともすれば単調になりがちな外観のリズムに「入破」としての効果を与えると共に、日本文化と南蛮文化が高次に遭遇した安土桃山時代を象徴している。

内装のテーマとした「辻が花」は、室町中期から江戸初頭にかけて、京文化の推移と共に誕生し消滅した安土桃山時代を代表する着物の文様で、染と織の融合を特長とする豪華絢爛なファッションである。それは、正面玄関のステンドグラス製「スーパー行灯」（写真３）やアンサンブルとなっている風除室の「光天井」および地下の「ミニ行灯」の模様として、また１階アプローチの金泥の屏風絵（写真４）やエレベータードア（写真５）の純金鏡面エッチングに、それぞれ新しい技法によってデザインされている。「辻が花」は、この地域が伝統的な京都のファッションの街「室町」であることを意識すると共に、併せて外観の意匠と対置的に「内なる京都」を表現している。

振り返ってみると、この建物のデザインは、「京都の伝統と進取」を追求するなかで、素材に徹底的にこだわったことに尽きる。素材への執拗なまでのこだわり――それは、まさしく「数寄屋のこころ」に通じると云えよう。

（建築家　指宿真智雄）

ときめきの街KUSATSU WEST

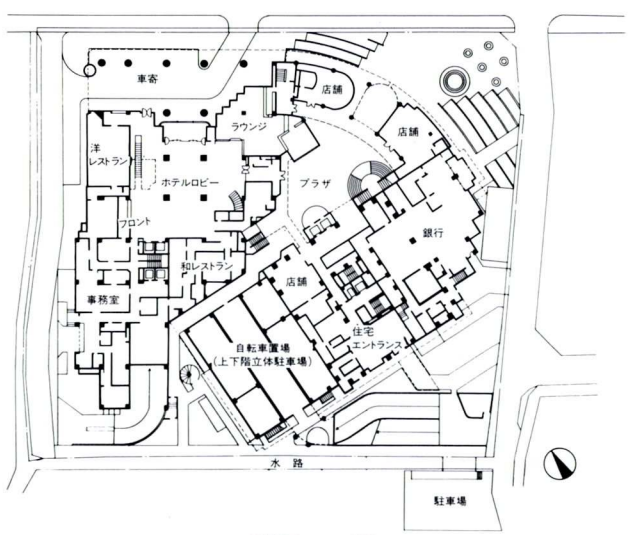
設計施工　清水・間共同企業体



外観



ホテルエントランス



配置図　1：1500

琵琶湖の南に位置し、古くは宿場町として栄えたまち、草津。滋賀県下一の産業都市であり、京阪神地域のベッドタウンでもある。しかし駅周辺は市街化が進まず、まちづくりの上で大きな課題が投げかけられていた。この計画はこの状況の下、市が進める『草津駅西口整備計画』の事業コンペ当選案としてスタートした。

私達は「若い世代が定住できる場・交歓できる場の提供」を主題に、高密度に複合化された〝街〟を目指した。建物構成は、最上部に展望レストランを抱く超高層住宅部と中層のホテル、そしてこれらをつなぐエストピアプラザと名付けられた低層のプラザである。店舗群は、前面道路に対し扇形に開き街路との融合を意識した。ホテルはコンベンションに特に重点をおいた施設づくりとし、住宅は琵琶湖への眺望を最大限に生かしたリゾート性のあるプランとしている。

外観は展望エレベーターで超高層のシンボル性を強調。足下の低層部を連続して湾曲させ、垂直性と水平性の対比を試みた。イメージは地域再開発の核となる宇宙基地とし、白銀とガラスの壁面構成の中、スペースバイオレットをテーマカラーに要所に配した。タイトルの〝ときめきの街〟の名にふさわしい、人々を魅きつける施設であり続けてほしい。

（野村秀治・上月俊輔・丸岡満美/清水建設）



プラザゲート



プラザ内部

所 在 地　滋賀県草津市西大路町字宿屋768-1
敷地面積　8,397.28㎡
建築面積　4,853.70㎡
延床面積　36,695.95㎡
構造規模　RC及びSRC、、B1、25F、P2
工　　期　平成２年４月～平成４年５月
最 寄 駅　JRびわこ線草津駅

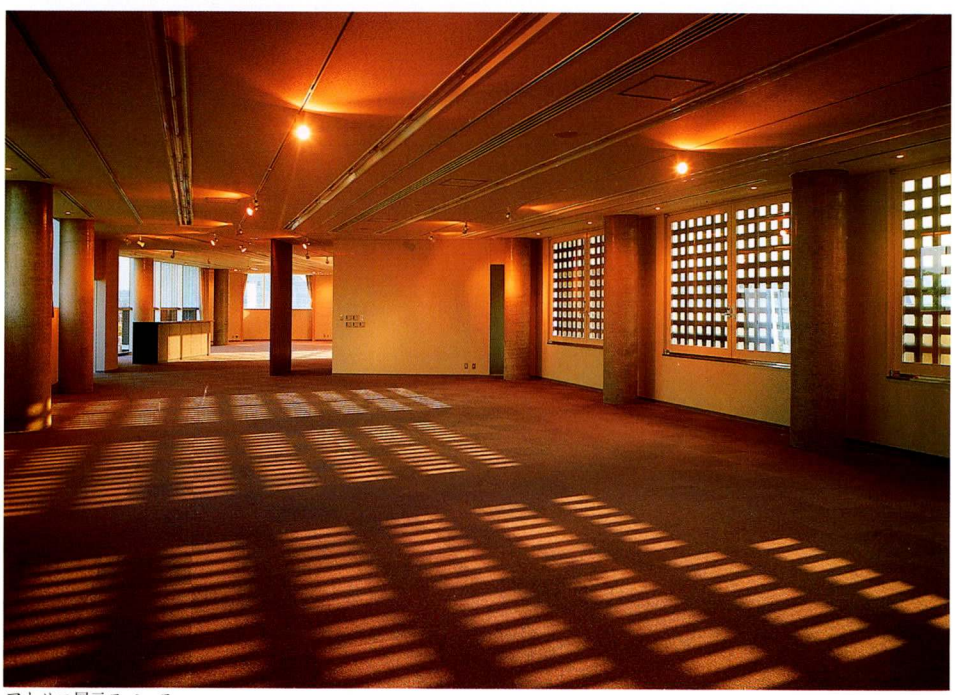
撮　　影　SS大阪

山中アート研究センター

建築設計施工　竹中工務店
造園設計施工　花豊造園



階段塔



アトリエ展示スペース

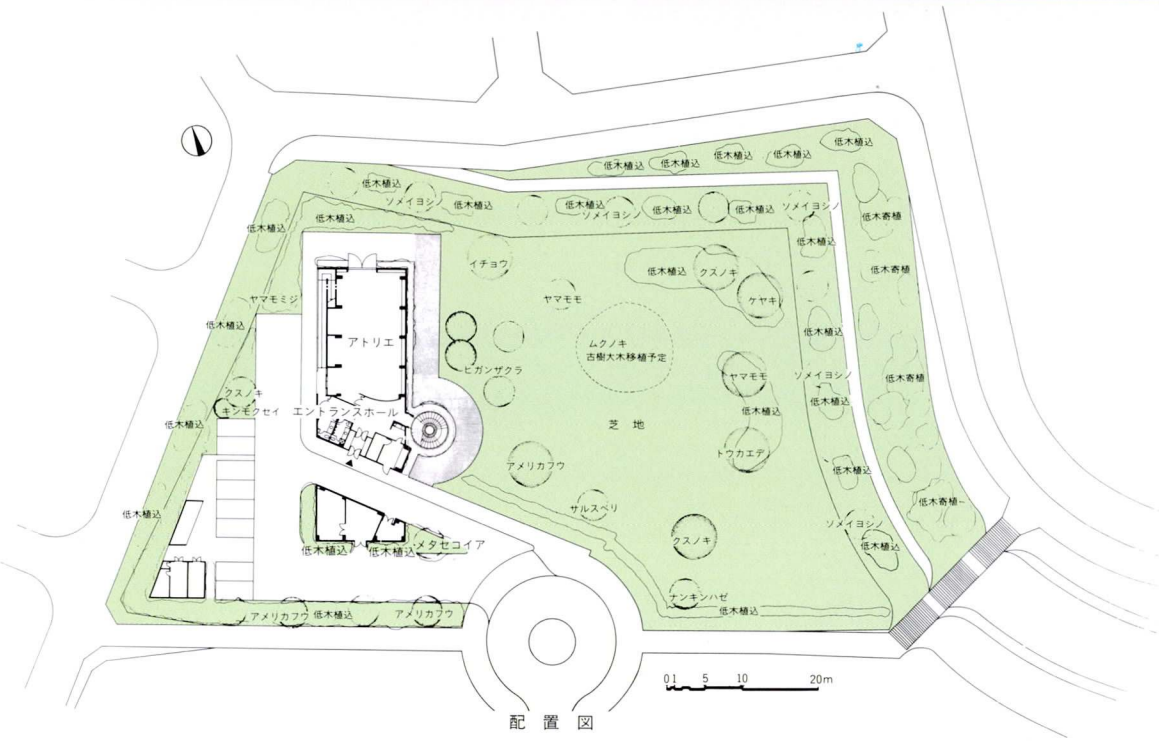
1990年、ハイタッチリサーチパークは、京都府の関西文化学術研究都市の平成・相楽地区に、民間では最初の研究所として誕生した。山中アート研究センターは、このリサーチパークの最北に位置し、東側に緑豊かな外部空間、遠くに木津の田園を望める高台にある。その設立の趣旨は、本業の呉服の卸を商いとされている山中株式会社が、京都の歴史的に高い技術力をもった伝統産業に着目して、その芸術的な技をいかに現代のトレンドにのせ、発信の場にできるか、又、「21世紀のライフスタイル」にのせていけるかという視点である。この建物のある北ゾーンは「静かな溜り」という環境の共通テーマで計画している。つまり落ち着いた緑の空間の中に、黒の割肌タイルとアルミ材のストライプラインのある外壁で構成された建物が、どっしりとした佇まいを見せている。それは伝統着物の色合いに見るような、色の対照を、建築的に現代の「粋」として反映させたものであり、透明シリンダーの階段塔と共にモダンな建築言語で語られている。この研究所はアトリエとして、海外のアーティスト達の活躍の場となっている。東面に拡がる造園は花豊造園㈱の手によるものであり、四季おりおりの植栽と芝のグランドカバーが良く調和してきもちのいいランドスケープを形成している。法面上部の外周廻りには、サクラとケヤキ、法面はサツキとツツジの密植、ハイタッチモールに沿った部分には、低木ツゲと花壇で構成されている。又、将来ムクの大木が移植できるよう準備が進められており、そのシンボルツリーが、ハイタッチリサーチパーク、北ゾーンのアイストップになるよう計画されている。

（小林康夫／竹中工務店）

所 在 地　京都府相楽郡木津町ハイタッチリサーチパーク内
敷地面積　7,102.3㎡
建築面積　509.87㎡
延床面積　1,286.49㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　平成３年６月～平成４年３月
最 寄 駅　近鉄京都線高の原駅

撮　　影　松村芳治

アプローチ側俯瞰

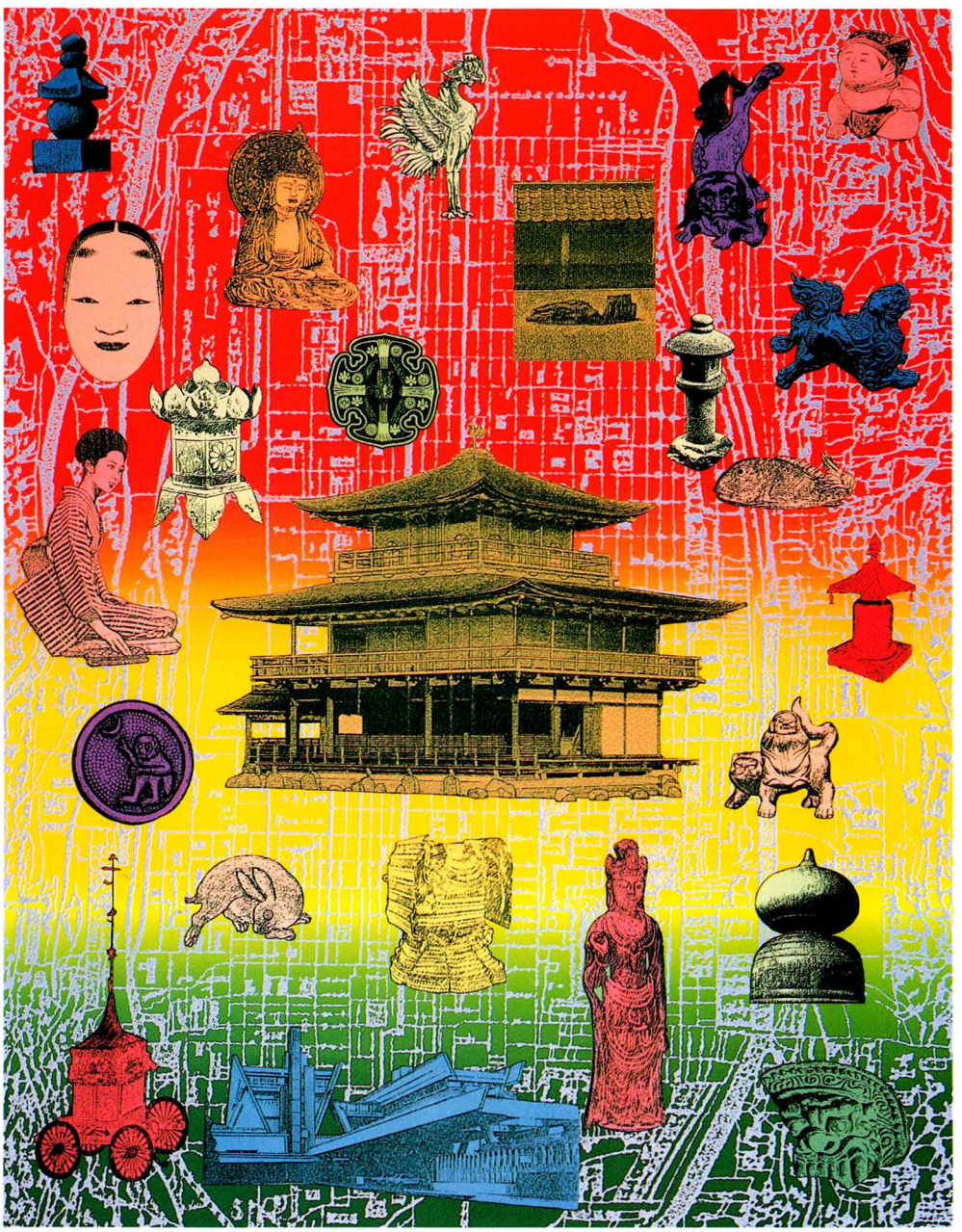


配　置　図

自分の中にこそ世界がある

——京都のかたちと色——

木村　光佑



京都の詩(1991作)

京都の風土

鴨川を北へ遡ると、出町柳で加茂川と高野川に分れる。

加茂川の上流は上賀茂で、その北には鞍馬、貴船、雲ヶ畑などがある。

高野川は途中越付近の山中から、大原、八瀬、上高野を経て出町柳で鴨川と合流する。下流では、京友禅の染色が盛んに行われた川である。高野川以西で、南北を下鴨と岩倉にはさまれた一帯が、松ヶ崎だ。

この松ヶ崎に京都工芸繊維大学があり、私は五年前からこの大学の造形工学科に、研究室を持つようになった。芸術に対する感性と、工学技術に対する知識を総合させて、将来の生活環境を造形することを研究する学科である。

研究室の窓からは、レンガ造りの建物や松、桜、銀杏などの木々が見え、学生が行き交っている。

北には妙法山が見える。妙法山は西山、東山に別れているが、大文字五山送り火には、西山に「妙」、東山に「法」の文字が点火される。

東山三十六峰では、北の比叡山から御生山、赤山、修学院山、葉山、一乗寺山あたりまで、大学の屋上から見ることができる。

キャンパスから東山を見ていると、ふと自分の存在が分らなくなる。今ここにいる自分は、一体何なのだろうかと考えてしまうことがある。

京都への憧れ

1959年（昭和34年）に、私は京都市立美術大学（現・芸術大学）日本画科を卒業した。

大阪生まれの私が京都の美術大学を選んだ理由は、絵を描きたかったというより、京都への憧れが大きかったような気がする。

「立体の方がおもしろそうだから、彫刻科へ入りたい。でも京都なら、やっぱり伝統のある日本画や」と、当時の日記に記している。

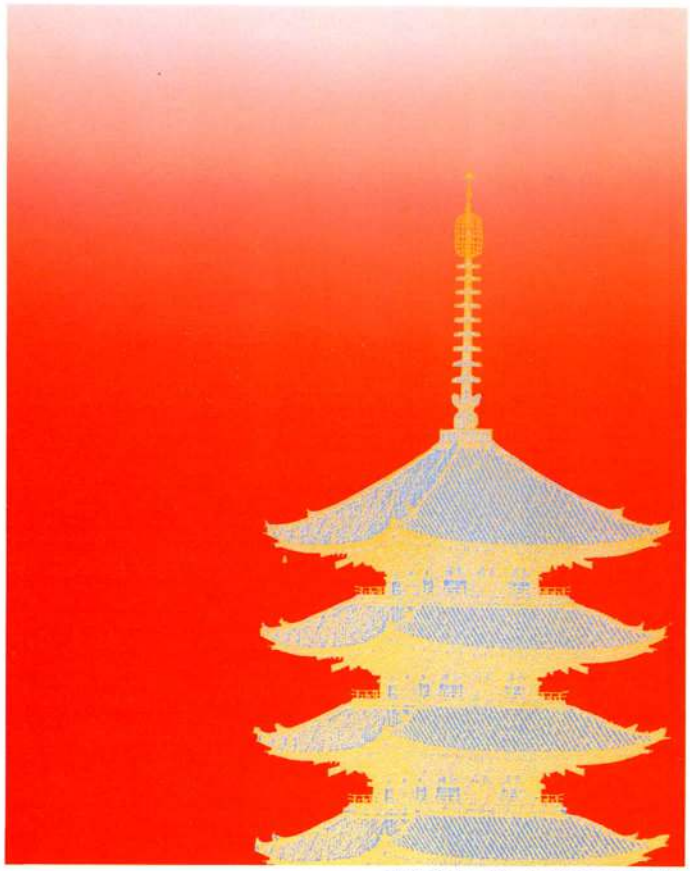
京都には、憧れとともに近よりがたい奥深さがあった。

子供の頃のことである。

戦中の都会の小学生の例に洩れず、私もまた小学２年から３年にかけて、滋賀県伊賀郡木之本町の余呉湖近くの寺に、集団疎開をした。疎開生活は、さんざんだった。食べるものも少なく、地元の子供たちには、いじめられっぱなしだった。

父が時々、疎開先へ迎えに来てくれて大阪の家に帰る途中、色街近くの京都の旅館に泊まったことがあった。白いゴハンを腹いっぱい食べて、ぶ厚いフトンに寝たことが印象的だった。

戦争中の殺伐とした世の中で京都には別世界があると、子供ごころに感じたものだ。



MEMORY OF KYOTO-V(1991作)

京都の色とかたち

美術大学では、鉛筆デッサン、細密画デッサン、色彩法などの手ほどきを受け、日本画の基礎をマスターした。

日本画は、物を大きなマッスとして見るのではなく、ディテールの寄せ集めとして物を把える。また、決して厚塗りはせず、色を薄く何回も塗り重ねて、ひとつの色を出すという彩色法をとる。

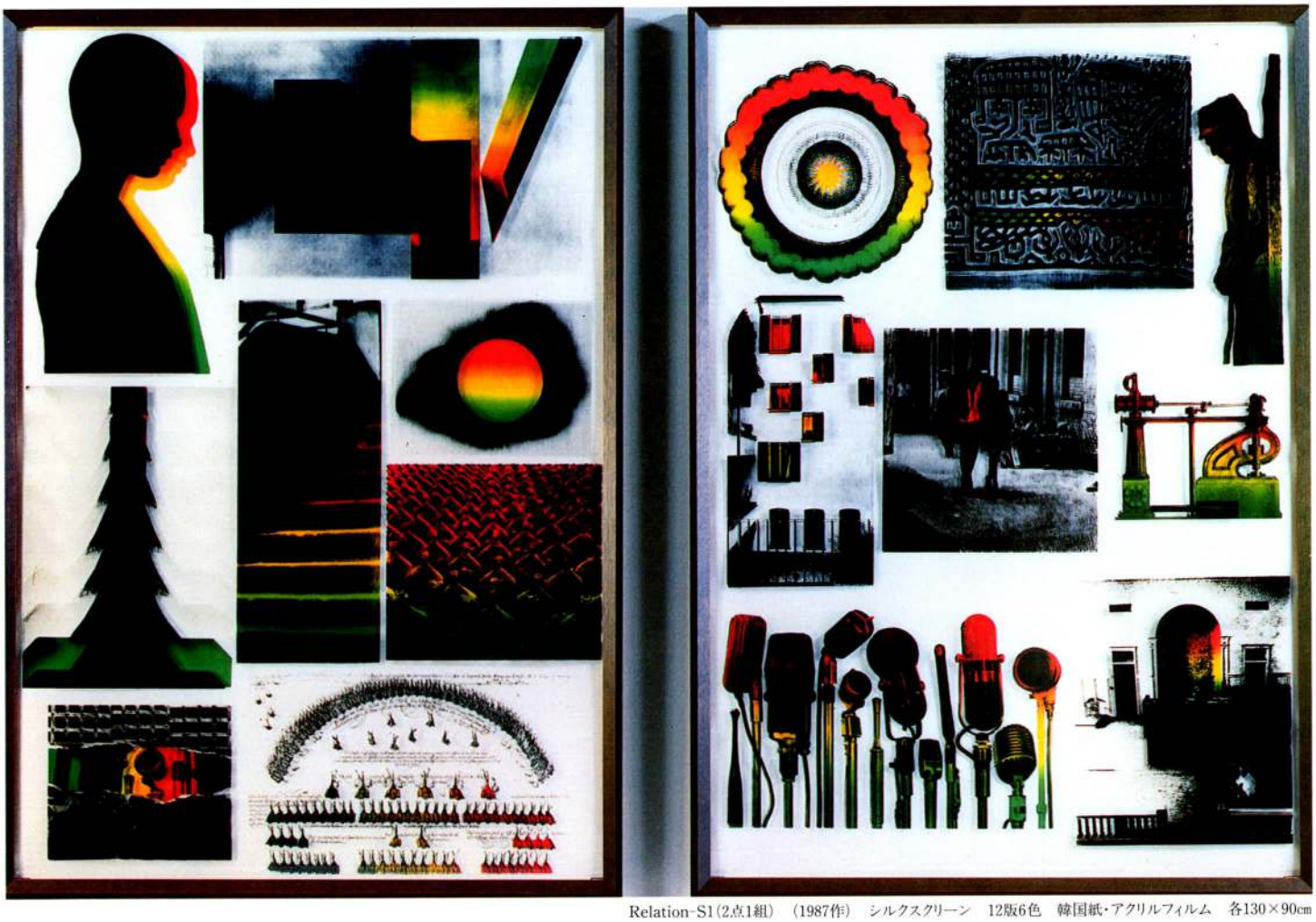
例えば緑を表現するには、初めに黄土色をひき、緑青の薄い色を何度も塗り重ねて、鮮やかな緑を出すのである。一見、緑と関係のない黄土色を下地に塗るところに、秘密がある。料理のための隠し味のようなものだ。

色を重ねると、きたなくなるのが普通であるのに、かえって鮮やかになる術は、私にとって大きな驚きだった。

卒業後、私は日本画から版画に転向するが、私の版画に見られるさまざまなイメージの重なりや、色をかけ合わせたりする技法は、ここに源がある。

「京都の色」は、この日本画の彩色そのものかもしれない。それぞれの色の下に、何色もの色が下地に使われているのだ。だからあの華やかさの中に、複雑な重厚さ、なまめかしさなどが入り交じっているのだろう。

「京都のかたち」はまた、龍安寺の石庭に、その一面を見ることができるように思う。石庭にある大小15の石は、ほとんどが土の中に埋もっていて、眼に見える部分は、ほんの一部分に過ぎないという。



Relation-S1(2点1組)　(1987作)　シルクスクリーン　12版6色　韓国紙・アクリルフィルム　各130×90cm



現在位置—存在(A)　PRESENT　SITUATION・EXISTENCE(A)　(1971作)　リトグラフ・シルクスクリーン　73.5×103cm

見えない部分があるからこそ、石の見える部分はさらに美しく感じられ、さらに見る人のイメージをふくらますのではないだろうか。

下地の色とか、見えない部分の存在こそが歴史であり、伝統の重みなのだろう。

内面世界の表現

京都市立美術大学の日本画科には、榊原紫峰、上村松篁、奥村厚一、秋野不矩、石本正などの諸先生がおられた。

日本画の世界は比較的保守的であるが、京都美術大学の日本画科の当時の雰囲気は、むしろ自由放任であった。先生方は、自分たちについてくる学生だけには教えられたが、他の学生は放任されていた。私はエリートの学生ではなかったので、放任組のひとりだ。だから版画への転向もできたのだろう。

榊原紫峰先生に一度だけ、作品の批評をしていただいたことがある。

「君の絵には、描いているものの向こうを見ているところが、大変よい。描く対象と君自身の、内的な生命を表現するように、心がけなさい。」と言われた。

私が学んだ頃の美術大学は、東山の今熊野にあった。(現在の芸術大学は、1980年〈昭和55年〉に西京の大枝沓掛に移転している。)在学中は制作にゆき詰った時には、よく草笛を吹きながら東山を眺めて、将来の自分を夢みたものだ。



虹の塔(1992作)　エナメル(七宝)　13.5m×1.5m×40cm　(阪急京都線茨木市駅東口広場)

今、研究室がある京都工芸繊維大学のキャンパスから東山を見ていると、タイムスリップして、30数年前の学生時代に戻ったような気がする。

美術大学時代に見た東山は、グレーの濃淡さまざまな表情があるモノトーンの美しい穏やかな山だった。そのころ私にとっての京都は、モノトーンのグラデーションの色彩を帯びていたのだろう。

京都で生活する人、京都を旅する人、みな自分の心の中で、京都のかたちや色を作り上げていく。それぞれの街には、それぞれの時間が流れ、人々は自らの体験をもとに、その街のかたちや色を把えているのではないだろうか。

学生時代には、モノトーンの山々のように感じられた京都が、工芸繊維大学での今後の体験によって、私の中で、これからどう変化していくのだろう。

(きむら　こうすけ　京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科教授)

木村光佑氏プロフィール

1936　大阪市に生まれる
1959　京都市立美術大学(現・芸術大学)日本画科卒業
1968　第8回現代日本美術展
1969　現代美術の動向展(京都国立近代美術館)
1970　第2回英国国際版画ビエンナーレ・受賞
　　芸術生活社コンクール賞受賞
1971　ジャパンアート・フェスティバル・大賞受賞
　　第9回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ・国際大賞受賞(ユーゴ)
　　第2回現代国際彫刻展・コンクール賞受賞
1972　第4回クラコウ国際版画ビエンナーレ・三席賞受賞(ポーランド)
　　第1回ノルウェー国際版画ビエンナーレ・国際大賞受賞
1973　第1回世界版画コンクール・一部二部共大賞受賞(アメリカ)
　　第5回現代日本彫刻展・毎日新聞社賞受賞
1974　メディウムの歴史展(フィラデルフィア美術館)
1975　アントワープ野外彫刻展(ベルギー)日本代表
1976　イビザ・グラフィックビエンナーレ(スペイン)
1977　第7回現代日本彫刻展・大賞受賞
1978　第4回ノルウェー国際版画ビエンナーレ・買上賞
　　第6回現代彫刻展・東京国立近代美術館賞受賞
　　第1回ジャパンエンバ美術展・コンクール賞受賞
　　第7回クラコウ国際版画ビエンナーレ・買上賞
1979　木村光佑の版画と彫刻展(大阪府主催)
1980　大阪大学本部学舎陶板壁画〈孤独の輪郭〉制作
1981　第9回現代彫刻展・群馬県立近代美術館賞受賞
　　神戸ポートアイランド博テーマ館壁画制作
1982　第1回中華人民共和国国際版画展(台北)
1983　第15回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ・受賞
　　第4回ソウル国際版画ビエンナーレ・優秀賞受賞
1984　第10回クラコウ国際版画ビエンナーレ・ゴールドメダル賞受賞
1985　大阪国際経済振興センター(インテックス大阪)陶板壁画制作
　　川端康成記念館(茨木市)壁画〈リレイション〉制作
1986　芦屋市市街地開発ビル・ラポルテ壁画〈ランドスケープ〉制作
1987　第3回富士国際現代美術展・日本代表
　　松壽美術館(現代の版画)特別展・大賞受賞
1988　大阪市制100周年記念ポスター制作
　　福岡KBC朝日放送・陶板壁画〈リレイション〉制作
　　大阪音楽大学・壁画〈響—1〉〈響—2〉制作
1989　大阪府村野浄水場・陶板壁画〈水の詩〉制作
　　茨木市総合センター・モニュメント〈明日へのメッセージ〉制作
　　郵便切手(62円)意匠〈文楽と中之島公会堂〉制作
1990　インターグラフィック'90(ベルリン)
　　小豆島オリーブ公園モニュメント制作
　　花博写真美術館〈アウトオブタイム〉出展
　　兵庫県龍野市舎壁画〈龍野の詩〉制作
1991　名古屋中村公園文化プラザ・緞帳制作
1992　阪急電鉄茨木市駅東口広場モニュメント〈虹の塔〉制作
　　茨木中央図書館・モニュメント〈悠久〉制作
　　(92年度)国際芸術文化賞受賞(日本文化振興会)
　　市民表彰文化功労賞受賞(大阪市)

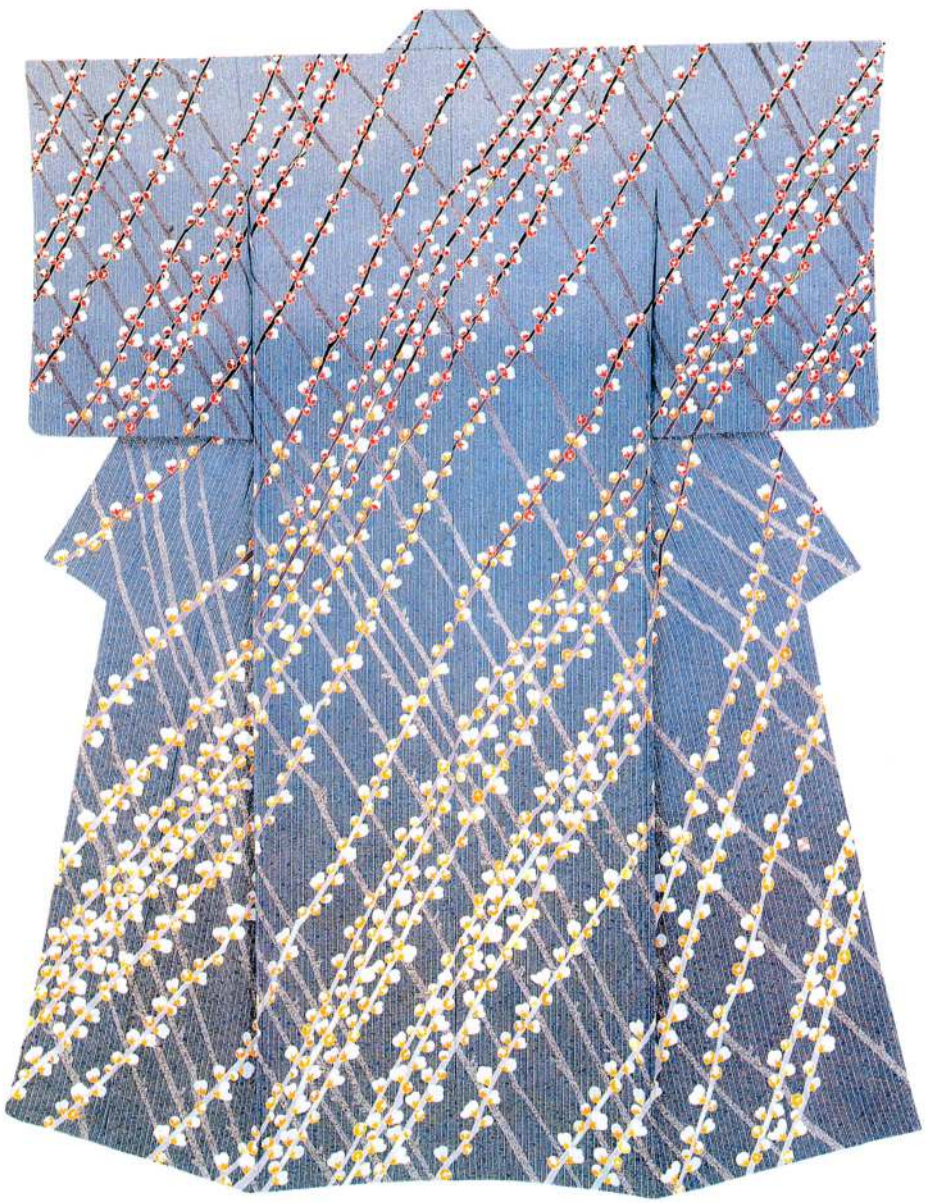
京友禅
京都をつつむ自然

染色作家
羽田 登



日本の「きもの」は、世界の中で最も美しい衣裳のひとつであろう。「きもの」は二千年の歴史をほこる日本の民族衣裳であるばかりでなく、常にその時代の染色技術の粋を結集した工芸品として、四季豊かな日本の自然を背景に、人々の生活文化を豊かにし、日常生活をさまざまに彩りながら、日本人の感性によって磨き育てられて来た。特に京友禅が三百五十余年もの間、日本の女性たちに愛されて来たのは、単にデザイン、文様の多様さだけが理由として考えられるのではなく、手工芸によるすばらしい技術を駆使し、常に磨かれた斬新な感性に支えられてきた。

花鳥風月を題材に描く場合、そこには当然精緻な描写力、絵心が必要とされる。一方、非形象の作品には題材となった風物がそのものの形として残されていないため、一見、描写力とは関係ない離れた表現であるかのように見えるが、自然を対象としてのもの作りである以上、非形象、抽象的な作品の方が、より一層の描写力が必要となる。題材を単純に線や円に転化するのではなく、写生を繰り返し、写実が消化された末に自ずと不必要な削ぎ落されていくというように、作為的でなく、



訪問着「清韻」/Formal Kimono「Seiin」

いつか無理のない自然な仕事が出来る時期が来ると思える。

ところがデッサン力を疎かにしてパターンに依存してしまうと、思考的な表現に片寄って、作品の幅が狭まってしまう。題材としたもとの形象は失せてしまったようでも、そこにいくらの自然の匂いや感情を残す表現をする。感動した時の余韻(よいん)を絵姿に表わすためにも、この描写力の習得は創作の第一義だと思う。

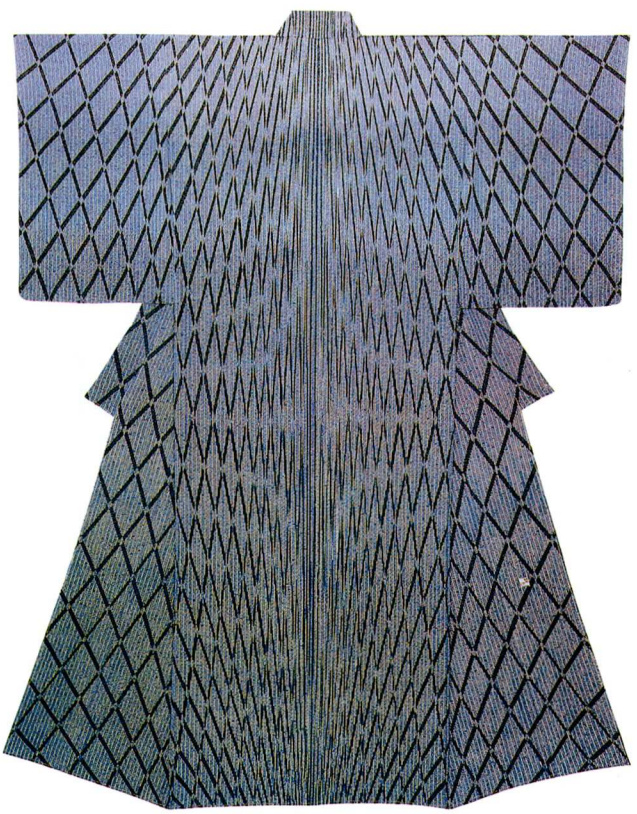
そして出来上がった作品は、まず白黒(モノクロ)の写真に納める。色彩に惑わされることなく線や構図のバランスを再確認するためである。制作中はどうしても草稿、下絵、染の段階で計算し尽して作業を進めていても迷いが出る。改めて作品を眺めてみると当初の思いとずれが生じる。これを逆手に次の作品へと移行させ予期せぬ効果があらわれることもある。

私の制作テーマの大部分は、春夏秋冬の区別がはっきりとした「京都をつつむ自然」である。京の町には、常に微妙に変化している季節の中に美を発見し、雨、水の流れ、光、花など、いつも動いて止まぬ自然を見つめながら生きる、町衆の眼がある。作品「古都随想」は、京格子、大原女の藍絣と、碁盤の目のように整然と区画された町並、いにしえの京に繰り広げられた平安朝の優雅な趣に思いを馳せて制作した。都大路をイメージした斜めの線で、揺(ゆら)きながら外へほとばしる拡(ひろが)りに、今後も躍動しつづけるであろう京都の町を表し、紫と藍と緑の配色は、自然の中での安らぎを感じさせてくれるような現代の都市の姿を意識したものである。

(はだ　のぼる)



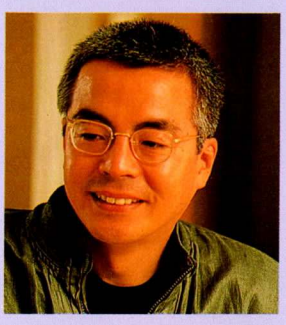
訪問着〈揺曳〉/Formal Kimono〈Yūhiki〉



訪問着〈古都随想〉/Formal Kimono〈Kotozuiso〉

西陣織 自然と人との間にあるいろぬの（色布）

（株）ひなや他五社（自然染織関係企業）代表
伊豆蔵 明彦
日展会友・日本新工芸家連盟会員



1200年　ぼう大な時間の中で、生活文化が癒され時間の中にとけこむ京都の盆地には、今だに個の人間の物さしを超えた自然と時間とのつながりといった心がそこ、ここに多くある。まわりの山々は、四季の移ろいの中で日々変化し、その二度と訪れることのない自然の賜物は心を響かせてくれる。

京都の人達が古くから伝えた染織は、自然繊維を自然染色の組合せから生まれる色布の世界として、社会の衣と住の空間に永い間、なじみ続け、人間に深い満足を与えてきた。

いつのころか社会は便利で楽な生活様式が発展し出した。均質化がどんどん進み、その事がよしとされ出し、いわんや色布の世界までも、自然のそれよりも化学の色布が余りにも多くなり、今日までそれは延々とつづいて来ている。色布の世界から見る限りでは、ストップをかけなければと感じ思うほどの勢いだ。

今、社会では自然についての話が、地球的規模で語られる様になった。ところが現実として、人間と自然が何故か結びつかない。

自然の大切さや美しさは感じるが、一本の糸でしっかりと魂が結ばれているといった実感が得られなくなったし、また傍観者ならざるをえないところにおかれてしまったように



唐組錦紫根染壁掛――華の幻想――

思う。

何故なのか？色布の世界にたずさわる人間の一人としてこのことを感ぜずにいられない。

ヨーロッパで発明されて以来、世界に限りなく100%近く普及した化学染料が化学繊維と共に、色布の世界の主役となって社会の衣や住の空間にその役割をはたしている。

こうした化学繊維やパウダーとして、工業的に製造された化学染料は簡便に混ぜ合せて、色や布をつくることが出来るし、この工業的に生み出された色布はそのもの自体、きわだって美しく、人々を感動さすものとして、世界の人々から利用されて来たが、私は、この色布自体はうつくしく目に映るが、これが人体とか空間といった全体と色布の接点においてなじまないように思えてならない。

こうした時に、色布の世界も現代のターニング・ポイントとして、一本の糸と一つのいろといった原初の構成を、じっと見つめる事が極めて大切になって来ている。

自然の草木や虫といった自然からの染材のいろや自然繊維でつくる色布は、人体とか空間に全体として調和して、みることや、ふれることが出来る。それは有史以来、自然と人間の密なかかわりの中から生まれてきたものだからである。

化学の色布が氾濫する現代。こういった自然の色布が現代の社会空間の衣と住の中で日常的に存在すれば、自然と人間のあいだにおのずと道をつくる役割があるのではないか。現代は個が行き過ぎて、全体の調和をなくす方向にある。こうしたとき大切なことは、個を超えて、全体から、受け止めていく必要性をもつことである。再構築に余念のない日々である。

（いずくら　あきひこ）



鴨川上流で水の力のみで立体的な布をつくる風景



「鴨川の上流で生みおとされた恐竜の卵」

京からかみ 枯葉色のハーモニー

唐長十一代目 千田堅吉



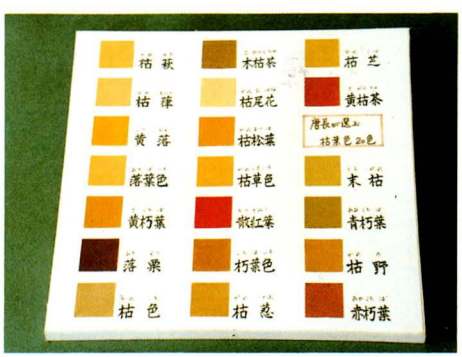
私の工房のある京の洛北、修学院の辺りは、すぐ東には山があり、道はその山に向かってなだらかな坂道になっている。そして麓には、紅葉で有名な曼殊院がある。曼殊院は門跡寺院であり、秋の季節には紅葉を楽しむ人々で賑わっている。このように京の四季を感じることのできる所に工房があり、特に色彩を大事にする仕事である京からかみをつくる者にとって、この恵まれた環境をありがたく思っている。

ある時、何気無く、周辺を歩いていた時、道にある枯葉の２～３枚を拾ってみた。きれいな色をしているので、そのまま工房に持って帰って置いておいた。私は以前から自然の草木が好きである。そして時折、枯れかかった、もしくは、枯れきった落葉に興味をそそがれる。枯葉をよく観察してみると自然の風土がなす技か、部分部分の色が見事に調和されており、おだやかな茶色のハーモニーをつくっているのである。この茶色とて、かつては若芽の時の若緑があり、深緑、そして黄、赤と移りゆく、その葉そのものにもストーリーがあり、枯葉には実に多彩な色が含まれているのである。

今から三年前のことになるが、そんな興味の中で枯葉展をやってみようと思いつき、たまたま、御所の近くに京からかみの資料展示をしているギャラリーを持っているので、早速に具体化していったのである。実際は枯葉そのものは街路を汚し、銀杏の葉などは家の樋をつまらせたりして公害になっているが、当ギャラリーでは床に枯葉を撒いて秋の景色を演出した。同時に枯葉の色を見本に京からかみの技法を使って和紙に色を染め、松葉とか、紅葉などの版木を使って枯葉のからかみをつくり、展示してみた。

このガランとしたビルの一室がたちまち秋の景色に変わり、見る人にそれぞれの興味をもって楽しんでもらった。その時、ふと感じたのであるが数寄屋建築、京の町家に使っている色の殆どはこの枯葉色と同じではないかと。

（せんだ　けんきち）



唐長京からかみ　枯葉色資料





枯葉の板木



枯葉のからかみ

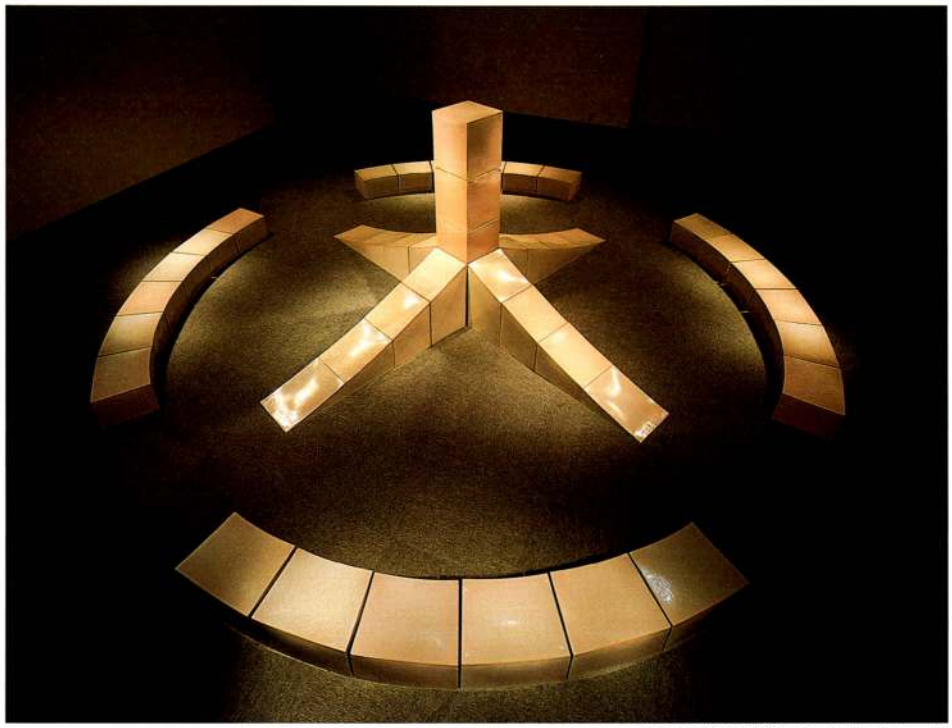


ギャラリー

京陶芸 陶における色と質感

陶芸家 清水 柾博





TIME COMPASS-91　撮影　畠山　崇

焼き物の色と言えば、先ず第一に釉薬の色があげられるだろう。発色は基礎となる透明釉やマット釉に紅柄とか酸化銅といった金属酸化物を数パーセント添加することにより得られる。伝統的な釉薬としては青磁や天目といった鉄釉、辰砂や織部などの銅釉がよく使われるが、これらも焼成条件によってずいぶん発色が違う。

そして当然ながら釉薬の色と形との関係も大きな意味を持つ。私の場合はいわゆるオブジェの仕事の中でもフォルムに拘った仕事をしてきたためとくに釉薬の選択には慎重になる。10年近く前から使ってきた黒いマット質の釉薬はその寡黙でストイックな性格からシャープなフォルムにふさわしいと思っている。

また最近使いだした釉薬にオパールラスター釉と呼んでいるものがあるが、これは半鏡面的な効果をもっていてまわりの色や景色を映しこんでくれる。鏡や鏡面仕上げのステンレスのように完璧なまでに周囲の景色を取り込むことはできないが作品のまわりの色や光を反映してくれる。アクティブに色を発するのでなく周囲の色や光を一旦、吸収しそれを自分の色や光として発すると言えるだろう。

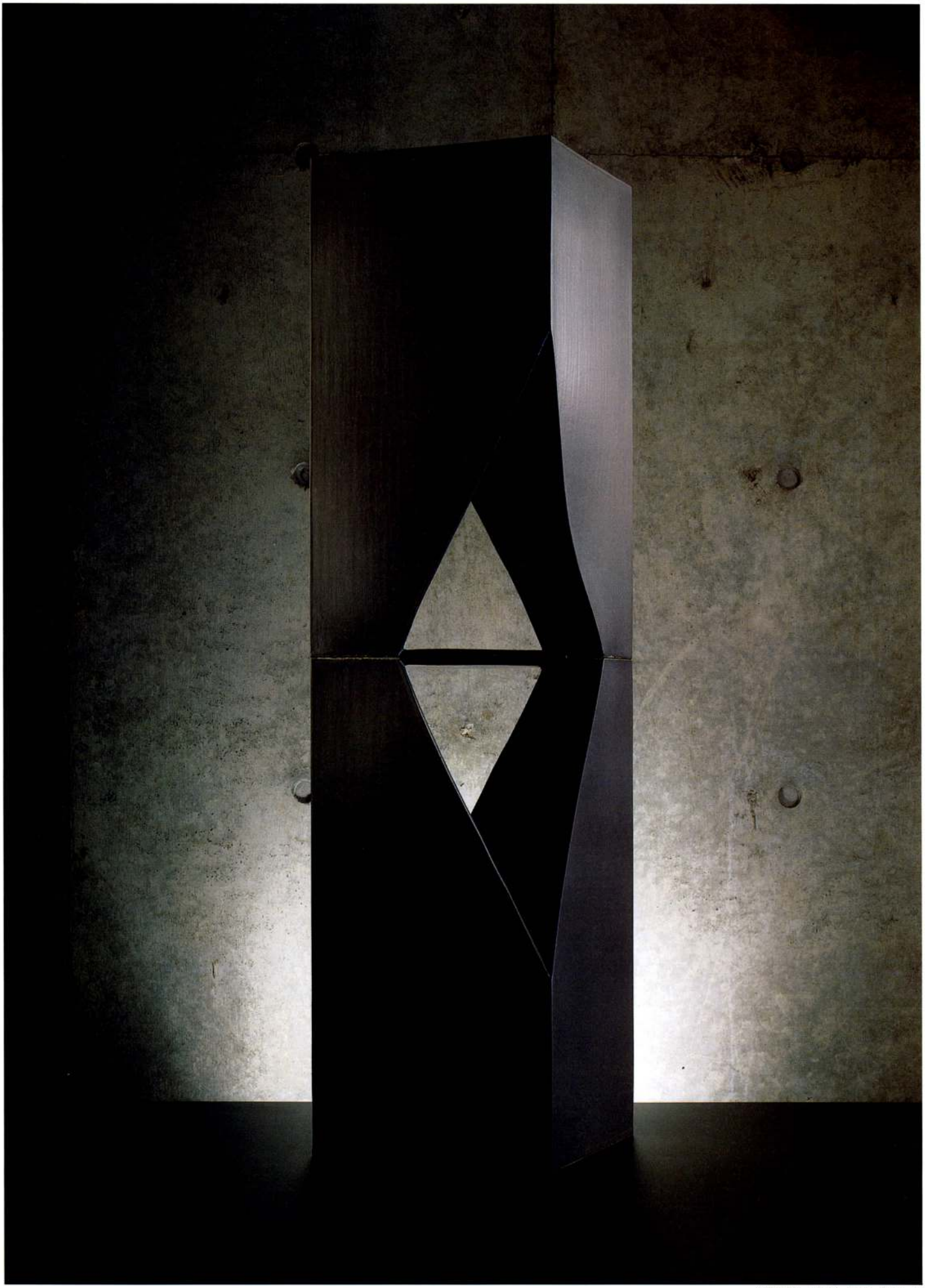
色の持つ存在感というのは、一つはそれが存在している場にあってまわりと対抗して自らの存在を示すものとそれとは逆にまわりと調和することによってその存在意義を持つ物があると思う。私の作品においては黒マット釉は前者に当たりオパールラスター釉は後者に当たるであろう。

先日、あるデパートのホールを使って開かれた陶芸の展覧会があり、私もそこに出品していたのだが、十人の作家が一人10坪くらいのスペースを自由に使って表現できるという企画だった。ただ条件としてディスプレイに色を使うということがあり、各人のスペースにそれぞれ違った色の紙を使い床や壁が構成された。そこで一つ問題に思ったことは、色の質感ということである。普段、私達が展覧会を開く画廊やギャラリーの空間と言えばモノクロームのニュートラルな場所や板張りのように自然の素材を生かした場所が多い。それが色の空間に置き換わったとき、色の相性とともに質感の相性もより重要なファクターとなった。すなわち、焼き物のもっている質感とまわりの空間の質感との問題である。言い換えれば素材同士の調和の問題と言えようか。この展覧会では各スペースのディスプレイに同質の紙を使うということでその点に踏み込めなかったのが残念だが、作品と展示空間の問題は双方が同じ机上で議論することが必要だろう。

（きよみず　まさひろ）



SPACE RECEPTOR　B（手前）　撮影　田中　学而
SPACE RECEPTOR　A（奥）　同



空間形状　92-P　撮影　齋城　卓

京表具
文化財保存修理と色彩

（株）宇佐美松鶴堂　代表取締役
宇佐美　直八

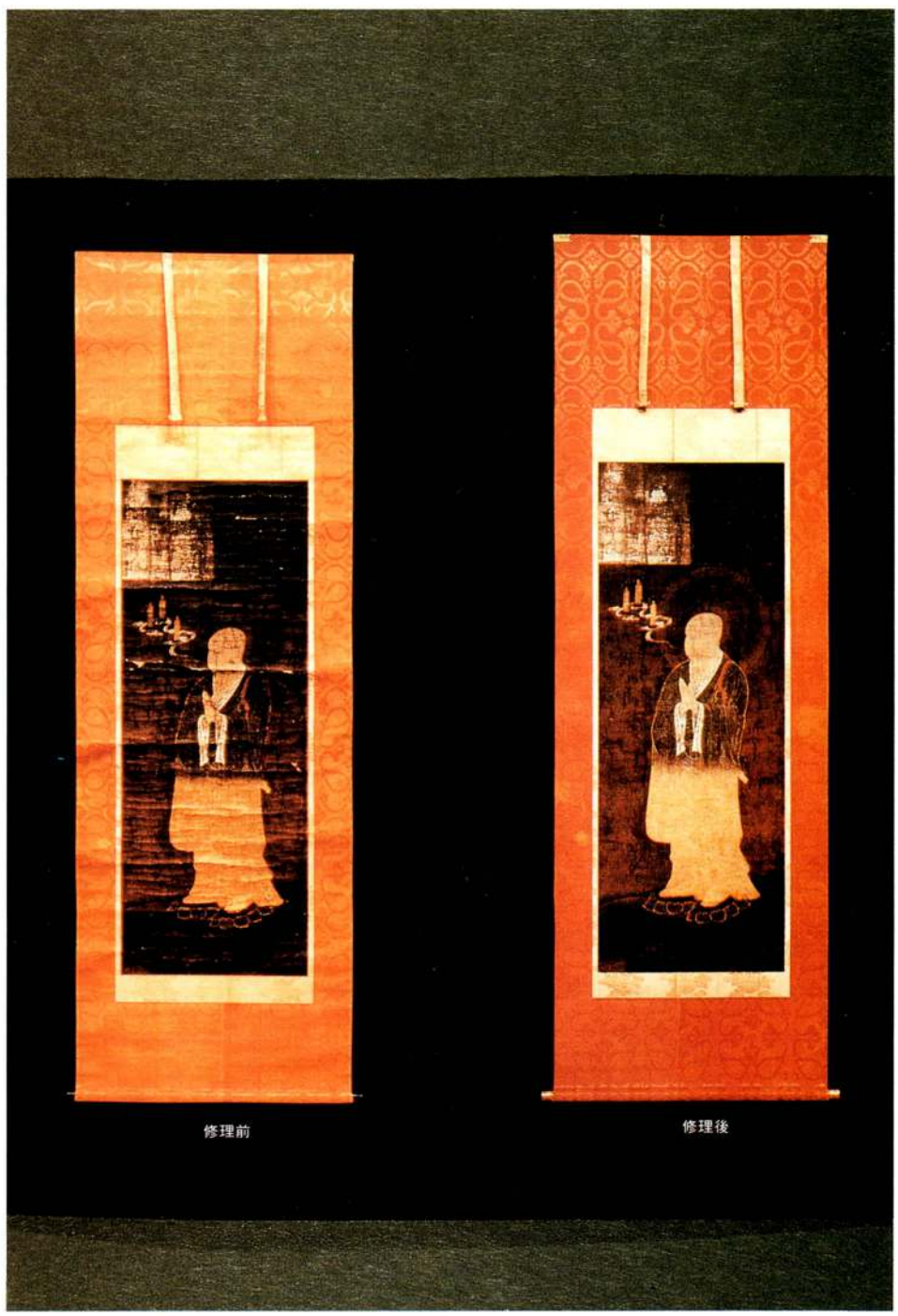


我々の今最も重要な課題のひとつは日本の文化財（特に絵画）をいかに安全に、素材になる顔料を古代の儘の状態で後世に伝承していくかということであろう。日本の文化財は（紙又は絹）の上に描かれたものが大半である。紙、又は絹が何百年又は何千年もの経過に依って脆弱化し、従って其の上に著色された顔料も共に破壊される事は物理的にも当然の事と云える。

我々に課せられた職業的な課題は、太古より先人の残してこられた文化的遺産の内で最も大きなポイントになる彩色部分を安定した状態で保存し、尚、日本の伝統的な表装技術によって補強する事にある。

又、彩色部分の顔料は天然岩絵具を用いてあるものが多く、特に江戸初期の狩野派の作と云われている二条城の障壁画。又は名古屋城の障壁画は金地極彩色の作品で共に約350年前の作品である。これらは時の最高権威者が自らの権力を天下に知らしめる一つの手段として、財力と人力を費して構築された作品である。幸い第二次大戦ではいづれも戦火より免れたものである。

この様な作品の彩色部分の顔料の延命と生返りは今迄に色々な技法を生み出しては消える……の繰り返しであった。戦後はアクリル系樹脂又は水溶性樹脂を注射器で絵具と本体の和紙の間隙を注入し、又は絵具に滲透させて接着と安定を計った。又、伝統的な技法としては膠を水で溶した液体で同じ様な技法で



絵具の剝落止を行った。

いづれの技法にも絵具の持つ彩色やツヤを全く変える事のない様に仕上げてゆく。ここでもう一つの問題点を提起したい。彩色の褪色又は変色である。これは美術品の宿命とも云うべきものである。美術品の収納、又は展示の環境に大いに影響され高湿と大気汚染によるカビの発生、紫外線によるグランドベースの劣化と彩色の褪色、変色を生じる事になる。

美術品は大変厄介なもので実は生物である。多くあったはずの文化財も先人の知恵と熱意によってやっと現在に至る迄に伝承されて残って来たものはいったいどれくらいの確立だろうか。それらの美術品の表面にある彩色は実はそのものの持つ履歴であって時には彩色と光が調和して不思議な雰囲気を醸すものである。

また、文化財の修理工房内での色彩も大変重要な要素である事は申す迄もない。軸装の工程内での本紙と、それに用いる裂地材料の色合せの選定は我々の専門家の手中にあって、作品の品位にもかかわって来るものでる。

6年前に完成した弊社の新社屋の色彩の面では、設計監理を担当された出江寛先生、望月秀祐先生並びに施工に当った藤木工務店は相当御苦心を重ねられた事と存じ、特に京都の町並とビルの景観の色彩をいかに調和を生かすかに意を用いられた事と存じ、此の紙面をかりて御礼を述べて筆をおきたい。

（うさみ　なおはち）



装潢室



裂の取合せ



装潢室風景

京タンス
木の香り

宮崎木材工業㈱ 取締役社長
宮崎 弘夫



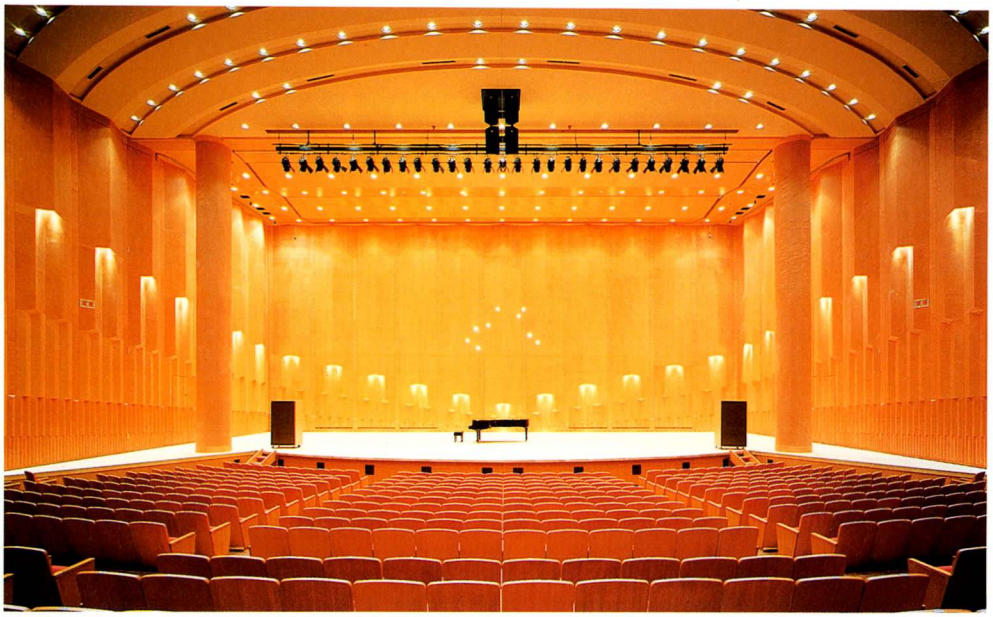
私達の仕事は木から離れては考えられない、我々日本人は古くより木を中心とした文化を大切に育んでまいりました。ヨーロッパのそれが石を中心とした文化であるに対して、私達は木のもつぬくもり、やすらぎを大切にした先人のこころを大事にして、木を通しての文化の創造を今後も育成していきたいものだと常に頭におくと同時に130有余年先祖より受け継いで参った木を通じての仕事を今後如何に現代の匠に生かしていくかを考えています。

昔より私共指物師、家具の職人は仕事に取掛る前に先ずその木を看てその木の特性を生かすにはどんなものを創るかということから始めたといわれています。木の種類は勿論、板目、柾目、又、その木のそり具合等、丁度一流の料理人が一匹の鯛を見て如何に料理していくか、その素材を損うことなく調理していくといった心境に相通ずるところがあります。そして、その作品が出来上がった時、家具職人としての喜びを感じると共に楽しみを味わって参りました。時代は変ってもその職人のこころ意気を大切にしてまいりたいと思っております。

ご承知の様に京都は永らく王城の地として日本のこころのよりどころとして数々の日本の文化を育てて参りました。我々京都で生まれ育ったものは凡ゆる異種の分野にかかわるものを吸収して美しさを求める目を持ち続けて来ました。現代の工芸の分野においても、その木のもつ素材を大切にするといった気持ちと同時に、付加価値を昂めていくといった特性を京都人は持ち続けていると信じます。

その木で創り出す美しさの中に単に色彩では表し得ないものがありますが、その美しさの中に京都の色を感じとるのは私一人ではないと存じます。それはその各々の作品から迸る香りではないでしょうか。我々京都に生まれ木を通じての仕事をしているものは、その京都の香りを今後も大切にし、それを継承しつつも現代に生かす工夫を絶えず心掛けなくてはならないと存じます。　(みやざき　ひろお)





京都産業大学神山ホール　設計／日建設計　施工／鹿島建設　内装／宮崎木材工業

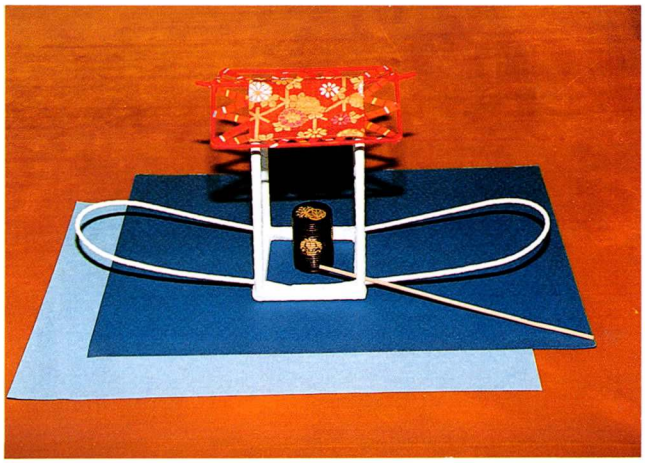


京タンス

京人形
人形のいない「ひいな」の世界

(株)田中彌 専務取締役
田中 久雄





「江口」

歌舞伎の舞台には、引き幕や緞帳、大道具（舞台の上に作られた建物、書割など）が、必ず登場します。それらが存在しない歌舞伎の舞台は、まず想像できません。

一方、能舞台には、引き幕、大道具のたぐいは一切ございません。歌舞伎のそれと較べ、舞台装置がないという意味で、能舞台を「裸の舞台」という人さえあります。

舞台正面奥のホリゾントにあたる部分、能で「鏡板」と呼ばれる羽目板には、どの能舞台でも、一本の老松が描れているだけです。同じバックを背にして、修羅、恋物語など色んな世界が展開します。

ただ一つの例外が、能舞台に置かれた『作り物』です。素材の竹を骨組みに、白布を巻いた輪郭に、最小限度の飾りをつけただけの、ごくごく簡単なものです。東洋、西洋を問わず、演劇の世界で最もシンプル、最もシンボリックな舞台装置と言えるのではないでしょうか。

「ひな」、古語では「ひひな」、そのイ音便の「ひいな」は、もともと、かえって間がない小さい鳥の子、ひよこの意味。英語のミニチュアに相当するものだと思います。

雛人形ならず能の作り物の、「ひな」を作っています。今回、写真に載っているのは、『江口』と『井筒』の二つです。現在15～6種類揃えています。それぞれ、時折々の季節感を感じさせるものが多く、インテリアとして注目されはじめました。

作り物の横に、人形を置いてみましたが駄目です。どんな見事な人形を並べても、しっくり来ません。シンプルな舞台装置だけを置くことによって、人は、これから始まる能の舞台を、自由に心に描くことが出来るからです。

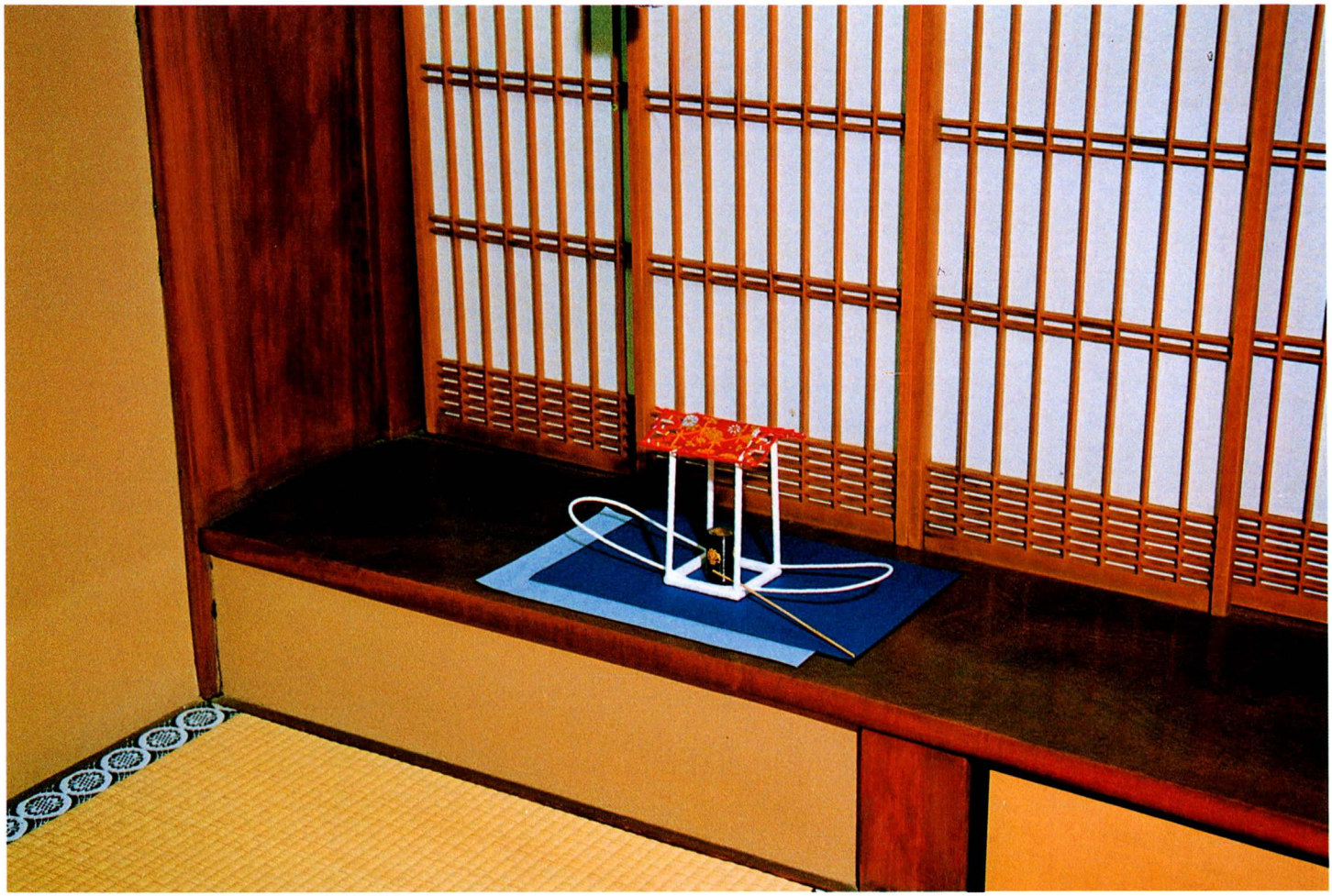
書割も人形もなければ、人はよりファンタスティックな世界に遊べるのかも知れない、そんなことを申せば道具方、とりわけ人形作家から、お叱りを蒙りそうですが。

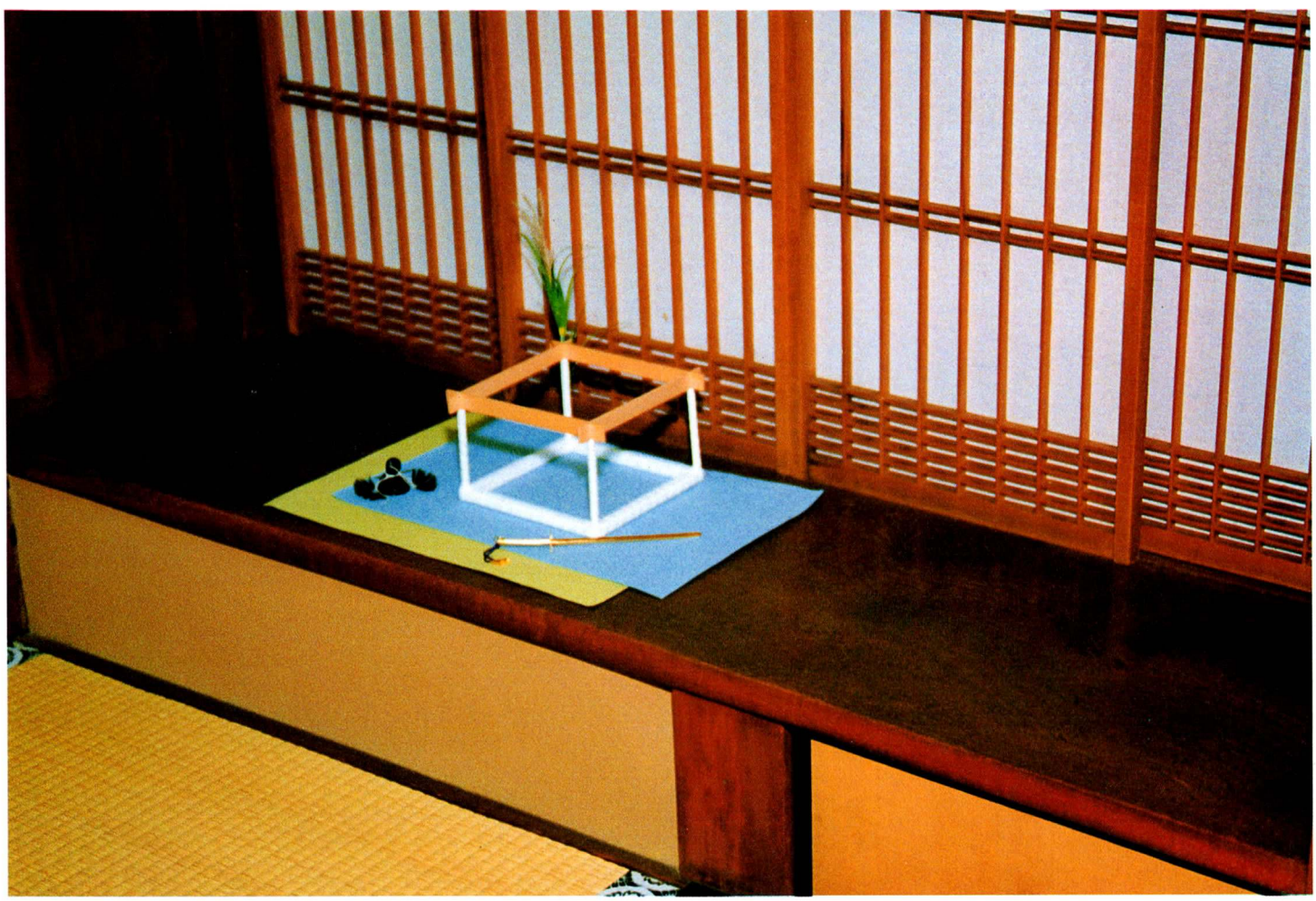
若い時に「絵なき絵本」を読んだのを、いま突然思い出しました。ビルダーブッフ　オーネ　ビルダー　私が今も覚えている、たった一つのドイツ語です。酒落た本でした。

(たなか　ひさお)



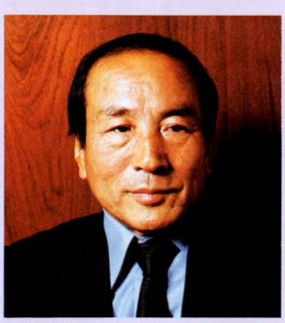
「井筒」





京扇 開かねば扇は風の蓄かな

（株）宮脇賣扇庵 社長 宮脇 新兵衛



「開かねば扇は風の蓄かな」誰かの歌です。この様に扇は風を起し涼を採る小道具の一つです。親しい友人から外国への輸出はどうですかと聞かれますが、戦前は随分と輸出が盛んでしたが、現在は皆無と言っていいほどです。

また、君の処では夏の扇はやらずに高級な舞扇とか飾扇だけを取り扱っているのでしょうと聞かれますが、50%は男性、女性用の夏の扇を製造しています。全国で年間約700万本の扇が作られ、その内400万本が夏の扇で、あと300万本が舞扇・茶扇・祝儀扇で夫々100万本程度と思われます。

また扇は中国からやって来たのでしょうかと問われます。いいえ日本で初めて木簡からアイデアを得て桧扇や杉扇が発明され、その後かわほりと言われる紙の扇が出来、それから中国へ渡り、次いでヨーロッパへと広まって行ったもので日本で最初に出来たものです。扇の骨の竹は滋賀県の安曇川町で生産されています。竹材の殆どが今日では台湾から輸入されています。エジソンの電球のフィラメントの発明はエジソン夫人が京都の扇子をおみやげに贈られ、その小骨の竹を利用してなされたものです。石清水八幡宮のある京都府八幡市の竹が当時は京扇子の材料として使用されていましたが、エジソンの発明に使用された扇子は京の宮脇のものであったと神社の記録にあります。神社には現在、エジソン記念碑が立っています。竹は草でもなく木でもない植物で筈を入れると日本で約600種あると言われ扇の骨は真竹が一番多く使われていました。現在は先に述べた台湾の竹で真竹に似た桂竹が使われています。

紙は土佐の小規模の製紙工場で扇面紙用に特別に漉いています。製造は五条大橋を中心



とした半径１kmほどの地域で家内工業の制作が行われています。箔押、絵付、折、漆塗、要打、仕上げと言うように多くの工程を経て一本の扇子となります。私の会社はこれらを集結させる訳でオーケストラにたとえればコンダクターの役割をやっています。勿論、扇骨や扇の図案の考案も私の方で企画します。

私の会社は西暦1823年が創業で店舗は幕末の元治のどんどん焼きで焼失した後、建てられた家と明治35年に西隣に新しく増築した部分とから成っています。増築部分には当時の京都画檀の有名48画伯による格天井があり、隣室には東京の12画伯による12ヶ月の扇面絵が杉板に描かれています。これらは文化財保護基金選定の京都の明治文化財となっていまして商家として又、扇子業界にとっても貴重なものとなっています。

（みやわき　しんべえ）







㈱宮脇賣扇庵

京の街の景観と色

望月　秀祐

景観でメシが喰えるか

先日、私の所属する京都経済同友会がスポンサーとなったテレビ討論会「景観でメシが喰えるか」があり、自宅で2時間タップリ聞いたが色々考えさせられることがあった。

第一に気付いたことは、「景観」の定義を、2人の専門家を除いた対談者が「東山を背景にした建物の高さ景観」だけを論じ合っていることである。これでは、高い建物によって山が遮られたら「景観破壊でメシが喰えない」との答えが直ぐ出てしまう。

第二に気になったのは、「景観上60メートルの建物だけが悪い」と信じ切っていることである。

第三に聞く気にもなれなかったのは、市内のあっちにもこっちにも高層（多分高さ60メートルのこと）が建ってしまっては京都の景観は台無しになると景観行政の無策をなじる発言をくり返す対談者がいたことである。

清水寺での景観論争

昨年12月、京都ホテル改築（高さ60メートル）と京都駅ビル改築（高さ59,8メートル）を強く反対する京都仏教会の経過報告会が清水寺で開かれた。各種団体が参加するということであったので私も出席した。

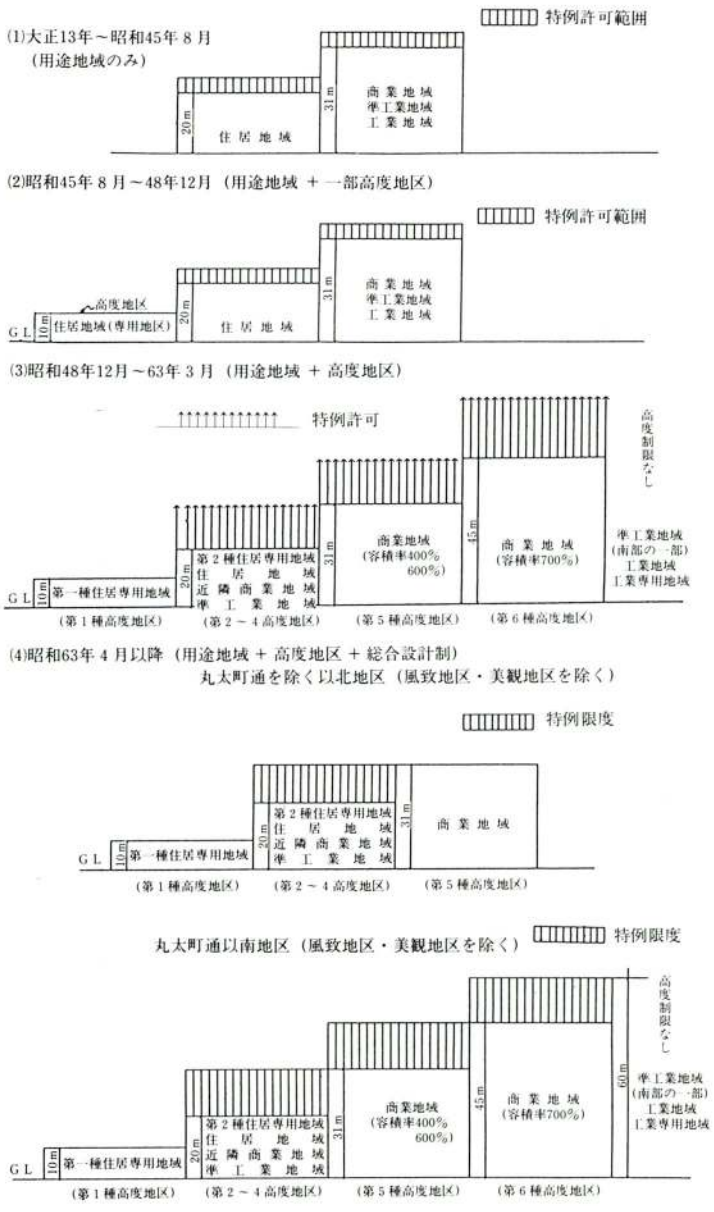
その席上、仏教会は「今まで高さ31メートルであった京都ホテルが改築によって60メートルになれば、東山が見えなくなるので絶対に反対して建築を阻止する。」と主張した。種々討論が進むうち、私に専門家としての意見が求められた。私がまず述べたことは、「建物によって東山が見えなくなるのは、高さ60メートルに限ったことではない。例えば、四条河原町の角に立って東山が見えますか。見えるのは四条通りの突き当たりだけで、他は何も見えないでしょう。しかし、そこに建っている建物はすべて高さ31メートル以下ですよ。東山が見えないから反対するとなると、高さ31メートルも反対しないとスジが通りません。しかも、この高さが決められたのは大正13年ですから、会場にいる殆んどの方々はまだ生れていないでしょう。高さ問題の難しさがここらへんにあるのです。」であった。これに対する反対意見が出ることを期待したが誰からも出なかった。

私が引き続き言いたかったことは、「建物の高さによって東山が見える見えないかは、鴨川から東山を眺める場合のようにビューポイントを決めるべきで、どこからでも東山が見えることを条件とすれば、少し高い建物はすべて建てられなくなる。要は、大景観とでもいいますか、今後の京都の望まれるまちづくりにとって、60メートルの超高層がその立地も含めて是か非かを討論すべきでありましょう。」ということであった。

京都市における建物の高度規制の変遷

京都市における建物の高度制限は、大正13年に遡り用途地域制の中で設けられている。（**図表－1**参照）

昭和48年の新用途地域指定に際し、6種の高度地区を併設し、全国



図表－1 京都市における建物の高度規制の変遷

でもはじめての最高限45メートルの高度地区を指定し、商業地域内でも超高層を無条件に認めない画期的な制度を創設した。昭和63年の京都市総合設計制度は京都市の特色を十分生かしたものであったが、最高限60メートル（最高限45メートルの高度地区のみ）の特例が認められ、京都ホテルがその第１号となるや、俄然京洛の巷はノッポビル反対の景観論争のルツボと化した。

田の字型都心

京都市の田の字型都心といわれる幹線道路沿いだけに商業地域（容積率700パーセント、最高限45メートル）が指定されている。田の字型都心とは、御池通、堀川通、五条通の大幹線道路（幅員50メートル）と河原町通の幹線道路（幅員22メートル）で□型に囲まれた街区とその内部の烏丸通、四条通による十字路で田の字型を形成する街区を指す。

京の景観の定義

京都市における景観対策は昭和５年より始まる。（**表－１京都市における都市計画制度の変遷**参照）京の景観は自然景観と人文景観に大別される。自然景観は市街地周辺から、山地にかけて風致地区（昭和５年指定）と歴史的風土特別保存地区（昭和42年指定）に分けられる。人文景観は市街地の要所に美観地区（昭和47年指定）、伝統的建造物群保存地区（昭和51年指定）、三条通歴史的界隈景観地区（昭和60年）などの指定がされた。これらの指定地区内では建物のデザインだけでなく、外観の色に対しても行政が厳しい注文をつけ、建築士と意見が対立することもしばしば見受けられる。それでも、京の街は年々汚なくなるといわれるのはなぜか。

景観先進都市――京

昭和45年以降、京都市の市街地景観対策は行政主導型ではあったが、極めて先進的であった。（**表－１**参照）にも拘らず、東京をはじめとする全国の都市が美しく変貌するのに京都はその逆であるといわれるのはなぜか。

第一の原因は、景観対策の実施が皮肉にも少々早すぎたことである。京都市の美観地区を指定した昭和47年は「日本列島改造論ブーム」の年で、美観地区指定に続いた新用途地域指定（昭和48年）も、「規制が厳しすぎる。」と非難する市民が多かった時代である。しかし、この20年の間に、市民の景観に対する認識が変り、先進都市であった筈の景観対策が少々手緩いといわれるようになった。

第二の原因は、これらの景観指定地区以外の市街地で、狭い敷地に容積率・高度の制限をフルに活用する建築が跡を絶たないことである。折からの地価高騰が拍車をかけたとはいえ、ビルオーナーである一部の市民や建築士の責任は免れるものではない。

第三の原因は、京都が非戦災都市で建物が改築されることが少ないことによる。

戦災都市――京

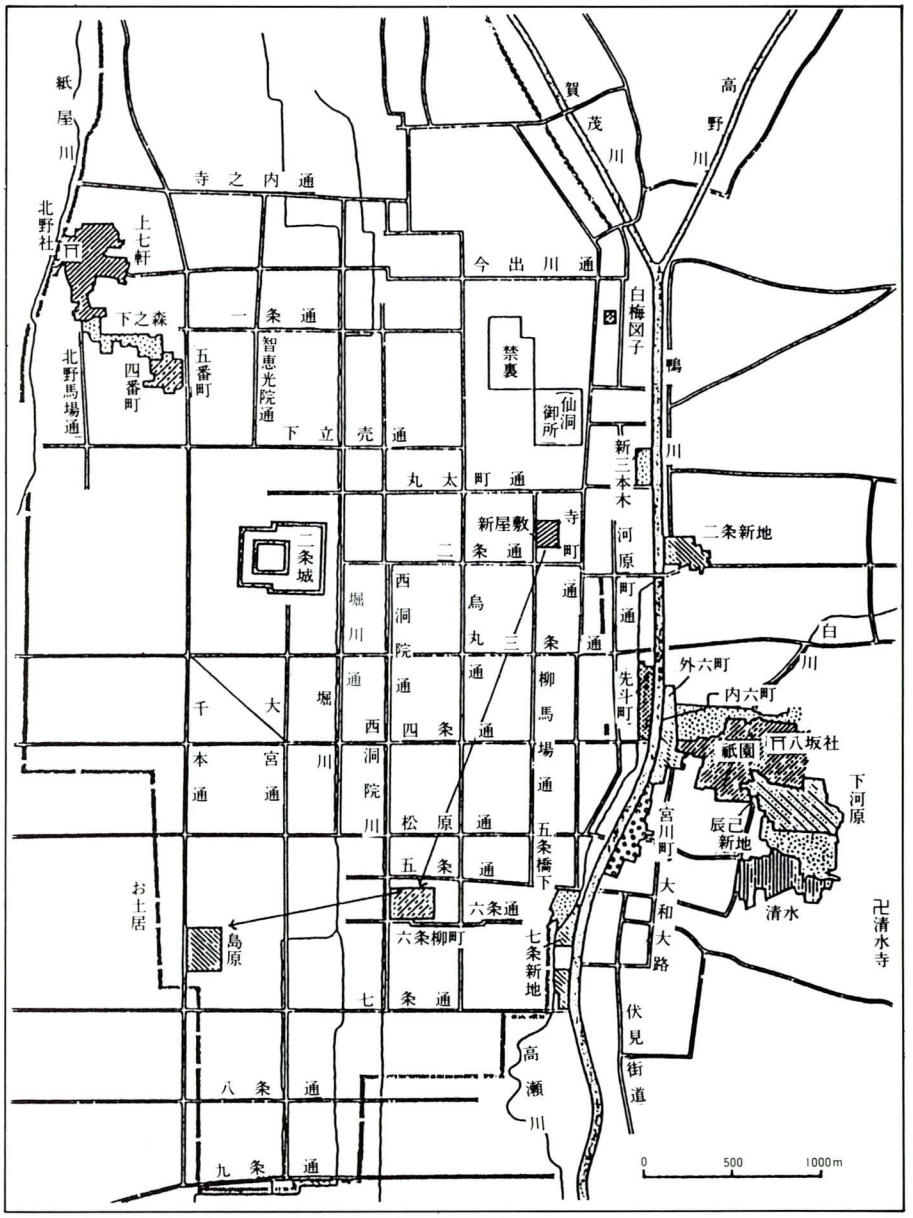
京都は第二次世界戦争に際し、戦災を免がれたため、伝統的建造

表－１京都市における都市計画制度の変遷

年（西暦19何年）		
大正11(22)		都市計画区画決定
		防火地域・準防火地域指定
大正13(24)		用途地域指定
昭和５(30)		風致地区指定
昭和25(50)		建築基準法施行
		京都国際文化観光都市建設法施行
昭和39(64)		京都タワー建設
		（東海道新幹線開業）
昭和40(65)		名神高速道路開通
昭和41(66)		古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法施行
昭和42(67)		歴史的風土保存地区指定
昭和44(69)		京都市まちづくり構想――20年後の京都――発表
		新・都市計画法施行（開発許可制）
昭和45(70)		市街地景観対策を風致審議会へ諮問
		住居専用地区に高度地区（10メートル）指定
昭和46(71)		線引き（市街化区域・市街化調整区域）指定
		風致審議会、市街地景観の保全整備対策に関する答申
昭和47(72)		京都市市街地景観条例制定
		美観地区等指定
		特別保全修景地区指定（清水産寧坂）
昭和48(73)		マイカー観光拒否宣言
		新用途地域・高度地区指定
		原谷特別工業地区指定
		日照等に関する指導要綱施行
昭和49(74)		国土利用計画法施行
		西陣特別工業地区指定
		特別保全修景地区指定（祇園新橋）
昭和51(76)		伝統的建造物群保存地区指定（清水産寧坂・祇園新橋地区）
		京都駅南口地区市街地再開発事業、都市計画決定
		建築物環境整備要綱施行
昭和53(78)		世界文化自由都市宣言
		（市電全面廃止）
昭和54(79)		京都市（長期まちづくり）基本構想（昭55～75）策定作業着手
		伝統的建造物群保存地区追加指定（嵯峨鳥居本地区）
		日影規制条例制定
昭和56(81)		地下鉄烏丸線開業（北大路～京都駅）
昭和58(83)		京都市（長期まちづくり）基本構想（昭和55～75）決定
		（京都市古都保存協力税条例可決）
昭和59(84)		宇治川南部サイエンスタウン構想市長発表
		京都駅南口地区再開発ビル（アバンティ）完成
		（国際伝統工芸博覧会開催）
昭和60(85)		三条通歴史的界隈景観地区（寺町～室町）指定
		京都市基本計画制定
		自転車防置防止条例成立
		関西文化学術研究都市建設着工
		（古都税紛争・拝観停止）
昭和62(87)		世界歴史都市会議（38か国）開催
昭和63(88)		京都市総合設計制度施行
		伝統的建造物群保存地区追加指定（上賀茂地区）
		（古都税廃止）
平成元(89)		国土利用計画法に基づく監視区域を全市指定
平成３(91)	１月	新しいまちづくり試案市長発表
	２月	京都ホテル超高層（60メートル）許可
	５月	京都駅ビル改築設計コンペ、高さ59.8メートル案に決定
	６月	京都市まちづくり審議会発足
	７月	京都ホテル改築の建築確認
	10月	京都市まちづくり審議会、まちづくりシンポ開催
	11月	京都市まちづくり審議会、第１次答申
		京都市都市計画審議会、線引き見直し・南部用途地域見直し案を承認
	12月	京都ホテル改築着工
平成４(92)	４月	京都市まちづくり審議会、最終答申
	４月～	京都市、都市計画制度の全面見直し作業開始
	10月	線引き見直し・南部用途地域見直し都市計画決定
		京都市都市計画審議会、京都駅ビル改築（高さ59.8メートル）に係る都市計画（特定街区）案を承認

表－2　京童受難の年表

794年	（延暦13）	平安京創建
808	（大同３）	大飢饉
818	（弘仁９）	〃
947	（天暦元）	疫病大流行
994	（正暦５）	〃
1015	（長和４）	〃
1177	（安元３）	大火（太郎焼亡）
1178	（治承２）	〃（次郎焼亡）
1182	（寿永元）	大飢饉
1231	（寛喜３）	〃
1460	（寛正元）	〃
1467	（応仁元）	兵火（応仁の乱）
1471	（文明３）	疫病大流行
1489	（延徳元）	大火（下京）
1494	（明応３）	〃（下京）
1500	（明応９）	〃（上京）
1536	（天文５）	兵火（天文法華の乱）
1573	（天亀４）	〃（上京焼打）
1596	（慶長元）	大地震
1643	（寛永20）	大飢饉
1661	（寛文元）	大火
1673	（延宝元）	〃
1675	（延宝３）	飢饉・大火
1708	（宝永５）	疫病大流行
1730	（享保15）	大火（西陣焼け）
1788	（天明８）	〃（ドングリ焼け）
1830	（天保元）	大地震
1854	（安政元）	大火
1864	（元治元）	兵火（どんどん焼け）



図－１　**幕末の京洛の遊里**（京都府下遊廓由緒、明治初年）

物である京町家が残り京都らしさを特長付けていた。しかし、その多くは老朽化し、木造真壁造を認めない法制に、相続税による追い討ちがかけられ、結局壊されて非木造の建物に変えられるか、古いままで辛抱するしかなくなった。

しかし、現存する京町家といっても、元治元年(1864)の幕末の兵火により洛中の家屋は殆ど消失し、建替えられてせいぜい百年しか経っていない。**表－２京童受難の年表**を見れば判るとおり、京都は平均百年に一度の大火・兵火に遭っている。京童（京都市民）はそのたびに雄々しく立上がって、より質の良い建物に改造していった。今や百年を超えて大火も兵火もなく、京町家改築の絶好のチャンスがなくなった。不遜と思われるかもしれないが歴史をたどれば事実は事実としかいいようがない。

遊廓の歴史と洛中

天平十七年(1589)、浪士原三郎左衛門、林又一郎の両人が傾城町のことを拝命されて、初めて冷泉(今の夷川通)、万里小路(今の柳馬場通)に一つの廓を開拓したが、武門より出た人がつくったので世間の人はこの廓を新屋敷と称した。今なお島原を西新屋敷と称しているが、元はここから始まっている。

その頃、万里小路に柳の木が多かった。茶屋などはこの柳の木の間にのれんをかけ、床几を出したのが始まりで、茶屋の増えるにつれ柳を伐りひらき一帯の町にしたので柳町といわれるようになった。後にこれが現在の柳馬場通と改称された。

（注）　天正十七年、この年、秀吉が京都のキリシタン寺院を焼いている。その頃の京都は上京と下京とに町が分断されており、その中間帯は道路以外に家はなく田野そのものであった。このため、現在では都心といわれる柳町に遊里が公設されたのである。しかし、翌年、秀吉が京都の都市改造「新町割り」に着手し、寺を寺町と寺之内に移転させ、さらに翌年、京都の外囲にお土居を築いたことにより急速に市街化が進み、上京と下京が一帯化していった。このため遊里の強制疎開が後に行われたことはやむを得ぬことであった。

しかし、この廓が御所に近く公卿どもがひそかに通いにくいところから、慶長七年(1602)に六条三筋町（六条は今の五条通で、六条坊門と称された。三筋町とは室町・新町・西洞院の三通りをいう）に移転させられた。

（注）　六条三筋町は、慶長より元和・寛永にかけての約40年間、公許の遊里が置かれた六条柳町の俗称である。六条柳町の遊女として、吉野太夫の名はよく知られている。

寛永十七年(1640)、六条三筋町の遊里は洛西朱雀野（今の島原）に移転させられた。島原の名称はその前々年、肥後国島原に乱あり、その翌年、鎖国が始まり、そして遊里移転の年、諸国に牛疫流行し

たので、誰いうとなく移転の混雑が似ているところから島原の異名がつけられた。

寛文十年(1670)、鴨川改修後、先斗町の遊廓が栄え、幕末には図-1のような遊廓の配置となった。これらの遊廓が洛中では治安上認められなかったことと、その利用の必要（悪）から洛外でも洛中に極く近接したところへ設けられたことを考えると、幕末以降、これらの遊廓に囲まれた区域が洛中であったと考慮される。

タワー——京

京都のある審議会に出席したとき配布された資料の中に、東寺の塔の高さが65メートルと書かれて丁寧にも図解されているのに驚いたことがある。東寺の塔の高さは相輪を含めて56メートルと覚えていたことが不安になった。ところが別の本を読むと、また東寺の塔の高さが65メートルと書いてあるのに出くわした。いよいよ不安になって、「日本建築史基礎資料集成第11巻塔婆Ⅰ」(編者太田博太郎、発行所中央公論美術出版）をひもとき、東寺の実測断面図を見ると、基壇から上の木造構造体の高さ寸法は正しく181尺(相輪50.3尺を含む）とあり、メートルに換算して54.85メートルとなる。これに基壇の高さを入れると正しく56メートルになる。屋根の高さは相輪の高さを差し引くと41メートルになる。

京都市の高度地区の最高限45メートルはこの東寺の塔を超えないよう決められたといわれるが、全く関係がなく、31メートルの1.5倍、かつ超高層の限界として45メートルの数値を採用したのである。今は超高層の限界値は60メートルまで上っていると思うが、20年前はそうであったのである。

もし、東寺の塔の屋根の高さが60メートルあったら、京都市内の建物は60メートルまで認めることで市民の反対はないであろうか。多分そうではないであろう。

参考に歴史をふりかえってみよう。「京都の歴史２」の叢書の中の「六勝寺と鳥羽殿」の節を要約すると、「白河一帯が急速に開かれることになったのは、11世紀半における白河天皇の法勝寺にはじまる六つの寺院、いわゆる六勝寺の造営であります。これら六勝寺の地は現在の岡崎公園一帯で、二条大路をそのまま鴨東へ延長したところへ建てられました。法勝寺は承保２年(1075)に造営され、永保元年(1081)には九重の大塔も着工されました。この塔は八角九重というその形状は空前絶後のもので、その高さは82メートルに及ぼうという巨大なものでありました。」

このような超高層の塔が900年前に建造されたことは驚くべき高度な技術があったことがうかがわれる。おそらく京洛のどの場所からもこの巨大な塔を望見できたであろうと思われる。他の多くの寺の塔と合わせて考えると、京都はタワー都市と呼ぶにふさわしい都市景観を形成していたものと思われる。もしも、この塔が現存していたら、景観論争も今と変わったものになったかもしれない。

京の街の景観の色

京都は沈黙の都市といわれるとともに、灰色の都市ともいわれる。山紫水明の自然と木造家屋の灰色が良く似合う。屋根瓦、紅殻塗木部、じゅらく壁(土蔵など一部白壁)が一つになるとくすんだ灰色に見える。

しかし、京の街の景観の色の美しさは、点としては存在してきた。

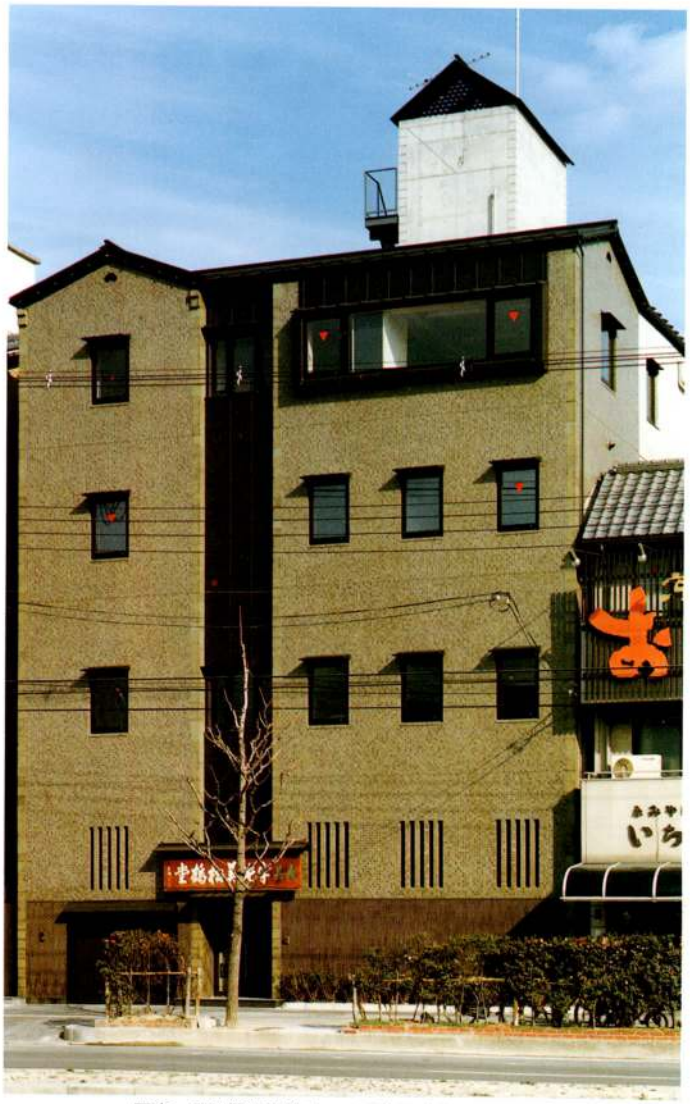


写真　宇佐美松鶴堂ビル　西本願寺前（美観地区）
設計　出江 寛・望月秀祐

前述の寺の塔しかり、神社しかり、清水寺の復元された三重塔がライトを浴びて夜空にあざやかにその極彩色を浮かびあがらせているように、寺の塔は高さとともに、その外観の色が人目を引き、京町家の屋根瓦が一層その色を美しく引き立てたに違いない。

いま、京の街には、昔の寺社に代ってポストモダンな原色をあしらった建物が旧市内各所に見られ、一見あざやかで美しい。しかし、それはあくまでも点としての色の美しさであるから、くれぐれも連たんにしないように願いたい。

京町家に住む町衆は建物の外観の色は地味にする代りに、屋内においては屏風など調度品に思い切って金をかけ美しくカラフルなものを求めた。さらに、京の着物は普段着こそ色も地味であるが、ヨソイキ(外出するとき)の着物は高価で極彩色に近い絵柄のものが使われた。

特に、若い娘のヨソイキは現代の舞妓のように高価で美しくカラフルなオベベ(着物)で着飾って往来し道行く人の目を引いた。この若い娘達の晴着姿は京町家の灰色をバックにして絵のような美しさをかもしだしていた。

その他、京都の街の景観の色は動くもので象徴される。祇園祭、五山送り火などの年中行事や、五遊廓で代表される遊廓の遊びの中に極彩色の空間がある。京町衆には特別なとき以外は際立った色を求めない生活慣習があったと思われる。

（もちづき　ひですけ/㈱京都府建築士会会長・京町家再生研究会会長
一級建築士事務所㈲モチケンコーポレーション代表取締役）

構造の頁

211 アフターボンド工法

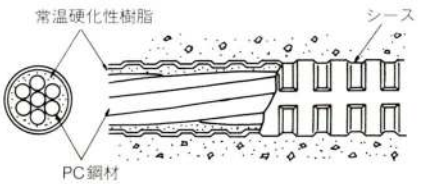
南　敏和

建築分野においてもプレストレスト（ＰＣ）構造の利用が、近年多く見られるようになってきた。これは一つにはアンボンドＰＣ鋼材が約20年前から国内で生産され、これを使用することにより、従来のグラウトを行うＰＣ工法に比べ施工面で工程の簡略化などが行えるようになったことが理由として挙げられる。同時にプレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）構造が、フラットスラブをはじめとして普及してきたことも一因となっていると考えられる。しかしながら、アンボンド工法はＰＣ鋼材とコンクリートとの間で付着が得られず、定着部の疲労の懸念などから大梁などの耐震部材には使用されていないのが現状である。

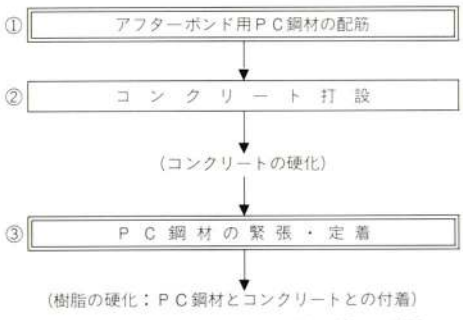
そこでアンボンド工法の施工性の良さをもち、かつＰＣ鋼材とコンクリートとの間で付着が得られることを目的として開発されたのがアフターボンドＰＣ鋼材である。

アフターボンドＰＣ鋼材の概要

アフターボンドＰＣ鋼材とは、**図―1**に示すようにＰＣ鋼より線に未硬化の樹脂を塗布し、凹凸形状のあるシースで被覆したものである。この樹脂が硬化することによりＰＣ鋼材とコンクリートとの間で付着が得られるが、この硬化時期はその樹脂の成分配合で、ある程度コントロールすることができる。すなわち、この硬化時期をＰＣ鋼材の緊張時期以降に設定しておけば、**図―2**のような施工法がとれ、シースの配置やＰＣ鋼材の挿入、グラウトの注入などが不必要になり、省工程化が計れる。



図―1　アフターボンドPC鋼材の概要



図―2　アフターボンド工法の施工手順

アフターボンドＰＣ鋼材の各種特性

アフターボンドＰＣ鋼材の樹脂硬化前の摩擦係数は$\lambda = 0.002 \sim 0.003$（l／m）、$\mu = 0.03 \sim 0.05$(l／rad)と、ほぼアンボンドＰＣ鋼材と同等で、緊張管理も同様に行える。また、樹脂硬化後の特性を**表―1**に示すが、圧縮強度、引張強度ともにセメントグラウトより高くなっている。**表―2**にコンクリートのシリンダーからの引抜き試験結果を示すが、十分な付着強度を有することがわかる。

表―1　樹脂の硬化後の基礎特性

項　目	特性値
圧縮強度	740kg／cm²
引張強度	230kg／cm²
弾性係数	82,000kg／cm²
鋼材との剪断接着強度	135kg／cm²
硬度（ショアーD）	85～90
硬化収縮率	1.0%以下
熱分解温度	約370℃

表―2　引抜き試験結果

供試体	すべり開始時の荷重 (kg)	最大引抜き荷重 (kg)	平均付着強度 (kg／cm²)
ＰＣ鋼より線　12.7mm	2,100	4,460	45
アフターボンド ＰＣ鋼より線　12.7mm	3,200	6,520	50

コンクリート部材としての特性

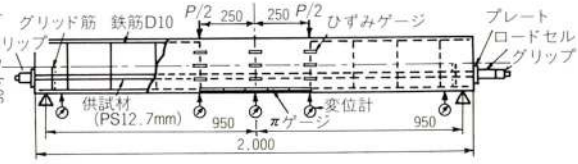
図―3に示すような試験体を用いて、曲げ載荷試験を行った結果を**表―3**に示す。ひびわれ発生モーメントについては、いずれの試験体も同程度の値を示したが、終局モーメントはアンボンドを用いたものは他のものより約20%低い値となり、アフターボンドを用いたものとグラウトを行ったものは同等の値となった。また載荷荷重と中央部たわみの関係や、ひびわれ幅の変化も両者はよく似た傾向が見られた。

図―4にＰＣ鋼材の定着部引張力の変化を示すが、アンボンド部材はひびわれが発生すると定着部の引張力が増加するが、アフターボンドを使用したものとグラウトをおこなった部材は、終局耐力まで増加しなかった。

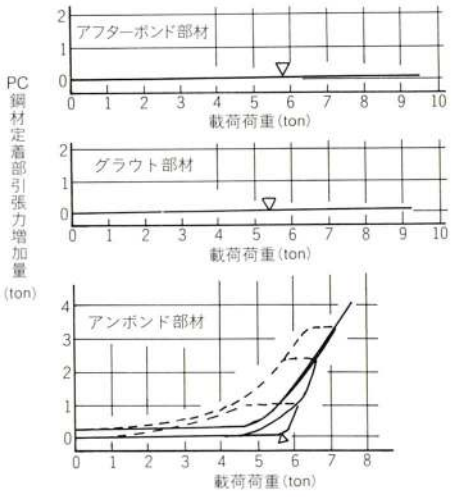
以上のことから、部材としてもアフターボンド部材はグラウト部材と同等の挙動を示すことがわかる。

表―3　ひび割れモーメントと終局モーメントの測定結果

使用緊張材	No.	ひび割れ発生モーメント (t・m)	終局曲げモーメント (t・m)
アフターボンド ＰＣ鋼より線 12.7mm	1	2.00	3.36
	2	2.14	3.47
	3	1.96	3.29
ＰＣ鋼より線 12.7mm グラウト	1	1.96	3.16
	2	1.83	3.15
	3	1.90	3.22
アンボンド ＰＣ鋼より線 12.7mm	1	1.83	2.59
	2	1.85	2.50
	3	1.57	2.52



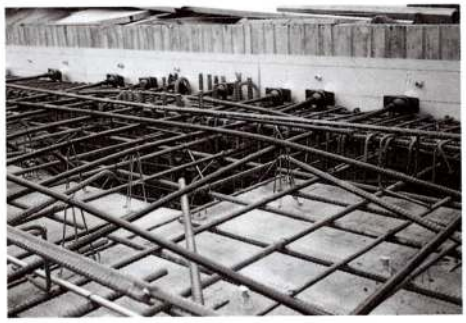
図―3　試験体および試験方法の概要



図―4　PC鋼材の定着引張力の変化

使用実績

アフターボンド工法については、建築関係ですでに35件をこえる実績があり、ＰＣ鋼材の使用量も100ton近くになっている。アフターボンドＰＣ鋼材の耐食性の良さを生かし、通常の建築物以外に、地下駐車場などの地下構造物にも使用されている。その使用状況の一例を**写真―1**に示す。



写真―1　アフターボンドの配線状況

ただ、これまで大部分がフラットスラブなどアンボンド工法と同じ用途で用いられており、アフターボンドの特長を十分生かしていない面もある。すなわち、大梁などの耐震部材にも使用できるようにすることが懸案となっているが、現在、建築センターの個別評価を取得し、大梁に使用している物件がある。今後さらにこの用途での実績をつみ、グラウト工法と同様に使用できるようにすることを目指している。

おわりに

本アフターボンド工法は、大阪大学建築工学科鈴木教授のご指導のもとに開発が進められてきたもので、プレストレストコンクリート関係の技術では数少ない純国産の技術である。この意味で、さらに技術的な改善、改良を行い、世界的な技術に発展させていきたい。

（みなみ　としかず　神鋼鋼線工業株式会社 生産本部ＰＣ技術課課長）

設備の頁

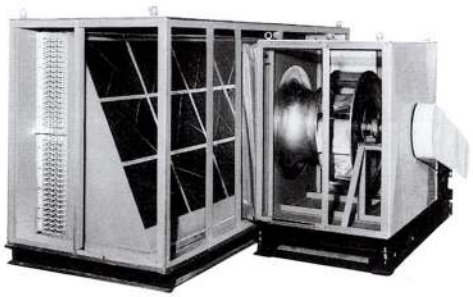
212
高効率の空調機
—プラグファン内蔵空気調和機—

鍋島　　拳

インテリジェントビルやホテル、病院、クリーンルームなど、ビル空間の付加価値が高まり、空間コストがますます貴重なものとなってきていると同時に、ハイグレードな空気環境が要求されるようになってきている。

このようなニーズの中で、空調機の機能としては、省エネ性・省スペース性・低騒音性・省工事性が必須となる。

上記の評価項目の向上を目的として開発されたのが、**写真—1**のプラグファン内蔵空気調和機である。



写真—1

プラグファン

ファンハウジングは、ファン性能を向上するという効果はあるものの、吐出方向の制約や騒音対処上の制約、および空調機寸法上の制約があった。

翼型プラグファン（**写真—2**）はこれらの常識に挑戦・克服した送風機で、ランナブレードの形状・寸法、取付角度などを基本から考え直すことで、ハウジングレス送風機を実現し、送風機のハウジングレス化により、空調機のコンパクト化、吐出方向の自在性化、高効率化、低騒音化を実現した。



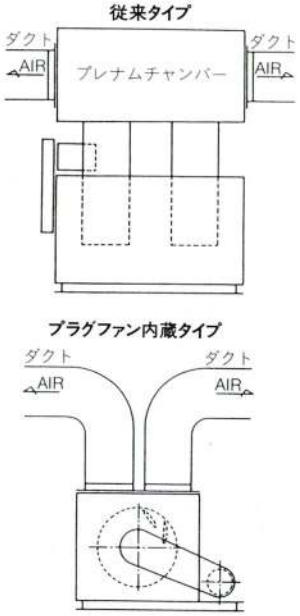
写真—2

また送風系統においては、初期装置抵抗と最終装置抵抗が異なり、フィルタ圧損の少ない初期には風量過大となり、モータ過負荷となる可能性があるが、翼型プラグファンの場合、モータ動力は風量に関係なく、ほぼ一定であるため（リミットロード特性）、オーバーロードすることはない。

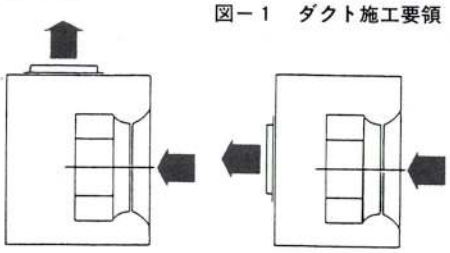
省エネ性

翼型プラグファンのファン効率は、最大で70%という高効率を実現。このファン効率の高さは、省エネルギー化の決め手となる。

従来の空調機では、消音および分岐のため空調機の吐出側に消音ボックスやプレナムチャンバー（**図—1**）を設けていた。しかし、これらのチャンバーの圧力損失は大きく、とくにプレナムチャンバーに関しては、プレナムの出口ダクトの位置や接続要領によって、理論計算による圧力損失値と大幅に異なってしまうことがあった。



図—1　ダクト施工要領



図—2　プラグファン内蔵空調機 吐出方向の自在性

プラグファン内蔵空調機は、ホイールを組み込んでいるケーシングがハウジングの役割をし、ケーシングの開口が吐出口となる（**図—2**）。すなわち、空調機の吹出方向が360°可変となり、2方向・3方向吹出が空調機本体で行えるため、プレナムチャンバーレスが可能となり、システム抵抗の減少・搬送動力の削減につながる。

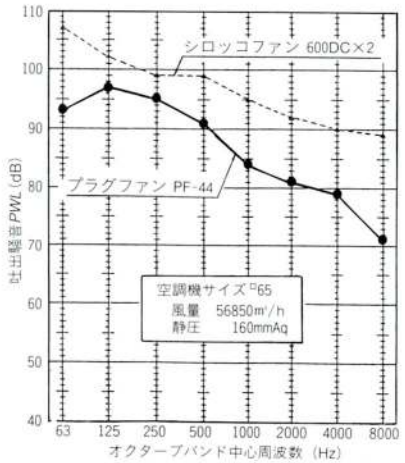
省スペース性

ハウジングレスのため、コンパクトな設計が可能である。また、ファンサイズのシリーズ化により、従来のシロッコファン2連で設計していた範囲も1台で処理可能となり、大型空調機はかなりの省スペースをはかれる。

低騒音性

ハウジングレス化によって、カットオフ部からの騒音発生がなくなり、ファン単体の低騒音化を実現したことはもとより、ファン室全体に吸音材を貼り付けることにより、**図—3**に示す通り、従来の空調機に比べ、吐出騒音値で5～15dBの低騒音化がはかれる。

騒音とともに大きな課題であった振動の問題も、ランナ部とプーリ部にテーパブッシングを採用することによりシャフトと一体化し、大幅に改善された。



図—3　プラグファンとシロッコファンの騒音比較

省工事性

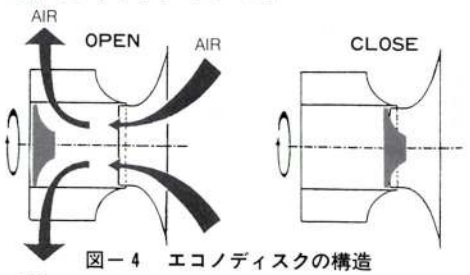
吐出方向の自在性および低騒音性にともなうプレナムチャンバーレス化は、現場工事の削減に貢献すると同時に、機械室の縮小が可能である。

また、従来のシロッコファンに比べ、短シャフトとなり、ベアリングの長寿命化・カップリングレス化がはかれ、信頼性も向上している。

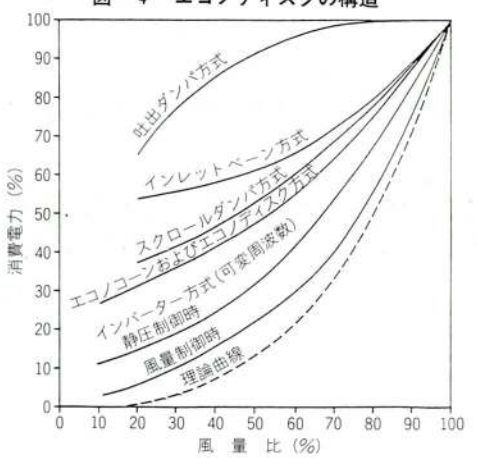
風量制御装置

プラグファン内蔵空調機の風量制御装置として、エコノディスク（特許出願中）がある（**図—4**）。

インレットベーンや吐出ダンパなど従来の機械式風量制御機構と違って、要求された風量・静圧になるよう気流の通過するブレードの入口幅を調整するため、制御時の動力削減率が大きく、発生騒音も少なくなる（**図—5**）。



図—4　エコノディスクの構造



図—5　VAV用空調機 制御方式別電力削減率比較

おわりに

一般事務所ビルの年間電力消費量のうち、約40%を空調設備システムで費やしていることを考えると、省エネ性の追求はますますクローズアップされてくるものと思われる。

（なべしま　やすし　新晃工業株式会社技術本部研究開発課技師）

中嶋龍彦　思考と創作 —ドローイングと模型展—

建築家・中嶋龍彦氏の生業30年と作品集出版を記念し、この作品展では、これまでのテーマである『建築から都市へのアプローチ』と題して、ドローイング・模型を中心に展示する。

日　時　1993年 1 月25日(月)～31日(日)
　　11：30～19：30　入場無料
会　場　ソニーサロン（ソニータワー9F）
　　大阪市中央区心斎橋1-1-10
問合先　㈲中島龍彦建築事務所
　　TEL06-228-1501（三好）

「ホスピタリティー・デザイン」

㈳日本病院建築協会は、今年9～10月にフィンランド、スウェーデン、オランダ、フランスに、医療・福祉施設の視察団を派遣した。この報告会が、下記の通り行われる。

日　時　1993年 1 月18(月)　13：00～16：00
会　場　建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）
テーマ　「ホスピタリティー・デザイン—北欧とヨーロッパ諸国における医療・福祉施設の動向—」
講　師　伊藤　誠氏（千葉大学教授）ほか
定　員　120名
会　費　4000円（参加費2000円＋資料代）
問合せ　㈳日本病院建築協会（TEL03-3453-9904）

第23回 A+E FORUM 開催

FESAE（The Far East Society of Architects & Engineers）関西支部は、月例のフォーラムを開催する。

日　時　1993年 1 月28(金)　18：30～20：45
会　場　新阪急ホテル2F「風の間」
講演会　「形・色・数—チベットのアート及びコスモロジーにおける変遷」（英語）
　　講師／森本康務氏（美術史家）
交流会　講演後、講師と立食パーティ
参加費　会員——一般4000円、学生2000円
　　非会員——一般5000円、学生3000円
申込方法　ハガキに住所、氏名、職業、連絡先、電話番号を記入し、1月26日(火)必着で、〒556-91　浪速区難波中3-10-1浪速郵便局私書箱47号 FESAE 関西支部へ。
問合先　マイケル・アンダーソン（奥田組設計部内 TEL06-853-0332）

「住宅・建築 省エネルギーフォーラム」開催

2月の省エネルギー月間に、㈶住宅・建築 省エネルギー機構は例年通り、フォーラムを開催する。

日　時　1993年 2 月24日(水)　9：35～16：00
会　場　安田生命ホール（東京都新宿区西新宿）
定　員　400人（申込先着順）
参加費　15000円、後援・協賛団体会員14000円
申　込　㈶住宅・建築 省エネルギー機構フォーラム係（TEL03-3583-7121）
テーマ　「住宅・建築分野における環境対策」
　　建設省住宅局長　三井康壽氏
　　「資源・エネルギーと環境共生住宅」
　　工学院大学教授　宇田川光弘氏
　　「高断熱・高気密住宅における換気、暖房のあり方」
　　千葉工業大学助教授　小峯裕己氏
　　「コージェネレーションシステムの現状と展望」　芝浦工業大学教授　平田　賢氏
　　「宇宙から見た地球環境」
　　東海大学情報技術センター所長　坂田俊文氏

筑波大学の卒業展をつくばで

平成4年度の筑波大学芸術専門学群の卒業制作展、並びに同芸術研究科修了展が、茨城県つくば美術館で来年2～3月に開催される。

■卒業制作展
前期　1993年 2 月23日(火)～28日(日)
　　（洋画／日本画／彫塑／書／構成／総合造形）
後期　1993年 3 月 2 日(火)～ 7 日(日)
　　（視覚伝達デザイン／生産デザイン／環境デザイン／建築デザイン）
■芸術研究科修了展　3 月 9 日(火)～14日(日)
　　（洋画／日本画／彫塑／書／総合造形／視覚伝達デザイン／生産デザイン／環境デザイン）

マルチメディア「MPS」誕生

CI、そしてCGによるデザインを数多く手がけるデザイン制作会社・フロムホワイトは、このたびコンピュータによるメディア制作の分野に参入し、MPS（マルチプレゼンテーションシステム＝マッキントッシュコンピュータアニメーション制作手法）によるマルチメディアプログラムの制作を開始した。予定基本料金は5万円。

サービスサイズのプリントからも写真を取り込み、ワープロの文字データで説明を加え、カセットテープから効果的なサウンドを入れ、会話型のストーリーをつくり、ビジネスシーンでメディアとしての効果を発揮しようというもの。建築分野でのメディアとしても、活用できる。

制作に関する問い合わせは、㈱フロムホワイト（TEL06-047-7981）へ。

ビデオ「ル・コルビュジェ」発売

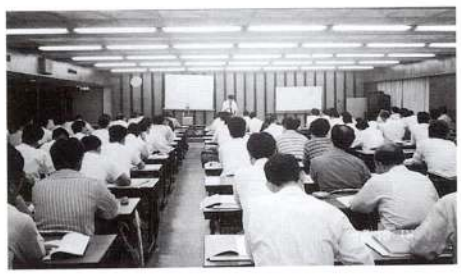
㈱デルファイ研究所は、「現代建築家ビデオシリーズ」第4弾として、ル・コルビュジェを3巻にまとめ、発売することとなった。VHS仕様。

価格は1本22000円、セット価格60000円、いずれも消費税込。問い合わせ・発売は㈱デルファイ研究所（TEL03-3222-5031）へ。

第1巻　300万人現代都市の計画案、パリのヴォワザン計画、サヴォワ邸ほか
第2巻　スイス学生会館、シュタイン邸ほか
第3巻　サンディエの都市計画案、チャンディガールの議事堂、ロンシャンの礼拝堂ほか

●講習会リポート

日本建築協会東海支部主催「建築工事実務講習会」盛況



「建築工事実務講習会」は、東海支部としては3年連続の企画となりました。こうした企画で注意しないといけないのは、同じ人に毎年続けて受講していただけないことです。それと景気が悪くなりますと、どうしても「経費の節減」という大義名分のために受講者の数が少なくなります。そうしたこともあって今年はパンフレットの送付先を昨年度の2倍に増やし、それなりに工夫を凝らしてみました。お陰で例年通りの107人の出席を得て、大変な盛況の中で開催することができました。

当日はあいにくの天気になりましたが、受講される方々の集まりはきわめて順調で、講習会は定刻通りに中島・東海支部長の挨拶で始まりました。

講義は取りつきにくい施工計画と仮設見積、現場実務の基礎である積算業務の順で進められ、工事着手前後の段階で、特に配慮すべき事項等実務面でのいろいろな問題を細かく事例を挙げて進めていただきました。

講義が連続して長時間になりますと、どうしても相当疲れた状態になってまいります。昨年同様「コーヒーブレイク」の時間を設け、また途中での休憩時間に気を配りながら、できるだけいい環境が保てるように工夫をいたしました。また、講師の諸先生は第1回目からお願いをしている方々で、等一線で活躍され、かつ地元の大学で非常勤講師も経験されている専門家ですので、講義の組み立てがよく整理され、難しい事柄をきわめて分かりやすく解説していただいたこともあり、最後の積算業務の講義まで、張りつめた緊張感の中で熱心に聴講していただきました。

この講習で、参加された皆さんに少しでもお役に立てればと思います。そして皆さんからいただいた「アンケート」をいろいろ分析し、来年度の企画に役立てたいと思います。この講習会を通して、微力ではありますが、何らかの形で社会に貢献したいと思っています。

最後に、多大なご支援をいただきました協会本部の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

（日本建築協会東海支部　**寺本英一**）

日時　平成4年10月14日（水）9時30分～5時
会場　名古屋市中区栄4丁目3-26　昭和ビル
講義内容と講師
(1)施工計画
　清水建設㈱名古屋支店生産システム部長　岩田正弘氏
(2)仮設見積
　㈱大林組名古屋支店工事部工務課長代理　佐藤達雄氏
(3)積算業務
　㈱竹中工務店名古屋支店見積部長　尾関友四郎氏

日本建築協会・海外研修旅行

世紀末ふたたび—中欧の建築を訪ねる—

20世紀末のヨーロッパにおこった大きな変革の波、ベルリンの壁の崩壊に始まる東欧の民主化とソ連邦の解体は、世界秩序の構造的な変化をもたらしました。メディアを通して伝えられるこうした国々の街の様子や人々の歓喜の表情に接するごとに、私たちは開かれた壁の向こうに何が見えるか、興味を抱かずにはいられませんでした。

かつては一枚岩に見えた東欧諸国は、ヴェールをはがすと様々な民族、言語、文化に彩られ、そして何よりもすぐれた建築の宝庫でした。そこには、社会主義体制下にあって「凍結」されていた中世から近代にかけての古きヨーロッパの都市が見いだされ、また西欧には見られない濃密な民族色を漂わせる作家たちが活躍していました。そして、ドイツ、オーストリアが近代建築運動の展開に果たした役割を見逃すことはできませんし、さらにウィーンには、反近代主義の旗手ともいえる作家たちをみることもできます。私たちは、近代から現代に至る歴史の縦軸と、多様な民族性という横軸の上に散りばめられる「中欧」地域の多彩な建築表現を探りたいという目的で、この研修旅行を企画しました。

「中欧」とは、「東欧」が主に政治勢力図上の呼び方であったのに対し、元来の地勢的な呼称（ミッテルオイローパ）であり、おおむね、中世から今世紀初めまで栄えたハプスブルク帝国の版図に重なると考えられます。この帝国は、現在のオーストリア、ハンガリー、チェコ・スロバキア、ポーランド、ユーゴスラビア、ルーマニアなどにまたがる多民族国家であり、この国家としての多様性が独特の中欧文化を生んだといわれています。なかでも特筆すべきは、産業革命の浸透に伴う新たなブルジョアジーの台頭を背景とした19世紀末の首都ウィーンにおける「世紀末文化」であり、これは学術、芸術のあらゆる分野において今世紀の世界に大きな影響を与えました。また同時に、19世紀末はウィーンが政治的に弱体化した時期でもあり、ウィーンと同等の首都の地位を獲得したブダペストは、世界史的にも稀なスピードで都市改造を達成し、またプラハでも、民族意識の高揚とともに都市の復興が進みました。

今回の研修旅行は、ハプスブルク帝国のこれら3主要都市にベルリンを加えた4都市とその周辺を巡ったものですが、天候に恵まれたこともあってか、いずれの街も出発前の予想に反して、明るく活気に満ち、旧体制下の重苦しいたたずまいは急速に払拭されたかに見えました。各都市は、やはりそれぞれの民族性を反映した独自の表情を備えていました。しかし一方で、地域の全体像は「中欧的」ともいえるあるイメージに収斂していくように私には感じられました。それはいわば、中欧諸都市を覆う内向的で苦悩に満ちた「陰」のようなイメージで、これは、ローマやパリといったラテン系の都市を貫く開放的で明晰な「光」と対比しうるものだと思います。この苦悩と陰は、例えば、チェコキュビズムやハンガリーのレヒネル・エデン、そしてワグナー、ロースらウィーン世紀末前後の建築家やドイツ表現主義の建築、さらにはホライン、コープヒンメルブラウら現代作家のアイロニカルな表現の中にも見いだすことができると思います。時に狂気に満ちた装飾性を示し、また時には淫靡なエロティシズムをたたえ、あるいは虚無的な非実在感を醸すこれらの建築は、多くがローマを中心とする西欧の「正統」からすれば辺境の「異端」と呼ばれたかもしれません。しかし、なかでもとりわけその苦悩と陰を色濃く漂わせるウィーンの世紀末建築の精神が、ドイツにおいて純化され、やがて近代建築として結実することは、決して歴史の偶然ではないと思います。現代にも受け継がれるウィーンの建築家の軽妙で先見的なアイロニーは、何代にもわたる他者としての異民族との混交の中に醸成された、深く沈んだ味わいをもつ中欧文化の懐の深さと無関係ではないでしょう。

私は、明るい陽光に包まれた初夏の中欧で、あるときは、個性的な街並みや時に愛くるしくさえある異端的建築表現の中にみられる西欧との違いを考えながら、またあるときは、二つの世紀末をはさんでこの地に展開した建築史のダイナミズムに思いをはせながら、心地よい緊張と興奮に満ちた17日間を過ごすことができました。

快く団長をお引き受けいただいた岡橋氏をはじめ17名の参加者の方々は、日本とは何もかも異なる都市や建築の中に、街のショーウィンドウや行きかう人々の服装の中に、あるいは民族色豊かな音楽や食事の中に、それぞれのヨーロッパ像を見いだされたことと思います。

次に、各参加者の方に旅の印象記を綴っていただき、中欧研修旅行の報告としたいと思います。

本海外研修旅行主査・**米井　寛**／東畑建築事務所



スケジュール・主な視察作品

□**7/10　大阪→香港→フランクフルト**
□**7/11〜13　ベルリン**
ブランデンブルク門　ノイエヴァッヘ
アルテスムゼウム　ベルナウ労働組合学校
AEGタービン工場　IBA
オリンピックスタジアム　ユニテ・ダビタシオン
新国立美術館
□**7/12　ポツダム**
アインシュタイン塔　庭師の家　サンスーニー宮
□**7/14　デッサウ**
バウハウス　旧職業安定所
□**7/14〜15　ドレスデン**
ゼンパーオペラ　ツヴィンガー宮殿
□**7/15〜17　プラハ**
ティホノヴァ通りの住宅　ヤロシュ・ヴィラ
ヴィシュフラットの集合住宅　市民会館
ブラック・マドンナ　イエズス教会
□**7/18　ブルノ**
旧トゥーゲントハット邸　ヴェスナ女子職業学校
火葬場
□**7/18〜19　ブラティスラヴァ**
聖エルジェーベト教会　ギムナジウム
聖マルティン教会
□**7/20〜21　ブダペスト**
ホテルゲレルト　旧郵便貯金局　地学研究所
メトロクラブ　旧シペキ邸　ブダペスト西駅
装飾美術館
□**7/22　ケチケメート**
市庁舎
□**7/23〜25　ウイーン**
シュタインホフ教会　ヴィラワグナーI・II
郵便貯金局　フンデルトワッサーハウス
ヌスドルフの水門　カールマルクスホフ
ケェーラーガッセの小学校
□**7/25〜26　フランクフルト→香港→大阪**



アインシュタイン塔にて

ドイツ1

アインシュタイン塔

西尾直子/大阪市立大学学生

バスから降り、一歩一歩近づいていく。心躍る反面、夢がかなう直前のせつなさのようなものも感じる。あと数歩でそれに合えるのだ。それは、やさしく、私に語りかけてきた。想像していたよりも小ぢんまりと、けれど、その存在感は周りの空気をもゆらしている。やわらかい曲線とはうらはらに、力強い意志を感じる。息吹がきこえる。アインシュタイン塔は、生きていた。衝撃的な何かはなかったけれど、じわじわとこみあげてくる、そして出合ってから数カ月を経た今でも感じられる感動は、これからも消えることはないだろう。〝それじゃ、また〟といえず、〝さよなら、ありがとう〟という言葉をあとに、ポツダムを離れた。けれど、いつか今度は、それのほうから、私に会いにきてくれるのではないかと、想ってみたりする。

ドイツ2

東西の壁に思う

河南重雄/河南建築研究所

強国のエゴイズムで生まれた東西ベルリンは、壁で区切られていた時代に訪れていれば良かった!!これが正直な現在の感想である。遠い国の出来事と無関心でいたことが、今にして見れば恥ずかしく、また悔やまれる。帰国後手に入れた旧東西ドイツ国歌を聞き比べても、哀愁を帯びたイントロ、途中よりマーチ風となる旧東ドイツの方が、胸に迫りくる。今は自由に往来できるブランデンブルク門を境に、今なお格差のある街並み。テレビ塔の味気のないレストラン内部から外を眺めても、所々に労働者階級の板状プレハブ住宅が目立つ。銃弾に傷ついたシンケル設計のノイエヴァッヘ、アルテスムゼウムの柱型。しかしそれらの迫力ある建造物は、修復され続け、健在であった。街行く人々の顔は平常だが、



ブランデンブルク門・ベルリン

40年間の暗い過去はわれわれには解るはずもない。チェックポイントチャーリーも、今は観光用に再建され、過去の歴史を見いだせはしなかった。程良いスケール感で街に点在するIBAの集合住宅群は、国民性？政策？それともやる気の問題？今の日本から見れば羨しい。

今も威厳を放ち続けるオリンピックスタジアムの前で、2000年にはこの地でオリンピックの開かれることを祈りながら、次の目的地デッサウに向かった。最近ニュース等で報じられるネオナチの行動、公開されつつある秘密警察の行動等、新たな興味が生じ、将来再びベルリンの地を訪れてみようと思う。

チェコ・スロバキア1

チェコ・キュビズムの印象

笹村欽也/東畑建築事務所

第二次世界大戦の傷跡を残し、修復の真っ最中である都市ドレスデンを後に、エルベ川沿いに国際列車でチェコの首都プラハに到着。戦争による破壊を免れたプラハは、戦後復興により仕上がった街とは異なり、石畳の隅々にいたるまで、おかしがたい厳然たる雰囲気を保っている。スメタナの交響詩そのままにゆったりと流れるヴルタヴァ川をはさんで、両岸には数多くのゴシック建築が天へ向かって優雅なシルエットを描き出している。誰もが魅了されるプラハ随一の景観である。

全体に調和がとれて見えるプラハの美しい街並みは、よく見ると建築様式の博物館である。古くはロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココからアール・ヌーボー、キュビズムに至る多様な建築の大パノラマが展開している。その中で特に印象に残っているのが、チェコ・キュビズム建築である。プラハに到着するなり、Ｊ・ゴチャールを２作品、Ｊ・ホホルを３作品、続けざまで見て廻ったせいだろうか―チェコ自慢のガイドのせいかも―。どの作品も遠目に見れば、さほど奇異な印象を与えず、旧市街の街並みにとけこんでいる。だが近づくにつれ、その立面に複雑な起伏が見えてくる。斜めに走る線、三角の面、余す所なく幾何学的な処理が施されていることが分かる。ボヘミアングラスをそのまま建物にしたようにも見えるが、そこには明らかにキュビズム絵画に影響を受け、新たな様式を創造しようとした建築家達の情念のようなものを感じとることができた。

チェコ・キュビズムは、長年にわたるオーストリア＝ウィーンの支配から独立しようとする政治的・社会的な情勢に呼応した芸術運動として今世紀初頭に出現したが、その活動もわずか十数年で姿を消してしまう。ヴァルタヴァ川に向かって建つＪ・ホホルのヤロシュ・ヴィラは色こそ褪せているが、その特異な波状の斜面に夏の強い日ざしを反射させ輝いていた。そのさまは、チェコの地において究極の形を夢見た建築家の情熱と強い祖国愛の結晶体であるかのように私には感じられた。



旧市街広場・プラハ

チェコ・スロバキア2

プラハ随想

本間利雄/大林組

東欧最古の都といわれるプラハは、９世紀末にボヘミヤ王国の首都となって以来、歴史を積み重ねながらも各時代のたたずまいを今に残しつつ生きつづける美しい街であり、今回の旅行で最も印象に残った街の一つである。

プラハの旧市街のヘソにあたるのが旧市街広場である。この石畳の美しい広場を取り囲んで、ロマネスク様式からゴシック、ルネッサンス、そしてバロック、ロココに至る中世以来のあらゆる様式の建築が建ち並んでいる。なかでも興味深いのは旧市庁舎である。プラハでも有名なこの建物は、14世紀に創建されたゴシック様式の塔に接続して19世紀に至るまで何回かの増築を重ねた建物となっていて、様式上のミスマッチ感覚がおもしろい。現在でもこの建物の１階では様々な展示会が開かれているし、２階は歴史資料館になっている。また旧市庁舎内の結婚式場はプラハ市民の人気の的になっているという。私達が訪れたときも、結婚式を終えてこれからハネムーンに旅立つ若いカップルにたまたま出会うことができた。

観光ルートに組み込まれた史跡として眺められるだけの建造物ではなく、市民の生活が息づく器として今も生きつづける歴史的建造物。これはプラハに限らず、今回訪問した東欧の諸都市に共通に見られたことであり、スクラップ＆ビルトにより日々変貌する日本の都市を見慣れた私にとって、ヨーロッパの石造文明の重みを実感させる景観であった。

チェコ・スロバキア3

チェコ・スロヴァキア見たり感じたり

服部正毅/きんでん

旅をふり返って、〝もう一度行くとしたら〟と聞かれると、チェコ、街はプラハと答える。1992年の夏、東ヨーロッパの長い旅を終えた現在の私の感想である。

百塔の街とよばれるこの古都は、度重なる戦争で蹂躙された都市の多い中、何とか生き残った街であり、旧市街地のそこここに中世の面影を残している。市街地から見る川の向こうの丘に巨大なプラハ城、その間に500メートルのカレル橋がかかる。1357年に作られたこの石の橋の欄干に、30体の彫像が並ぶその様は、実に見事な景観で、特に夕日に浮かぶ城の姿を背景に眺める美しさは、とうてい私ごときものの筆で表せるものではない。伝説によると、リビューゼという美しいお姫様が青く澄んだヴルタヴァ川の渓谷を望む丘に立って、壮大な眺めに感動し、〝ここに大きな街を作るが良い〟といわれたとか。— そういえば、私はその子孫らしい女性に出会った—。その街がプラハ（敷居）と名付けられた。

1911年に作られた市民会館を訪問した。スメタナホールと各室を見学したが、換気用室内給排気口の何と芸術品であること！ 丸、三角、半円形とあり、インテリアにマッチして、細かい細工がなされ、一見装飾金物かと思うほどである。現代のありあわせの器具を使用して計画し設計する自分に、先人の苦心が重く感じられる。15世紀から18世紀末にかけての建築を次々と視察し、目を見張りっぱなしの感動の長い、そして体力のいる旅であった。

ハンガリー1

〝Tea and Cake〟問題

岡崎　誠/東畑建築事務所

「動乱はあれから8年もたったにもかかわらず、いたる所に痕跡をとどめていた。おそらくハンガリー国民がそのことを忘れたがらないからだろう。——老人だけからなる国民の様な印象を与えた」（J・アーチャーの短編）。ツゴイネルワイゼンなどアジアに起源を持つマジャール人のメンタリティ、何か陰鬱なものをイメージして入ったブダペストは、埃っぽい渋滞の列とサイレンの音で、喧噪に満ちていた。そこここに見える工事現場は新築のものではなく、動乱などで破壊された建物の修復だという。ブダペストの街並みは19世紀に完成された。たかだか100年余りのものということもできるのだが、その街並みが人々をアイデンティファイするというような熱意でもって、人々は修復に取り組んでいる。

こんな街の気分の中でレヒネル・エデンの建築も例外ではなく、今では修復されたものも多く、美しく見ることができる。エデンの建築は、16世紀からのオスマントルコの支配、17世紀末からのハプスブルク家の支配の後、1867年から第一次大戦までのオーストリア＝ハンガリー二重帝国という限定された自由のもとでウィーンのゼセシオン、パリのアールヌーボと同時代的に呼応しながら、マジャールの歴史文化を新様式としておそろしく饒舌に表現したといえる。

強烈な違和感と自分の想像力を超えた遠い世界の濃厚なリアリティ。ヨーロッパの歴史の中の小国、マジャール人エデンの建築、彼らの考える自由の意味。

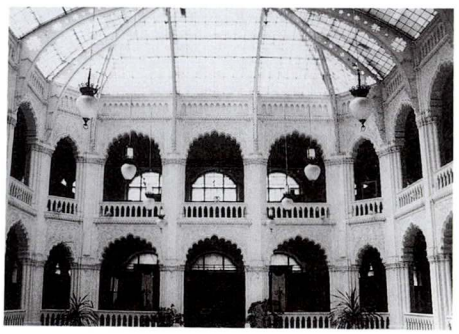
Tea and Cake——はやく食べてしまいなさい、さもないと、小鳥は紅茶で行水し、猫は小鳥を狙いながらケーキを踏みつける。Cool Comedyを現実と訳した茶人TiTi松村氏の言葉だ。冷戦の後の悲しむべき民族対立の問題は、建築の問題（デ・コンの後の）でもあるのだと感じた。

ハンガリー2

ハンガリー…なるもの

倉渕奈千子/田中啓文総合建築事務所

ヴァーツィ通りの喧噪と車の多さに耐えかねて王宮の丘に登った私は、涼を求めてマーチャーシ教会に入った。ゴシック様式の尖塔が風格を持つこの教会は、ヨーロッパによく見られる石積のスタイルである。が、荘厳な雰囲気を期待して中に入った私を迎えたものは、壁という壁、柱、天井のいたるところに施された奇怪なペインティングであった。余白を恐れるかのように執拗に描かれたパターンの連続は、どこか「刺青」を連想させ、薄暗い光とあいまって不気味な空気を醸し出していた。オーソドックスな天使の絵あり、唐草模様あり、イスラム風あり、幾何学的モチーフありと、何もかもを雑多に取り合わせた平面的装飾を目にしたとき、ようやくエデンのあの特異な感覚の秘密を見つけた気がした。正統的なヨーロッパに慣れた、極めて「普通」の感覚しか持ち合わせていない私には、エデンの奇妙にデフォルメされ、なまめかしいまでの装飾の数々はいささかあくが強すぎた。が、好みはさておき、エデンの造形言語が決して稚拙なだけでなく、時代の流れの中での「民族への回帰」という彼の意志の表現であり、波乱多き歴史と複雑な民族性からくる葛藤あればこそのものと考えると、貪欲なまでのデザインが改めて異様な迫力を帯びてくる。多面性の魅力——ハンガリーは野性味ある小悪魔的町である。



装飾美術館・ブダペスト

ハンガリー3

レヒネル・エデン

依光駿介/安井建築設計事務所

かつての社会主義体制の国々や、多くの世紀末建築を見聞きしてきた中で特に私が印象深く感銘を受けたのが、ハンガリーで出合った数々のレヒネル・エデンの作品であった。

セラミックが光輝き、ねじれ、曲がりくねった奇妙なデザイン、動植物、爬虫類のモチーフが、至る所に織り込まれた幻想的で独特な空間を造っている。現在の機能的、合理的、その上画一的で、縦横の直線で作られた建物ばかりを見慣れている私には、最初奇妙な物を見た驚きがあった。しかし、ハプスブルク朝の下、ゲルマン、スラブ民族等に抑圧されてきたマジャール人の、アジア土着民族芸術にこれ程までに執着し、世紀末の建築史の一駒を華やかに飾った一人の建築家の、熱い情熱をこれらの作品の中に見る思いがした。

レヒネル・エデンは1845年ブダペストに生まれ、若い頃は古典主義的作風から抜けきれず、良い仕事にも恵まれなかったが、レヒネル様式の先駆けとなったケチケメートの庁舎(1897年)から始まり、装飾美術館、地学研究所等の大型公共建築を経て完成期の代表作である旧郵便貯金局、晩年のエルジェーベト教会(1913年)に至る。その間20年、50歳を過ぎた頃より民族主義的新様式に踏み込み、一気に花開かせた彼のエネルギーに、私自身その歳に手が届く昨今、ただただ感心するのみだ。今まで私が抱いていたハンガリーのイメージとは、ドナウ川、大平原、温泉等であったが、レヒネルが一つ加わった貴重な旅であった。

ハンガリー4

ハンガリーのレヒネル様式

久保田進也/松村組

旅も半ばを過ぎ、疲れが極限に達した頃、バス内でひとねむりしながらのブダペスト（ブダペシュト）入りとなった。気温が30℃を超える2日間の見学のなかで、エデン・レヒネル（1845～1914）の作品が印象に残った。地学研究所(1896～99)(屋根裏も見学)、旧郵便貯金局(1899～1901)、装飾美術館(1891～96)(ガラス屋根のかかった中庭)、シペキ邸(1905～06)(玄関横のガラスドーム)等、いずれも世紀末のブダペストに花咲いた作品である。曲がりくねった曲線、内外に使用されたセラミック。現地ガイドの〝セラミックの屋根を見よ、セラミック〟とさけんだ声がいまだに耳に残っている。(これは、レヒネルの友人ジョイナルの工房で制作された)

当時ブダペストでは、政治、経済の発展にともなう急激な人口増により大規模な都市改造が必要となり、住宅はもちろん、公共建築も数多く建てられた。その中で、レヒネルは反アカディミックな立場上、当時の主流であった古典主義、折衷様式からの脱皮をはかるため、それまでおさえられていた民族主義を基盤とした新様式を確立したのである。

2日目の午後、ブダ地区の丘にある王宮から、ドナウ川(ドウナ川)をへだててペスト地区を展望した。平坦で5階～6階建のスカイラインがみごとにそろっていたが、変化にとぼしいように感じられた。プラハの街並みの方が美しかった。3日目は、ブダペストの東南約100kmのケチケメートをおとずれた。市役所前の広場をとりかこむ建築群は、みごとであった。市役所(1890～97)はレヒネルの連作の初期のもので、まだ折衷様式が残るものの、外壁のオレンジ色、ホールおよび廊下天井の交差ボールトとオレンジ色の模様は印象に残った。ここで思い出すのは、プラティスラヴァの聖エルジェーベト教会(1907～13)である。レヒネルの後期の作品で、ブルーを基調とした外壁、目地に仕込まれたガラスモザイク等、変化に富んだものであったが、同時代わずか270kmしか離れていないウィーンのオットー・ワグナーとは異なった様式となったレヒネル様式も、この教会を最後に、わずか20年で幕をとじることとなるのである。

今なお悔やまれるのは、歴史の古いブタペストの地下鉄(開通はロンドンの次)に乗りそこねたこと。そして、ブタペストの温泉に入りそこねたこと。再び訪れる機会があることを願うのみである。(人名は、西欧風に統一した)

オーストリア1

ハプスブルクの遺産

神津信太郎/鹿島建設

〝ウィーン〟、この都市を訪ねる前に想いを寄せていたのはシュテファン大聖堂、エルラッハのカールス・キルヘ、ゼンパーのブルグ劇場、ワグナーの郵便貯金局、オルブリッヒの分離派館、ロースのロースハウス。できたらロースのカフェ・ムゼウムでゆっくりコーヒーとその空間を堪能しようと。3日間もあれば、余裕ある見学ができるであろうと高を括っていたが、ウィーンに足を踏み入れた途端、ハプスブルク帝国の首都という文化の高さ、ボリュームの大きさに呆然としてしまった。ともかく最初に降り立ったケルントナーからグラーベン、コールマルクト通り(シュトラッセ)というメイン通り附近だけでも、エルラッハからロース、新しくはホライン、ソットサスまで建築史に載る名建築が10や20はあるのだから、とても一つ一つの建物に感傷を込めて見学するような時間はないと、悲しくも悟ったのである。しかし時間を経ると、短時間に夥しい建物を走馬灯を見るように流し見ることで、かえって全体像から印象深い建物が時を停止したようにフラッシュアップされてくるのである。ワグナーの建築は、重い歴史の都市で育った様式的建築群の中に、洒落た軽快なデザインで嵌め込まれていて、印象深いものであった。駆け抜けて見た中にも素晴らしい建築はいくつかあり、再びこの都市を訪ねるチャンスがあれば、このフラッシュアップされた建物を別の角度から観察してみたいと思っている。

オーストリア2

旅の終わりに

松岡勝幸/大阪セメント

17日間に及ぶ海外研修旅行も、明日は帰国の途につくのだ。ドイツ、チェコスロバキア、ハンガリー、オーストリアと実に多くの建築を視察し、いくつかのホテルに宿泊してきた。ウィーンのホテルは繁華街の中心部にあり、いささか騒々しい。ホテルの裏通りは歩行者であふれ、観光客目当てのトリオが窓下でラテン風の音楽を奏でている。同室者とは19時に夕食の約束を交わしたが、まだ連絡がない。今回の研修旅行は相当な強行軍であったが、参加者の苦情や陰口がひとつとして聞かれない。参加者全員の建築への情熱、人柄、企画を担当していただいた方への感謝の気持ちの表れであろう。このような方々と最後まで共に行動でき、ありがたい思いにひたっているとき、同室者より電話があり、ウィーン最後の夕食に出かける。今回の海外研修旅行ではすばらしい建築に出合えただけでなく、すばらしい人達に出会えたことを感謝しながら…。

オーストリア3

オットー・ヴァグナー

岡橋作太郎/元・日建設計会長

爽やかな夏の朝、私はシュタインホフの聖堂の前に立った。多年の夢が実現したのである。カラー写真で見てはいたが、殊にその内部は筆舌に尽くしがたいと言ふより外ない。祭壇の屋根のコンヴェックス・カーヴと背景の絵のコンケーヴ・カーヴとの対応。側窓のステインド硝子の模様の新鮮さ。あれやこれやで立ち去り難い思ひをした。

郵便貯金局は60年も前、学生時代から知っていた建築である。今回めぐり合ふことが出来たのである。写真で知っていた通りであったが、天井の硝子面に接する白い壁面に境界線に沿って黒い小さな線模様が描かれている。写真には写らないかも知れない微小な紋様である。脱帽した。只のデザイナーではない。

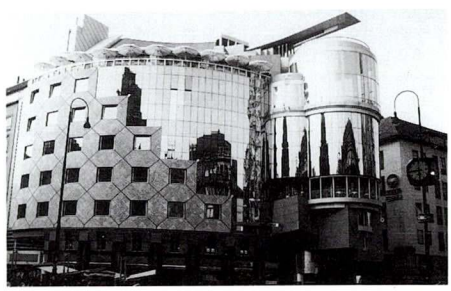
ウィーン市内の各所に散在するマイナーなヴァグナーの作品がウィーンの街を高雅にすることに如何に役立っているかを思ふ。

ハンス・ホラインのハースハウスと称する建築は都市風景に衝撃を与へただけである。街をも市民をも愛していない。自分の建築をも愛していない。

それに引き替へヴァグナーは、と言ひ度い。



シュタインホフ教会・ウィーン



ハースハウス・ウィーン

建築と社会
第73集総目録
1992

（平成4年）

社団法人　**日本建築協会**

特集号

夢物語―人がかわる、街がかわる …… 1
こだわりのインテリア …… 2
近畿の郵政建築15年の歩み …… 2
建築とデザイン―東海支部― …… 3
建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム― …… 4
地球環境時代の建築 …… 5
街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年― …… 6
木構造を使ってみませんか―集成材による構造― …… 7
接着―建築分野への限りなき可能性― …… 8
中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」 …… 9
屋台―仮設の魅力に学ぶ― …… 10
ハウジングのメインストリームを探る―戦後ハウジングの回顧と展望― …… 10
いま建築教育に何が期待されているのか …… 11
京のかたちと色 …… 12

作品作風・新建築

●官公庁舎・会館

大阪府大正警察署 …… 1
設計：大阪府建築部営繕室　地域建築研究所
監理：大阪府建設監理協会　栄和設計事務所
施工：東洋建設大阪本店

広島県立農業技術センター …… 2
設計監理：広島県営繕課・教育施設研究所
施工：淺沼組・日興共同企業体

大府市勤労文化会館 …… 3

設計監理：安井・加藤設計共同企業体
施工：鴻池・愛知・カミキン建設共同企業体

浜松市消防本部・中消防署合同庁舎 …… 3
設計監理：浜松市建設部住宅営繕課・安井建築設計事務所
施工：須山建設・和久田組共同企業体

須崎市立市民文化会館 …… 5
設計：石本建築事務所
施工：戸田建設四国支店　住友建設四国支店　関西土木

篠山町庁舎 …… 7
設計監理：安井建築設計事務所　施工：東洋建設

川西市新庁舎建設事業 …… 8
設計監理：東畑建築事務所
施工：大林組・西松建設共同企業体

竹原複合合同庁舎 …… 9
設計：大旗連合建築設計
監理：広島県土木建築部都市局営繕課
施工：木之木建設・賀豊土建共同企業体

河内長野市立文化会館 …… 10
設計監理：日建設計
施工：大成建設・清水建設・不動建設共同企業体

草津市庁舎 …… 10
設計監理：東畑建築事務所
施工：（庁舎棟）大林組・大成建設・辻寅建設共同企業体
（市民センター棟）大林組・伊藤工務店共同企業体

神戸市立東灘区民センター …… 12
設計監理：神戸市住宅局営繕部工務課・昭和設計
施工：熊谷組大阪支店

●学校建築

富田林市立向陽台小学校 …… 1
設計監理：高橋上田設計事務所

鈴鹿市立郡山小学校 …… 3
設計：鈴鹿市都市計画部建築課・東畑建築事務所
監理：鈴鹿市都市計画部建築課
施工：浜口・田中建設共同企業体　白木・大野建設共同企業体　近畿・西城建設共同企業体

大同工業大学図書館 …… 3
基本構想：DIT図書館基本設計プロジェクトチーム
設計監理：日本設計
施工：大林組名古屋支店

愛知淑徳学園・中央棟 …… 3
設計施工：竹中工務店名古屋支店

代々木ゼミナール熊本校舎・学生寮 …… 7
設計：大成建設一級建築士事務所
施工：大成建設九州支店

兵庫県立星陵高等学校 …… 12
設計監理：兵庫県都市住宅部営繕課・設備課
施工：大成建設・新井組・関西建設工業特別共同企業体

京都コンピューター学院京都駅前校 …… 12
設計：錢高組1級建築士事務所　施工：錢高組

●文化・スポーツ・社会福祉施設

勝山市立図書館 …… 1
設計監理：石本建築事務所
施工：鹿島建設・大北久保建設・山本組建設共同企業体

愛知芸術文化センター　愛知県図書館 …… 3
設計監理：愛知県建築部営繕課　日建設計・名古屋
施工：佐藤・西松・大日本・名工・六合・長瀬建設共同企業体

豊橋市二川宿本陣資料館 …… 3
基本設計・監修：小野木重勝　実施設計・監理：伊藤建築設計事務所
施工：藤木工務店名古屋営業所

明和町総合体育館 …… 3
設計監理：岡設計名古屋支店
施工：フジタ・伊藤特定建設工事共同企業体

津島地域文化広場　児童科学館・総合プール … 3
設計：児童科学館　愛知県建築部営繕課・津島市建設部都市計画課・伊藤建築設計事務所
総合プール　津島市建設部都市計画課・伊藤建築設計事務所
施工：児童科学館　津島建設共同企業体（ミタニ建設・太陽建設工業所）
総合プール　飛島建設名古屋支店

小牧市温水プール …… 3
設計監理：小牧市・大建設計名古屋事務所
施工：佐藤・小田急建設共同企業体

奈良若草カントリー倶楽部クラブハウス …… 3
設計：東畑建築事務所名古屋事務所
監理：東畑建築事務所大阪事務所
施工：大林組・鴻池組ＪＶ

みずなみC.C.クラブハウス …… 3
設計施工：大成建設名古屋支店

多度カントリークラブ・名古屋 …… 7
設計監理：彦谷建築設計事務所
施工：大日本土木名古屋支店

世良美術館 …… 7
設計：瀬戸本淳建築研究室　施工：大工建設

出雲健康公園整備プロジェクト・出雲ドーム … 9
設計監理：鹿島設計エンジニアリング総事業本部　斉藤公男
施工：鹿島広島支店

広島県健康福祉センター …… 9
設計監理：広島県・安井建築設計事務所
施工：清水建設・砂原組・日成建設共同企業体

下蒲苅地域文化館・蘭島閣美術館 …… 9
設計監理：井村建築設計事務所
施工：増岡組・折本建設共同企業体

江波山気象資料館 …… 9
設計監理：アーバンプレーン　施工：下岸建設

広島C.C.西条コースクラブハウス …… 9
監修：広島大学名誉教授　佐藤重夫
設計監理：フジタ広島支店一級建築士事務所
施工：フジタ・増岡組建設共同企業体

志賀町立図書館 …… 9
設計監理：徳岡昌克建築設計事務所
施工：戸田建設大阪支店

田川市文化エリア …… 9
設計：徳岡昌克建築設計事務所
監理：田川市建築住宅課　徳岡昌克建築設計事務所
施工：奥村組・久保建設共同企業体　中山組　成定建設

きさいちカントリークラブ・新クラブハウス … 12
設計施工：奥村組

滋賀県立長浜ドーム …… 12
設計監理：久米設計
施工：熊谷組・材光工務店共同企業体

伊丹市立生涯学習センター（ラスターホール） 12
設計：石本建築事務所
監理：伊丹市建設部建築課　石本建築事務所
施工：前田建設工業

京都府立植物園新観覧温室 …… 12
設計：環境設計　施工：三井建設

●複合ビル

千里ライフサイエンスセンター …… 9
設計監理：東畑建築事務所
施工：大林組・清水建設・錢高組建設共同企業体

阪神星光ビル・野田阪神ビル（WISTE） …… 11
設計監理：大林組
施工：大林組・阪神土木工業共同企業体

ときめきの街・KUSATSU WEST …… 12
設計：清水建設・間組　施工：清水建設・間組

●業務ビル

堂島アクシスビル …… 1
設計監理：昭和設計
空調設計・監理：竹中工務店　施工：竹中工務店

野村不動産四ツ橋ビル …… 1
設計監理：安井建築設計事務所
施工：大林組・錢高組・大和ハウス工業共同企業体

神田ビル …… 3
設計施工：錢高組

INAX本社ビル …… 3
設計施工：竹中工務店名古屋支店

NHK名古屋放送センタービル …… 3
設計監理：日建設計・名古屋　設計協力：大成建設
施工：大成建設・鹿島・矢作建設工業共同企業体

サナルビルヂング（佐鳴学院本部ビル） …… 3
設計施工：大林組名古屋支店

岐阜交通株式会社本社ビル …… 3
設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：岐建木村

トヨタ自動車田原事務館 …… 3
設計：トヨタ自動車一級建築士事務所・大成建設名古屋支店
監理：トヨタ自動車一級建築士事務所　施工：大成建設名古屋支店

日本ガイシ本社社屋 …… 3
設計監理：日建設計・名古屋
施工：鹿島・大林組共同企業体

濃飛ニッセイビル …… 3
設計監理：清水建設名古屋支店
施工：清水・鹿島・大日本土木建設共同企業体

建築と社会 第73集 1992年(平成4年1月号—12月号) 総目録

号

コスモ栄ビル……3
設計施工：鴻池組名古屋支店
昭和紅梅町ビル……4
設計：安井建築設計室　施工：鹿島大阪支店
COMODO 西本町ビル……4
設計：安井建築設計室　施工：鹿島大阪支店
クオレ本社ビル……4
設計：安井建築設計室　施工：清水建設大阪支店
中川ビル……4
設計：安井建築設計室　施工：鴻池組大阪本店
TTN 南新町ビル……4
設計：安井建築設計室　施工：錢高組大阪支社
エリモセンタービル……6
設計監理：小河建築設計事務所
施工：大林組・新日本土木共同企業体
CFB 北浜ビル……6
設計施工：大林組
SS BUILD HAKATAEKIMAE……6
設計監理：小松義博建築都市設計事務所
施工：竹中工務店九州支店
中津センタービルディング……7
設計施工：大林組
島崎観光開発本社ビル……7
設計施工：大成建設九州支店
リフレ……7
設計監理：昭和設計
施工：清水建設・日本国土開発共同企業体
ナリス化粧品本社ビル……7
設計監理：昭和設計　施工：松村組
YHP 神戸事業所……8
設計施工：竹中工務店
近畿日本ツーリスト河原町ビル……11
設計施工：大林組
オムロン札幌テクノセンター……11
基本設計：日建設計
実施設計・監理：NTT・日総建共同企業体
施工：鹿島札幌支店
大同生命三条ビル……12
設計：指宿真智雄・建築デザイン1級建築士事務所
施工：錢高組・清水建設
KRP ガスビル……12
設計監理：日建設計　施工：大林組
積水化学京都技術センター……12
設計：京都大学加藤研究室・安井建築設計事務所
監理：安井建築設計事務所　施工：竹中工務店（研究棟）
㈱山中アート研究センター……12
建築設計施工：竹中工務店　造園設計施工：花豊造園

●銀行

なにわ銀行本店……11
設計監理：東畑建築事務所　施工：清水建設

●医療施設

名古屋記念病院……3
設計監理：青島設計
施工：前田建設工業（1期）　鴻池組（2期）
もりまちハートセンター……8
設計：安井・パドウ・ライト設計業務共同企業体
監理：長崎市建築部建設課・安井建築設計事務所
施工：熊谷組・小牧建設・谷川建設・三宮建設共同企業体
並木ルネッサンスビル（林病院）……9
設計監理：山田保建築設計事務所
施工：熊谷組広島支店

●住宅・マンション・社宅

青濤館オリックス野球クラブ合宿所……1
設計：藤木工務店
監理：オリックス不動産鑑定部建築監理チーム・藤木工務店
施工：藤木工務店
モーニングパーク主税町……3
設計監理：鹿島名古屋支店
＋KAPLAN・McLAUGHLIN・DIAZ
施工：鹿島名古屋支店
水明館　青嵐荘……3
設計施工：竹中工務店名古屋支店
豊田自動織機製作所　誠和ハイツ……3
設計施工：竹中工務店名古屋支店
メゾン三好ヶ丘　第1期……3
設計施工：竹中工務店名古屋支店
淀川リバーサイドタウン／リバーサイドさぎす／シティハイツ逆瀬川／武庫川、武庫川第2／高見

号

フローラルタウン／森之宮スカイガーデン／ユーコート／桜宮リバーシティ・ウエスト／リビエール関目／ムアナ88／ろじこおと／ガーデンハウス高槻・阿武山／ガーデンハウス箕面おのはら／アミティ学園西町／アクティ学園西町／高槻・阿武山一番街／千里緑丘／泉北城山台2丁／ガーデンハウス西神狩場台／ガーデンハウスいぶき野／シテ・エスポアール宇治黄檗台／グラディーナ学園前／コンフォール学園緑が丘／高の原駅西第2／奈良青山／ルミナス箕面の森／シェラピア東山台。……6
兵庫銀行　箱根山荘……7
設計監理：安井建築設計事務所
施工：佐藤工業東京支店
東り㈱春日丘寮・社宅……8
設計監理：大林組本店一級建築士事務所
施工：大林組・大末建設共同企業体
住建産業独身寮……9
設計施工：大之木建設広島支社
住友ゴム工業株式会社魚住寮……10
設計監理：大林組
施工：大林組・フットワーク建設・明石土建共同企業体

●ホテル・リゾート施設

プリンセス有馬……3
設計監理：昭和設計　施工：前田建設工業大阪支店
プライベートリゾートエクシブ鳥羽アネックス3
設計監理：安井建築設計事務所　施工：大林組
エバラ倶楽部……3
設計施工：清水建設名古屋支店
ヒューコーストすさみ……5
施主：チヨタ開発
設計：日新建設一級建築士設計事務所
施工：日新建設工業
旅亭　半水廬……6
設計監理：吉村建築事務所　施工：佐藤工業九州支店
温井スプリングス……9
設計監理：大旗連合建築設計
施工：共立建設・松本建設共同企業体
呉阪急ホテル……9
設計監理：日建設計　施工：増岡組

●その他

カメイ壁材工業二色の浜工場……1
企画・監修：ヘキサ　中筋　修
設計施工：松村組大阪本店
名駅IMAIビル……3
設計監理：青島設計　施工：鹿島名古屋支店
広島原爆養護老人ホーム・倉掛のぞみ園……9
設計監理：山下設計
施工：大成建設・三井建設・砂原組共同企業体
ひがしひろしま聖苑……9
設計監理：大旗連合建築設計
施工：鉄建・日興・堀田特定建設工事共同企業体
広島城表御門……9
設計監理：日総建
施工：砂原組・小松工務店建設工事共同企業体
ゆめタウン吉田……9
設計監理：河内義就設計事務所　施工：熊谷組広島支店
広島護国神社本殿・拝殿……9
設計監理：河内義就設計事務所
施工：松本建設・増岡組共同企業体

スケッチブック

2355 ひかり学園美山幼稚園／2356 龍ヶ岳町立上天草総合病院／2357 ホンダ大阪ビル／2358 協同学苑／2359 太陽生命東大阪ビル／2360 スカイヒル上八／2361 太陽生命西宮ビル／2362 ニッセイ洛北ビル／2363 平安祭典西神会館／2364 西神神鋼寮／2365 日新製鋼加工技術センター 研究棟アネックス 4
2366 小川記念館／2367 紅の家NO.3／2368 帝塚山短期大学増築／2369 播半春日寮／2370 香川県環境研究センター、同衛生研究所／2371 casa InouE／2372 紅の家NO.4増築／2373 月が丘の家／2374 中央大通り大治ビル／2375 TKH南森町ビル……5
2376 西心斎橋ニューズビル／2377 日生ニュータウンサウンズビル(第4期)／2378 千代文化スポーツセンター(愛称：パピオ)／2379 大同生命那覇ビル／2380 福岡市民防災センター／2381 摂津市消防本部・消防署／2382 兵庫県立水産試験場／2383 中央児童相談所／2384 紅乙女酒造リキュール工場／2385 学校法人山田学園有瀬幼稚園／2386 博多三井ビルディング2号館……6
2387 小岩アーバンプラザ／2388 京都市健康保険組合 保養所きよみず／2389 CONVEX 岡山／2390 朝日プラザ枚方公園／

号

2391 針中野の家／2392 ニノミヤ東大阪店／2393 羽衣複合施設（老人福祉センター・公民館）／2394 兵庫県不動産会館／2395 伊豆高原の家／2396 Hunting 近商ストア玉川店／2397 東海証券高蔵寺研修センター……7
2398 六甲アイランド特定業務施設用住宅／2399 洋伸不動産大手前ビル／2400 シプレカントリー倶楽部クラブハウス／2401 住友金属工業甲東寮共用棟／2402 北新地幸田ビル……11

夢物語—人がかわる、街がかわる—

人がかわる

生活者の昨日・今日・明日……猪飼政昭…1
自分らしく働いてますか……太田明子…1
女たちがかわり、女たちがかわる……奥村礼子…1
高齢者・身障者が、単身まちへ出る…吉田あこ…1
異人の住む周縁の町づくり……國本喜之…1

街がかわる

二つの住・宅・夢・語・り……山枡勝弥…1
これからの交流施設……大塚辰美…1
天国の楽園からの愛の文化施設、文化活動!!……北大路善之助…1
再びアメリカに学び商業を再構築する…香川英行…1
変わり方への一つの疑問……岡　並木…1
ニュータウン開発のゆくえ……奈須　豊…1
関西文化学術研究都市のゆくえ……大久保昌一…1
大阪ベイエリア開発のゆくえ……吉川和広…1

こだわりのインテリア

総論

綺麗は美か……出江　寛…2

各論

未来を考え、未来を創造する…コシノ　ジュンコ…2
現代空間に生きる華道……堀江星苑…2
フランスのエスプリ—ラ・ヌーヴェル フォンテーヌ……多々内廣行…2
イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー草間昌雄…2
椅子へのこだわり—デザインの出発点…喜多俊之…2
有ることが"無"、無いことが"有"—演劇は哲学的時空—……嶋田三朗…2
眼が思惟する世界へ……東出清彦…2
光へのこだわり……田村利夫…2

総括

こだわりのインテリア……北浦かほる…2

近畿の郵政建築15年の歩み

巻頭言

不易流行・百花繚乱—郵政建築の現況…観音克平…2

座談会

郵政建築、今日から明日へ……2
澤　良雄／大久保久能／中川　理／観音克平／山本晃／垣内　晃／山内一正……2

作品

作品（郵便局）所在地……2
郵政建築（近畿篇）79点……2
普通郵便局—伊丹／東灘／左京／船場／野州／近江日野／茨木／大阪狭山／都島／神戸西／峰山／甲西／香芝／浪速／八尾／奈良西／小野／尾崎北／福知山／加古川東／天王寺
特定郵便局—大江／古市／国包／淡路一宮／但東／丹後／西大和高塚台／日置川／御津／大塩／愛知川／村岡／二見／猪名川／市川／山東／湖東／神戸大田
博覧会施設—シルクロード博郵便局／花の万博郵便局
リフォーム—中京／篠山／池田／竜野／門真／大阪中央／北浜／和歌山中央（普通局）・京都岡崎（特定局）
ローカリティ—吉野山／高宮／平福（特定局）・山城田辺（普通局）
アーバニティ—神戸サンパルビル・ポスタルショップサンパル（臨時出張所）・シティポスト阪急（都市型簡易局）・大阪ツイン21ビル内／K2ビル内／西中島南方駅前／天王寺小橋（特定局）・御堂筋ヒマワリ（都市型簡易局）・独立型カプセルCS
文化施設—大阪郵便貯金会館（メルパルクOSAKA）
厚生施設—近畿郵政局研修所・近畿郵政局体育館・大阪北通

建築と社会 第73集 1992年(平成4年1月号—12月号) 総目録

号

信病院・京都郵政共済会館≪洛翠≫
借入郵便局—芦屋公光・西宮神明・尼崎園田・草津矢橋・尼崎田能・大阪高津・大阪玉造・武庫川・伊丹森本・神戸竹の台・新宮横町・東淀川相川

年表
近畿の郵政建築の歩み …… 2

組織図
郵政省の組織 …… 2

建築とデザイン—東海支部—

作品（作品作風・新建築欄既載） …… 3

東海スケッチ
豊川社会保険事務所庁舎／岐阜銀行岐南支店／北伊勢信用金庫川越支店／愛知銀行荒尾支店／白馬47スキー場ベースセンターレストハウス「アリス」 …… 3

座談会
建築とデザイン
伊藤和子／河邊信行／寺本英一／森口雅文／(司会)中島一 …… 3

論文・随想
「美」と「実用性」の調和をめぐって
……ヤン・スィンゲトー… 3
都市再開発と景観とデザインと ……横井太郎… 3
『清少納言の住まい観』 ……若山　滋… 3
映像に想う「建築空間」 ……小川辰男… 3
表現コードの歴史と展開……加藤和雄… 3
近代建築の流れの中で　ストラクチャーの様相と変移……渡辺誠一… 3
省力化の対策例と今後の課題に向けて
……岩田正弘… 3

建築家のための設備知識 —集合高層住宅の設備システム—

第1章　はじめに
建築基本計画に必要な設備知識 …… 4

第2章　調査
現地調査と官庁打ち合わせ事項・建築主打ち合わせ確認事項 …… 4

第3章　給排水衛生設備
基本事項・給水設備・排水設備・給湯設備・衛生器具設備・消火設備・ガス設備・今後の給排水衛生設備… 4

第4章　電気設備
電力設備・管理設備・通信設備・今後の電気設備… 4

第5章　集合住宅におけるエネルギー設備
集合住宅におけるエネルギー設備・厨房設備・給湯、風呂設備・空調設備・高齢者対応を考えたガス住宅設備・ガス安全設備・ガス設備システムの将来展望 …… 4

第6章　集合住宅における電気エネルギー設備
給湯システム・厨房システム・空調、換気システム・照明器具・その他家事システム・屋内配線・住宅電気設備機器の将来動向 …… 4

第7章　建築と設備の接点
住宅用メーターボックス・各種機器の納まり・配管スペース …… 4

参考資料
共同住宅の消防法特例基準…… 4

地球環境時代の建築

総論
地球環境時代と建築 ……末石冨太郎… 5

各論
エゴ（egoistic）からエコ（ecological）建築へ—20世紀末建築のコンセプト ……林　昭男… 5
都市における廃熱—地球の温暖化
……森山正和・宮崎ひろ志… 5
都市における廃ガス—大気汚染 ……宮崎竹二… 5
自然浄化能を利用する下水や汚濁河川水の高度処理
……古川憲治… 5

号

建築における型枠—木材使用の問題点…酒井寛二… 5
建築材料としての川砂利採取と生態系—魚類の成育環境の視点から……君塚芳輝… 5
環境を考えた建築廃棄物の再利用—旧東京都庁舎解体工事の例 ……大原　勲… 5

アンケート・地球環境問題についての建築家の認識と対応
自然との対話／浅井　謙　地球環境の時代／東　孝光　モラルの確立／池上俊郎　古来の自然観に新たな価値／池田武邦　自然との共生／石井　修　自然の利用と還元／指宿眞智雄　建築を環境の中で捉える／梅沢典雄　着目大局、着手小局／太田隆信　ローカル・アイデンティティ／加藤邦男　消費型生活からの転換期／川崎　清　人口増加と環境破壊／木島安史　エコ・アーキテクチャー／菊竹清訓　環境悪化をくいとめる／瀧　光夫　新しい環境のパラダイム／土肥耕一　技術開発の発想転換／徳岡昌克　環境を考えた建築基準を／藤縄正俊　地球共生時代の建築／水谷穎介　都市緑化が課題／美濃吉昭　廃棄物の処理システム／山下和正　土地の有効利用で緑を守る／山本忠司　組織としての取組み／山元弘和　自然への畏敬を／葉　祥栄　省資源を考えた設計／吉羽逸郎　変化のスピード制御／吉村篤一 …… 5

街創り、住まい創り —住宅・都市整備公団関西支社10周年—

作品（作品作風・新建築欄既載） …… 6

座談会
街創り、住まい創り、コミュニティ創り…… 6
延藤安弘／川村眞次／伊東　公／増田直隆／(司会)宇治原邦浩

木構造を使ってみませんか —集成材による構造—

総論
集成材による木構造の展望 ……山井良三郎… 7

構造計画
木による空間構造の楽しみ方 ……今川憲英… 7

建築計画
デザイナーにとっての構造用集成材 …永田定敬… 7

生産
集成材のデータ……金子吉汪… 7

実施例
私の作品 …… 7
帯広営林支局庁舎／三田市立学園小学校／松江市立持田幼稚園／生成幼稚園／高野町立花坂僻他保育所／中央公園管理事務所／岸和田市立臨海会館／愛媛県林業試験場展示館／神戸市布引公園森のホール／丹波年輪の里クラフトセンター／オートポリス・アート・ミュージアム／ウッデイドーム・上石津／大府市いきいきプラザ／総合案内センター「吉野路309」／ジョイフル朝日美原店温室棟／鳳来峡健康ハイランド／洞爺サンパレスプレイゾーン棟／八甲田ホテル／21センチュリークラブ富岡ゴルフコースクラブハウス／西山荘カントリー倶楽部クラブハウス／株式会社林組本社／解脱錬心館

接着—建築分野への限りなき可能性—

総論
接着への招待……三刀基郷… 8

各論1
接着のメカニズムと耐久性 ……山崎一昭… 8

各論2
●接着工法—非構造—
防水工事—メンブレン防水工事における接着
……荒木　孝… 8
石工事—石材の接着工法— ……内田富雄… 8
タイル工事 ……佐藤正行… 8
木工事—建築工事・建材用接着剤の技術動向
……難波　登… 8
左官工事におけるポリマーディスパージョン塗布工法
……能登谷恭一… 8
ガラス工事—SSG 構法— ……長橋健一… 8
●接着工法—構造—
構造 ……奥山登志夫… 8

号

●接着工法—特殊工事—
遺跡保存 ……大下俊之… 8
建物保存—原爆ドーム— ……沢出　稔… 8

各論3
接着剤の選び方……松本秀俊… 8

中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」
—中国支部創設45周年を迎えて—

作品（作品作風・新建築欄既載） …… 9

建築家&作品
古谷誠章／狐ヶ城の家．加藤昭彦／広島銀行西条支店他3作品．木下正昭／楔の家．板倉　誠／広島スバル自動車本社ビル．楢村　徹／いきさ本社ビル他2作品．西宮善幸／北海道ニセコアンヌプリ別荘計画案．垂井俊郎／ハウスバーンフリート他2作品．丹羽英喜／岡山県職員会館三光荘他2作品．村重保則／柱野アトリエ他2作品．衣笠准一／KKR 湯田朝倉荘本館改築．中村正俊／ウエスト'92．松前英二／満景寺本堂．沖本弘至／ジャンボ会館

座談会
中国地方の若手建築家3人が語る「人～作品～街～それぞれのかかわり方」
東　孝光／村上　徹／芝吹千昭／小川晋一／(司会)森畑　武 …… 9

寄稿
建築施工ロボット化の現状分析と今後の動向
……中尾好昭… 9
資料・広島城「度量之絵図」……橋本秀夫… 9

屋台—仮設の魅力に学ぶ—

PROLOGUE
きらめく都市の暮らしと屋台 ……木津川　計…10
秩序からの越境—日本の都市と屋台— 高田公理…10

SCENE●1
屋台みてある記—福岡・大阪— ……桑原宏明…10

SCENE●2
私の屋台論
表情のみえる街に……村上和子…10
屋台とつきあえる街づくり ……梅村宏尚…10
屋台の不動産的考察……林　輝行…10
街を共に使う ……小浦久子…10
北新地の屋台 ……吉村英祐…10
上海屋台探検記……横関真紀…10
中洲にて、屋台を考える ……河端秀直…10
屋台の風景 ……松川敏正…10
移動遊園地『キルメス』 ……高田佳子…10
ちょっと風変わりな屋台 ……鈴木克彦…10
屋台はまち角のサロン ……吉田　薫…10

SCENE●3
屋台あらかると ……10

EPILOGUE
屋台都市計画論—魅力ある都市づくりの手掛かりを求めて— ……田中直人…10

ハウジングのメインストリームを探る
—戦後ハウジングの回顧と展望—

戦後ハウジングの回顧と展望
……住宅問題懇談会…10
ハウジングの課題と展望……巽　和夫…10
戦後住宅政策の評価……住田昌二…10
自治体住宅政策の展開……椚座正信…10
住宅地計画の展望……富安秀雄…10
住宅関連技術の推移と課題……立岡　弘…10

研究報告
公共住宅の家賃問題……公社賃貸住宅研究会…10
町家型集合住宅の開発
……町家型共同住宅研究会…10

レポート
韓国の住まい……10

いま建築教育に何が期待されているのか

エッセイ
建築教育について思う……横尾義貫…11

建築と社会 第73集 1992年(平成4年1月号—12月号) 総目録

号

対談
設計者の育成を展望する
……清家　清／恒成一訓…11

座談会
いま建築教育に何が期待されているのか
太田隆信／瀬川輝夫／竹山　聖／田中直人／吉村武／司会 溝神宏至朗……11

アンケート
●建築教育に関するアンケート
安藤四一／上田　篤／下村健治／杉谷　一／杉山茂一／鈴木成文／土井崇司／船越暉由／山田溪／吉井歳晴／渡辺豊和／遠藤剛生／種村俊昭／土肥耕一／中川洋一／野勢　忠／三宗司郎／若林広幸／浅輪　誠／上原正行／肌勢良雄／藤繩正俊／増地秀夫／美濃吉昭／末松利夫／中原達夫／大原通明／柏木寿男／菅谷　梓／田辺　清／中谷佳生／浜　美樹／大阪大学建築工学科／大阪市立大学建築学科／神戸芸術工科大学環境デザイン学科／神戸大学建築学科・環境計画学科／京都工芸繊維大学造形工学科／国立明石工業高等専門学校建築学科／修成建設専門学校建築工学科・女子建築設計科／大阪工業技術専門学校建築学科・建築設備科……11
●建築教育の行方—学生に対するアンケートの結果をみて……森山正和…11

京のかたちと色—京都支部創設45周年記念—

作品（作品作風・新建築既載）……12

総論
自分の中にこそ世界がある—京都のかたちと色
……木村光佑…12

各論1　京都の伝統工芸の色
京友禅—京都をつつむ自然……羽田　登…12
西陣織—自然と人との間にあるいろぬの（色布）
……伊豆蔵明彦…12
京からかみ—枯葉色のハーモニー…千田堅吉…12
京陶芸—陶における色と質感……清水柾博…12
京表具—文化財保存修理と色彩…宇佐美直八…12
京タンス—木の香り……宮崎弘夫…12
京人形—人形のいない「ひいな」の世界
……田中久雄…12
京扇—開かねば扇は風の蕾かな…宮脇新兵衛…12

各論2
京都の街の景観と色……望月秀祐…12

建築の眼

「花長風月」．無駄の効用．道路と建築．ボーダレス時代の街づくり……1
小学校の数ほどケア施設を．禁煙テーブル．建築を見る眼．地球環境問題へ貢献の一歩……2
お父さんの居場所．笑いの失敗．都市景観とファッション．VE契約制度のすすめ……3
住宅のグッドデザイン．個と集団．流れ．シビックデザインへの期待……4
下宿生の新3種の神器・稀少性の内幕．設計へのアプローチ．人手不足と省力化……5
契約と信頼関係．生長と寿命．自然の恵み．建築と外構の調和……6
以上　北浦かほる・島崎勉・中川洋一・小林志朗
希望の企て．18年目の建築の眼．凍れる音楽．建築材料と環境問題……7
パトスのまちづくり．ほれられた市庁舎．情報の断絶．建築材料と日本工業規格……8
お布施のまちづくり．ウィーンにて．建築を舞台に上げたら．BUILDABILITYと品質……9
やさしいまちってなんだろう．役所の先導性．無防備都市．保全技術の体系化を目指して……10
デザイン<と>生活．建築のボランティア．今昔．リサイクルへの挑戦……11
まちづくりの深層への旅．まちのデザインをそろえる．建築の眼．コンクリートの高度化……12
以上　延藤安弘・大海一雄・岡田圭之・松本洋一

法令コーナー

京都市「福祉のまちづくりのための建築物環境整備要綱」の改正／梅本武史……1
尼崎市火災予防条例の改正／酒居忠久……2
京都市駐車場条例の一部改正—駐車施設の付置義務区域の拡大および設置基準の強化／糸井恒夫 3
大阪府建築基準法施行条例の改正／志摩宣彦…4
「川西市遊技場及びホテルの建築の規制に関する条例」の制定／杢田　功……6
尼崎市建築物における駐車施設の附置等に関する条例／岡野　清……7
「京都市まちづくり審議会」答申と今後の京都の景観対策／苅谷勇雅……8
大阪府建築基準法施行細則の改正—福祉のまちづくりに向けて、技術基準等を設ける／志摩宣彦 8
「姫路市中高層建築物の建築に係る紛争の予防及び調整に関する条例」の制定・施行／下村喜朗 9
改正大阪府建築基準法施行条例を11月1日から施行—福祉関係規定の府下統一の運用基準の詳細／浅田行則……9
木造3階建共同住宅等の技術基準等—改正基準法政令制定を目前にして—／熊田典彦……10
大阪府建築基準法施行条例(自動車車庫関係規定)の一部改正／浅田行則……11
兵庫県福祉のまちづくり条例／樋口正昇……12

構造の頁

200. FR鋼の利用／丸岡義臣……1
201. ステンレス鋼柱の構造設計／足立直行……2
202. 鋼構造の設計／生産における汎用3次元モデルCAD／CAMアプリケーション／山本義行……3
203. 花博政府苑生活未来棟PCフレーム破壊実験／近藤一雄・土居健二・新谷晃崇……4
204. ハイアット・リージェンシー・オーサカ建設工事の地盤改良／久保　章・田中耕太郎…5
205. アメリカの建築構造視察／瀬川輝夫……6
206. 尼崎郵便局RC造円筒シェル屋根の載荷破壊実験／種村　晋・原沢堅也……7
207. 鉄骨曲りの梁の設計・施工／足立直行……8
208. りんくうゲートタワービルの構造設計／原克巳……9
209. 山留めH形鋼を利用した支持杭工法の開発／加倉井正昭……10
210. 超高層建築物の風洞実験／西村宏昭……11
211. アフターボンド工法／南　敏和……12

設備の頁

201. 新しい台所・浴室の器具／園田一徳……1
202. 遠赤外線パネルヒーター／小林　朗……2
203. 体感温熱環境制御用センサー／古川良知…3
204. インテリジェント吸収冷温水機／吉井一寛 …4
205. ソーラーエアコンの開発／小倉一雄……5
206. 緊急離着陸場と照明／小浜孝司……6
207. 統合配線システム「I³—CS」／田村昭彦 …7
208. 発光ダイオードを組み込んだ光の造形物の制御システム／高木　寛……8
209. 大阪市における窒素酸化物対策—低NOx機器促進事業／壺井貞志……9
210. ㈱照明学会技術基準 JIEC—001(1992)“オフィス照明基準”／高橋貞雄・五十里朋子 …10
211. 「時間帯別電灯」料金制度と配線設計上の留意点／中村秀夫……11
212. 高効率の空調機—プラグファン内蔵空気調和機—／鍋島　叁……12

施工材料の頁

180. 万能大口径削孔工法／秋山一郎……3
181. 水酸化アルミニューム混入塩化ビニル樹脂発泡板／曽田　勲……4
182. 水性シラン系浸透型吸水防止剤／阿知波政史・谷川　伸……5
183. クイックスプレー工法（超速硬化ウレタン吹付工法)／川端和久……9

大先輩に聞く

堀内三郎／伊藤郁郎……2

being

大島勝寛／本多友常……2

Gallery

ギャラリー　キミ／藤岡　新……2
空間に彩る光／大久保久能……9
自然性の論理／谷川　勲……10
住宅3題—住居考／阿久津友嗣……11

W

Walking-建築家おすすめデートスポット：北村陸夫……1
Watching—都市の風景—ウィンドーショッキング—……2
Watching—都市の風景—WATER BACK……6
Welcoming—行政の女性建築職……8

書評・ブックステーション・新刊紹介

書評
「高齢者住宅の企画と設計」マーティン・ヴァリンス著　湯川利和訳　明るく豊かな高齢社会の住まいづくりは？／荒木兵一郎……1
アルド・ロッシ『都市の建築』「書」評／安原盛彦……2
『建築の形態言語』—デザイン・計算・認知について／塚口明洋……3
『都市開発を考える—アメリカと日本—』(大野輝之．レイコ・ハベ・エバンス著)／増渕昌利……5
「中井家大工支配の研究」谷　直樹著　日本の建築社会の形成過程を歴史的に考察—現代を考えるすぐれた合せ鏡／永井規男……7

ブックステーション（短評）
「アメリカンランドスケープの思想」「建築の黙示録」「御堂筋ものがたり」「建築夜楽校'90　建築空間と想像力」「時間のニューパラダイム」／稲木裕子・大沢智弘……1
「てくてくあーきてくと　英訳版—女性建築技術者からのメッセージ—」「場所との対話」「建築を考える　1」「オフィスインテリアのプランニング&デザイン」／稲木裕子……2
「京都・南座の記録」「リゾート再生と地域振興」「建築家たちのヴィクトリア朝」「生態都市の発想」「現代建築ポスト・モダン」「あかりの百科」／稲木裕子・大沢智弘・佐野　洋・山寄章子……3
「別冊宝島150　家は建つ！」「COLABO　季刊・第2号」「ホテル開発の21世紀戦略」「茶室平面集」／稲木裕子……4
「商都のコスモロジー」「SD選書214　アメリカ建築の巨匠たち」「ゴシックということ」「住まいの衣裳学」「まちをつくり　まちをはぐくむ」「月刊太陽4月号　特集：建築の近未来」「商空間のための数寄屋デザイン」「陰翳礼讃」／伊藤郁郎・稲木裕子・増渕昌利……6
「建築ノート」「森の精ホテルで」「フランク・ロイド・ライトと広重」「建築物のLC評価指針　建築物のLC評価用データ集」〔セット〕／稲木裕子・大沢智弘……7
「同時代ライブラリー104　ソシュール」「住まい学大系/047　風景としての建築」「近代ロンドン物語」「都市ストックを創る」／稲木裕子・塚口明洋……9
「SDライブラリー13　ミース再考—その今日的意味」「都市のミューズランド」「安藤忠雄の都市彷徨」／伊藤郁郎・稲木裕子……11

新刊紹介
「木づくりの常識非常識」(上村　武著)／志賀咲穂……5

建築と社会 第73集 1992年(平成4年1月号—12月号) 総目録

号

"緑の技法"を学ぼう—瀧光夫著『建築と緑』から—／川崎公雄 ……11

INFORMATION

大阪JC建築クラブ会員大会開催．JICX大交流会「歩くデータバンク」開催．ヨコハマ都市デザインフォーラム国際会議—1992年3月16日から4日間—．「住宅・建築省エネルギーフォーラム」2月に開催．INAXギャラリーKIOSK展 …1
芸術文化センター街区プロポーザル募集．「居住空間の未来を探る」フォーラム．河口龍夫展．布絵フィールドワーク—岡本靖子の手法展 ……2
連続公開講座「都市」(フジタ都市講座)、4月はフランチェスコ・ダル・コ氏の講演．インターコミュニケーション'92『脱着するリアリティ』入江経一＋藤幡正樹．「第4回建築省エネルギー賞」決まる ……3
『'92住宅設備展／ホーム・アメニティ』開催．JIA'92まちづくりセミナー「関西で都市の未来がみえてくる」．中国建築学会一行を迎える—日本建築協会と交流—．住宅の省エネルギー基準、12年ぶりに改正．第3回公共建築賞決まる．川島織物文化館主催の「澤部清五郎展」．『ル・コルビュジェ展』．「'92 TAKENAKA DESIGN OSAKA」．建築セミナー「村野藤吾に学ぶ」．TOTO AQUA HUMANIA '92開催 …4
「建築物に付属する緑化指導指針」—大阪市で制定—．安藤忠雄建築展「新たなる地平に向けて—人間と建築と自然—」．「町屋型共同住宅に関する市民提案募集」入選作品集配布！．ART BOX NAGOYA '92．「大坂の細工見世物」．『自然派建築の試み』刊行．「病院建築賞」の創設と第1回受賞作品．第4回横浜まちなみ景観賞 ……5
JIAの第1回関西建築家大賞は出江寛氏．「都市環境デザインフォーラム・関西」開催．「第5回国際デザインキャンプ'92-松本」を8月に．第4回「タキロン・国際デザインコンペティション」、テーマは「風」．「土屋壽満さんの二十五周年を祝う会」．ディラー＋スコフィディオ建築講演会&作品展—GALLERY・MA運営委員会．「病院建築のルネッサンス展—聖路加国際病院のこころみ—」．平成4年度「大阪市ハウジングデザイン賞」推薦募集．「環境の色彩」—京都の都市景観の在り方を探るパネル展とトーク—．AQUA-HUMANIA'92．……6
第17回吉田五十八賞決まる．神戸・狩口地域センター公開コンペ入賞決まる．「ルイス・カーン—建築の世界—」展．群馬県立近代美術館で開催．『都市開発コージェネレーションシステムシンポジウム』開催．アーキテクチュア・フェアKOBE学生設計競技．スウェーデン環境対策視察ツアー．「バブルが創る都市文化—バブル経済を都市づくりから検証する—」関西設計者会議第4回公開シンポジウム．「企業と行政のパートナーシップによる街づくり—六甲アイランドCITYプロジェクト—」建築学会近畿支部 ……7
平成4年度BELCA賞の募集．第2回病院建築賞募集．「病院建築に関する研修会」開催．『建築パース』の国家検定試験．建築新技術展／国際セミナーA/E/C SYSTEMS JAPAN'92．「村野藤吾に学ぶ」セミナー．第6回建築デザイン会議'92 in KUMAMOTO．「建築への思索展—INAX REPORT 100の視点」．第7回神戸市建築文化賞．国際パブリックデザインフェアNAGOYA'92．平成5年度博士後期課程学生募集．平成4年度「住宅月間」の実施について． ……8
「安藤忠雄建築展」ふたつの催し．『都市再開発コージェネレーションシステムシンポジウム』大阪開催．「住宅における結露防止設計・施工方法講習会」開催．第10回まちづくり設計競技．木造住宅設計デザインコンペ入選作品決まる．国際デザイン・コンベンション'92—新潟市と福山市で11月に開催．'92住宅設備展／ホームアメニティ開催—日本建築協会協賛— ……9
「建築改修工事共通仕様書」等講習会の開催．デザイン・コンペ大阪'92作品募集．第3回エス・バイ・エル住宅設計コンペ—「チャールズ・ダーウィンの家」．大阪で福祉のまちづくりシンポジウム開催—参加者を募集—．柳々堂創業100年記念シンポジウム『大阪未来世紀』．千里ニュータウン30周年記念『21世紀の都市像シンポジウム』．第2回AFシンポジウム「建築戦争が始まる」．槇文彦講演会「都市と建築」—神戸芸術工科大学特別公開講座．安藤忠雄建築展：新たなる地平に向けて—水の都・大阪— ……10
アーキテクチュア・フェアKOBE学生設計競技入選作品決まる．TAKENAKA ART FORUM'92開催—地球環境をテーマに—．職業能力開発校『東京サーモテクノスクール』、来年4月開校．GALERIE TAISEI展覧会『ル・コルビュジェ展』．INAXギャラリー大阪企画展「金鯱展」．第12回大阪まちなみ賞 ……11
第3回みどりの景観賞(大阪施設緑化賞)決まる．中嶋龍彦：思考と創作—ドローイングと模型展—．「ホスピタリティー・デザイン」．第23回A＋E FORUM開催．「住宅・建築省エネルギーフォーラム」開催．筑波大学の卒業展をつくばで．マルチメディア「MPS」誕生．ビデオ「ル・コルビュジェ」発売 ……12

号

リポート

北欧の都市と建築(2)—スウェーデン・ストックホルム／中島一 ……1
「京都の街の色」シンポジウム／村上幸三郎 ……1
北欧の都市と建築(3)—フィンランド・ヘルシンキ(I)／中島一 ……2
北欧の都市と建築(4)—フィンランド・ヘルシンキ(II)／中島一 ……3

日本建築協会事業リポート

見学会
九州話題建築見学会—今、博多・熊本が面白い—／森田芳次・長瀬博一・武部由起子 ……2
出版委員会
21世紀を見つめる『インテリアコーディネートの100ポイント』研修会参加記／山田修 ……4
自然環境を見つめた『木づくりの常識非常識』研修会参加記／山田修 ……8
『アイ・アイ・ランド』の空間／安田 孝 ……12
若い会員の集い小委員会
坂本龍馬記念館の設計をめぐって—高橋晶子氏講演会—／松隈 章 ……4
「イスラムの建築を訪ねて」 ……4
海外研修旅行・世紀末ふたたび—中欧の建築を訪ねる—／米井 寛・西尾直子・河南重雄・笹村欽也・本間利雄・服部正毅・岡崎 誠・倉渕奈千子・依光駿介・久保田進也・神津信太郎・松岡勝幸・岡橋作太郎 ……12
教育委員会
日本建築協会東海支部主催「建築工事実務講習会」盛況／寺本英一 ……12

ART PROCESS

存在・写真・リアリティ 横溝秀実・大島成己／竹村楊子 ……1
抽象と具象 中島一平 栗岡孝於／竹村楊子 ……3
コンセプチュアルアート 椎原 保・谷内恒子／竹村楊子 ……5
抽象と感性 奥田善巳・木下佳通代／竹村楊子 ……7
場とスケール 山本哲三・榎 忠／竹村楊子 ……8

新建材紹介コーナー

フェローデッキ(鉄筋組込捨型枠)／小幡義明 ……1
ボーラル ブリック&ペイパー／元木貞次 ……2
カルチャードストーン／元木貞次 ……3
ダイアリード CFRC／松本 章 ……4
大型セラミック外装材・大型セラミックパネル／米川清水 ……6
複合システム天井／松本 章 ……7
簡易型自動消火装置／松本 章 ……8
ダブルアール ……10
ゲルフィットロープ(ベントナイト系止水材)／松本 章 11
アクソナイト&エルコ(超耐久性高分子エマルション)／松村勝実 ……12

GBRCニュース

新規購入機器紹介／熱分析装置 ……1
京都分室/コンクリート試験用全自動100tf油圧式圧縮試験装置 ……2
1000tf構造物圧縮曲げ試験機の自動制御化 ……3
新規購入機器紹介—絶対法熱伝導率測定装置 ……4
赤外放射温度計熱画像処理システム ……5
お知らせと平成4年度の事業計画 ……6
ビル風対策の考え方 ……7
建築技術安全審査会評価・審査完了案件一覧 ……8
建物を調べる—あなたの建物は健康ですか？調査・診断 9
新規購入機器紹介—紫外線フェドメーター ……10
全自動100tf油圧式圧縮試験装置の導入・水質試験およびセメントの物理試験室の開設—大淀分室の施設紹介 ……11
建物の火害診断手法—火災を受けたコンクリートの受熱温度推定方法 ……12

雑

年頭のことば
1992年を迎えて／会長・佐野正一 ……1
本年の抱負
常設委員会／溝神宏至朗・多井幸男・須賀好富・片倉健雄・

号

金井弘次 ……1
デザインコンクール
第37回工高生デザインコンクール(景勝地に建つ駅) …1
デザインコンクール
大阪府公共建築設計コンクール「ちょっとおしゃれなYU・MEの派出所」 ……3
協会だより
平成3年度建築科優秀卒業生表彰 ……4

追悼文

井手正雄氏を偲ぶ／河島勝三 ……3
白石登喜男氏を偲ぶ／東畑謙三・藤木鐵三・佐野正一 …5
山田幸一先生を偲んで／堀内三郎・木村寿夫 ……10

会告

グリーンセミナー鷲尾金弥氏を囲んで．坂本龍馬記念館の設計をめぐって—高橋晶子氏講演会—．伊丹市アイフォニックホールと白雪酒造蔵を訪ねる．神戸地方・簡易裁判所合同庁舎見学会—近代建築再生シリーズ—．ミズノ大阪本社ビル見学会．オーキッドコート三沢亮一氏、三瓶民雄氏に聞く．21世紀を見つめる『インリアコーディネートの100ポイント』ほか ……1
グリーンセミナー鷲尾金弥氏を囲んで(第2回)．『オーナークラスの経営と戦略研修会』．大阪公共建築フェア"ふくらまそう、夢 輝かそう、おおさか" ……2
監事並びに本部所属評議員の当選．名誉正会員56名が推挙される．世界建築博覧会プレイベントトリエンナーレ奈良1992．海外研修旅行「世紀末ふたたび—中欧の建築を訪ねる—」．ニュービルディング関西'92開催．「建築工事共通仕様書」—日本建築協会でも頒布 ……3
定時評議員会決議のお知らせ．『工高生デザインコンクール入選作品集』発行．日本建築協会新入会者ご斡旋のお願い．ギャラリー・「間」建築講演会．「KOBEインターホーム'92」 ……4
通常総会開催通知．会員の受賞．日本建築協会新入会者ご斡旋のお願い．千里ライフサイエンスセンター見学会．「プロのノウハウ」講座シリーズ—自然環境を見つめた『木づくりの常識非常識』．音楽と建築vol. 2 森のホール・バロックコンサート ……5
「PLATFORM」から「再春館製薬女子寮」へ—妹島和世氏講演会—．音楽と建築vol. 2．森のホール・バロックコンサート(再録)．平成4年度日本建築協会役員会務分掌・評議員・支部長・特別委員会委員・常設委員会委員．大阪都市景観建築賞推薦募集と併設行事 ……6
神戸ハーバーランド見学会．梅田スカイビル建設工事見学会．P&G日本本社建設工事見学会．都ホテル東新館見学会．通常総会決議報告．定時評議員会決議報告．会員の受賞．「蓄熱空調フェア」—日本建築協会協賛—．平成4年度建築工事実務講習会．平成3年度事業報告書・決算報告書 ……7
青年技術者のみなさまへ—「第39回青年技術者特集号」への応募—．建築工事実務講習会—東海支部—．一建築と緑—瀧光夫氏講演会とシャープ労働組合研修レクリエーションセンター『アイ・アイ・ランド』の見学．くまもとアートポリス大阪展．都ホテル東新館見学会(再掲)．阪急茶屋町ビルディング(ちゃやまちアプローズ)見学会．平成4年度日本建築協会支部通常総会報告．日本建築協会支部役員 ……8
ホテル川久 永田祐三氏に聞く．ブレーンセンター風の万華鏡 新宮 晋氏に聞く．兵庫県公館(迎賓館、県政資料館)見学会．第2回大阪府公共建築設計コンクール—課題：緑・光あふれるさわやかトイレ—．「プロのノウハウ」講座シリーズ—建築と緑—瀧 光夫氏講演会とシャープ労働組合研修レクリエーションセンター『アイ・アイ・ランド』の見学(再掲) ……9
第3回「日本建築協会賞」候補業績の応募、推薦．関西国際空港建設現場見学会．宝塚大劇場(II期)見学会．桜宮リバーシティウォータータワープラザ・タワープラザアベニュー講演会＋見学会．臨時評議員会決議報告．日本建築協会副会長会務分掌．'92建築関係団体合同忘年懇親会．'93建築関係11団体合同新年交礼会．日本建築協会の後援シンポジウム．現化建築家ビデオシリーズ． ……10
会員の受賞．'92建築関係団体合同忘年懇親会．'93建築関係11団体合同新年交礼会．第38回工高生デザインコンクール入選者発表—設計課題：郊外に建つショールーム—．日本建築協会入会者ご斡旋お願い．日本建築協会後援・協催の催し． ……11

月報

日本建築協会月間の動き(平成3年11月～平成4年10月分) ……1

「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和47年～平成4年

「建築と社会」誌は昭和42年からA4変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は980円（消費税込）。購読希望者は事務局（06—348—0635）へ。

＊は欠号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	都市交通問題	水利用	量産住宅の設備	一般号（桂中学）		都市住環境へのアプローチ	都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	大阪大林ビルディング	レジャーと施設	大阪国際ビルディング	老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギー化	高層プレハブ住宅の構造設計	みどり	屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	東海の新建築	インテリア	PC板を使用した工業化住宅	社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	集合住宅の設備
昭和51年（57集）	証言'76—建築デザインの動向	建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	日影規制と法	身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	水	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料	電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年（61集）	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	職能論	中国の論文—北京の都市計画	ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法—安全な環境をめざして	都市住宅—住まい手からの発想	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設—地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観—まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第一期）	音とホール建築	大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年（64集）	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法・制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生み出す文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる	屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発 ●ツイン21	CAD—その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（67集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	第34回青年技術者
昭和63年（69集）	ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	建物の外装リフレッシュ	都心居住	中国地方の展望とひろしまのまちなみ	21世紀への照明	制振	超高層住宅を考える	●大阪府営繕 ●集合住宅のリフレッシュ	●第35回青年技術者 ●800号記念	讀賣テレビ
昭和64年平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備	●竹中工務店創立90周年記念 ●リゾート事情	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料・工法	まちづくりと法	博覧会とまちづくり	都市環境創造と設備Ⅰ	建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	第36回青年技術者	最近の博覧会パビリオン
平成2年（71集）	商業化住宅のデザイン	ニュータウン・ルネサンス	東海の都市景観	スケール感	プレハブ住宅技術の現在と未来	国際花と緑の博覧会	建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	高強度化—設計の多様化をめざして—	やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営緒の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観	感性の時代を迎えての外装材
平成3年（72集）	新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりII ●建築の風景	東海支部復活30周年記念	大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルにおけるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
平成4年（73集）	夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	建築とデザイン—東海支部—	建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	地球環境時代の建築	街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	接着—建築分野への限りなき可能性	中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	いま建築教育に何が期待されているのか	京のかたちと色—京都支部創設45周年記念—

日本建築協会

月間の動き

平成4年10月分

理　事　会

第5回定例理事会
28日　4時～4時40分　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか26名
議事　(1)常務理事選任の件
(2)企画委員会委員変更の件
(3)第3回日本建築協会賞選考委員会委員委嘱の件
(4)第3回日本建築協会賞推薦依頼の件
(5)職員の退職並びに採用の件
(6)協賛名義使用の件
(7)入退会者承認の件

企　画　委　員　会

第2回委員会
8日　1時半～3時　於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか5名
議事　(1)第3回日本建築協会賞の募集方法
(2)第3回日本建築協会賞の対象範囲及び対象期間

編　集　委　員　会

第7回作品作風小委員会
1日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　前川副委員長代行ほか6名
議事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」掲載報告・予定
(4)作品選定の「判断規準」について
第7回設備分科会
5日　6時～9時15分　於本会会議室
出席者　藤岡茂・瀬戸良昭・中野格・日根東治・山根敏和・中村秀行・中村秀夫の各氏　梶井幹事ほか5名
議事　「建築家のための設備知識」単行本の具体化
第7回会員企画小委員会
6日　6時半～8時15分　於本会会議室
出席者　稲木副委員長代行ほか2名
議事　(1)（シリーズもの）の報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
平成4年度　拡大編集委員会
8日　6時～8時40分　於本会会議室
出席者　東顧問、溝神委員長ほか7名
議事　レイアウト刷新案、その他
第3回計画系分科会
12日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか2名
議事　計画系特集の企画
第8回構造分科会
20日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　二宮幹事ほか3名
議事　(1)「建築と社会」誌面刷新の件
(2)「建物の改修」（仮称）特集の企画
(3)「構造の頁」の企画
第7回広告企画小委員会
27日　4時～5時20分　於本会会議室
出席者　溝神委員長ほか5名
議事　収支状況報告、その他
第8回設備分科会
28日　6時～9時15分　於本会会議室
出席者　梶井幹事ほか6名
議事　(1)「設備の頁」の経過報告
(2)3月号「劇場の設備」特集の企画
(3)「建築家のための設備知識」の単行本化
(4)誌面レイアウト刷新の件

事　業　委　員　会

第5回若い会員の集い小委員会
6日　6時半～9時半　於本会会議室
出席者　三好、杉本両副委員長ほか6名
議事　(1)前回事業委員会報告
(2)実施報告
(3)今後の予定について
(4)米井寛委員の時間
第2回広報第1分科会
15日　6時45分～8時　於本会会議室
出席者　奥村幹事ほか4名
議事　(1)実施報告
(2)今後の企画について

建　材　委　員　会

第6回委員会
14日　3時半～5時半　於本会会議室
出席者　和田委員長ほか9名
材料説明：アクソナイト（アクリル樹脂エマルション）／担当：松村委員
議事　今後の検討建材

出　版　委　員　会

第6回委員会
22日　5時～6時　於本会会議室
出席者　山田副委員長ほか5名
議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)「プロのノウハウ」講座シリーズ
第4回「水にまつわるトラブルの事例・解決策」小委員会
22日　2時～4時半　於本会会議室
出席者　山田副委員長、上原小委員長ほか10名
議事　「水にまつわるトラブルの事例・解決策」

教　育　委　員　会

第1回工高生教育小委員会
14日　5時半～8時15分　於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか6名
議事　(1)本年度・第38回工高生デザインコンクール応募作品の予備審査
(2)審査会、表彰式の役務分担
(3)表彰式後の行事
第38回工高生デザインコンクール審査会
24日　1時半～8時15分　於本会会議室
出席者　西村審査委員長ほか10名
片倉・和田教育正副委員長ほか7名
応募作品　136点(24校)を審査、入選作10点を選出
第2回講習会小委員会
28日　6時～7時　於本会会議室
出席者　橋目講師（竹中工務店）、藤井講師（大林組）、金田副委員長ほか6名
議事　(1)建築工事実務講習会大阪開催実施報告
(2)建築工事実務講習会地方開催実施報告
(3)アンケート結果の分析
(4)次年度の事業計画

見　学　会

阪急茶屋町ビルディング見学会
8日　10時～12時半　参加者　49名
兵庫県公館見学会
27日　2時半～4時半　参加者　30名

話題建築を聞く

ホテル川久―永田祐三氏に聞く
19日　6時～8時半　参加者　47名
風の万華鏡―新宮　晋氏に聞く
26日　2時～4時　於大阪建設会館　参加者　42名

「プロのノウハウ」講座

瀧光夫氏講演会とシャープ労働組合研修レクリエーションセンター『アイ・アイ・ランド』の見学
13日　4時～7時　於『アイ・アイ・ランド』Ⅰ＆Ⅰホール
参加者　118名

建築工事実務講習会

〔東海支部開催〕
14日　9時半～5時　於昭和ビル・9階ホール
受講者数　124名
科目・講師
施工計画：岩田正弘氏(清水建設㈱名古屋支店)
仮設見積：佐藤達雄氏(㈱大林組名古屋支店)
積算業務：尾関友四郎氏(㈱竹中工務店名古屋支店)

建　築　ク　ラ　ブ

第246回朝食会
13日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
演　題　「水と健康」
講　師　吉住　美輪氏(短歌作家)　参加者　58名

建築関係団体合同忘年懇親会

事務局打合会
13日　1時～2時半　於大阪国際サイエンスクラブ
出席者　出利葉事務局次長ほか4名
議事　'92建築関係団体合同忘年懇親会の件
実行委員打合会
19日　3時～5時　於綿業会館
出席者　宮崎実行委員長ほか9名
議事　'92建築関係団体合同忘年懇親会について

建築11団体新年交礼会

事務局打合会
13日　11時半～1時　於大阪国際サイエンスクラブ
出席者　逸見事務長ほか14名
議事　(1)'92建築11団体新年交礼会収支決算報告
(2)'92建築11団体新年交礼会開催について
(3)会長、支部長午餐会の日程について

10月の入会者（敬称略）

〔団体会員1社〕
㈱ジオトップ広島支店
〔個人会員15名〕

落合　葉子（セキスイインテリア）	後藤　三男（鹿島建設）	近藤　善人（高木工務店長崎支店）
佐野　友保（佐野建築総合企画）	西郷　慈師（東畑建築事務所）	鈴木　浩（田中綜合設計）
谷川　勲（谷川勲建築研究所）	西田　浩造（ナニワ技建）	林　弘之（きんでん東京支社）
増田　俊哉（竹中工務店）	松元　巧（オガタ工藝）	宮田　浩光（凸版印刷）
宮地雄一郎（安井建築設計事務所）	山口　浩史（日本設計）	山田　保（山田保建築設計事務所）

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工
人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満３丁目６番１４号
電話　０６－３６４－６６６１(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３-３２１１-８５１１(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３ 電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話(352)１１３１(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２—22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　**電話大阪(458)3628番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満４丁目６番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・京都・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681)５１０１～５・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町２－１１１　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル１　2階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－５０３１　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（０６）７６８－１６５１　代表
東京支店　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
郵便番号112　電話（０３）５６８９－２３５１代表

大規模空間（天井金属パネル）に
地球を入れることはできませんが
地球規模の夢を入れることはできます

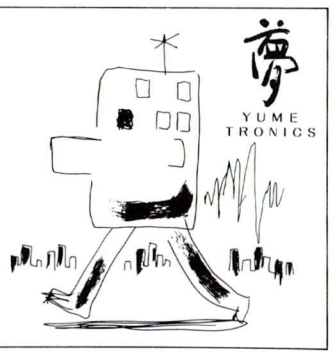
内外装創作パネル・システム天井・間仕切

OKUJU
スペース　クリエイター

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131 FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎

株式会社 オクジュー

さわやかに心豊かな生活空間づくり。



— 電気・計装・空調・土木 —

K栗原工業株式会社

本社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL.06(313)1101 FAX.06(315)0050
東京・東関東・横浜・名古屋・大阪南・神戸・広島・四国・九州・シンガポール

Carrier 冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キヤリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

まちに魅力にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納秀一

本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL.078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁389 TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06(385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(3574)0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771)6168

特殊壁装材製造販売 和室に最適

●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)

(株)ホクシンクロス

〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610

工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

支社長 馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

営業種目

●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可(般－53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)0701

(株)特殊技研

Construction chemistry for the future.

コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材

Master Builders Technologies

株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産

本社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

省エネルギー時代の断熱用シート防水材

日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610）

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯——コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所 TEL06(391)1081〜2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660
横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341
埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1−3−8（日本生命谷町ビル）
TEL（06）943−6571（代）
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3−4−5
TEL 06(792) 5858　FAX 06(792) 2810

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

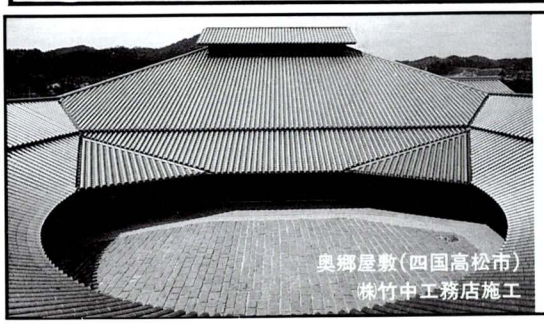
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06−532−0461(代表)
FAX.06−535−5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

ND
JAPAN ELECTRIC TYPESETTING CO.,LTD.

■情報処理　■編集・企画　■印刷・製本

日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1-7-23
TEL.06(357)1803㈹　FAX.06(357)4950



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 五六一〜七四五四
五六一〜七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
・鋼板製オリエンタルフネンシングル
・オリエンタルオリセラム
・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。



大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660 尼崎市昭和南通り３―26　電話大阪(06)412―5131㈹
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・姫路
東京本社及工場　〒335 蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42―3115㈹
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１

建築と社会
第73輯第12号

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635　FAX06(348)0634

TOYO Shutter

シャッター新世紀

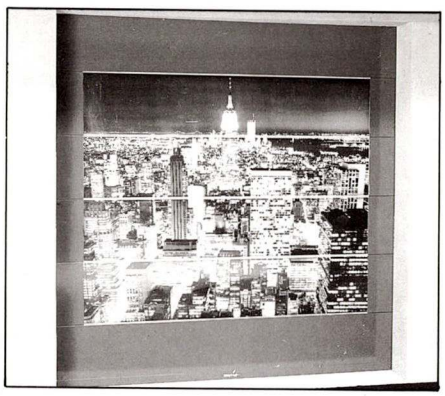
輝くのは、私です。

田中美奈子

新登場

シャッターに描かれたメッセージが、
閉店後のお店をアピール。

絵や写真、文字、ロゴタイプなどを使って自由に描けるスクリーンと、バックライトを、シャッターに組み込んだ〈アドビジョン〉。浮かびあがる美しいメッセージが、閉店後のお店を効果的にアピールし、前を通る人に、お店を強く印象づけます。
〈アドビジョン〉は、今、新しい時代の、新しい扉を開きました。



アドビジョン

東洋シヤッター株式会社
本　社／大阪市中央区常盤町1-3-8(日本生命谷町ビル)　〒540 TEL.06 943-6571㈹　東京本社／東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル)　〒106 TEL.03 3479-2911㈹

振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円 送料共 消費税一九円）